

27-8
C8
4

法令全書

省令

○外務省令第一號

明治三十三年外務省令第五號在外帝國領事館管轄區域中左ノ通改正ス

明治三十五年一月十一日

外務大臣小村壽太郎

在清國天津帝國領事館管轄區域ヲ在清國天津帝國總領事館管轄區域ニ改ム

在瀛洲シドニー帝國領事館管轄區域ヲ在瀛洲シドニー帝國總領事館管轄區域ニ改ムフジー
島ノ次ニ但瀛洲聯邦政府ニ關係スル事項ニ付テハ全瀛洲ヲ管轄スヲ加フ

在瀛洲メウンスヴギール帝國領事館管轄區域ノ次ニ兼轄 獨領ニューギニア、マリアナス群島(グ
アム島ヲ除ク)カロリナス群島、パルラウ群島ヲ加フ

在フヂリッピン群島マニラ帝國領事館管轄區域中兼轄 マリアナス群島(グアム島ヲ除ク)カロリ
ナス群島、パルラウ群島ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

在露國オデッサ帝國領事館管轄區域
歐羅巴露西亞

在北米合衆國紐育帝國領事館管轄區域ヲ在北米合衆國紐育帝國總領事館管轄區域ニ改ム

在北米合衆國ワシントン帝國領事館管轄區域ヲ在北米合衆國ワシントン帝國總領事館管轄區域ニ改ム

在英國倫敦帝國領事館管轄區域ヲ在英國倫敦帝國總領事館管轄區域ニ改ム

在伯國リオデジャネーロ帝國總領事館管轄區域ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

在加奈陀セントリール帝國總領事館管轄區域

明治三十五年一月 省令 外務省第一號

英領コロンビヤ州及西北テリトリヲ除キ其他ノ各州及各テリトリ
但加奈陀殖民地政府ニ關係スル事項ニ付テハ全英領加奈陀ヲ管轄ス
在加奈陀晚香坡帝國領事館管轄區域英領加奈陀ヲ英領コロンビヤ州及西北テリトリニ改ム

○大藏省令第一號

明治三十六年大藏省令第十九號預金取扱規程中左ノ通り改正ス

明治三十五年一月二十七日

大藏大臣曾根荒助

第三條ニ但通帳ハ一人一冊ニ限ルヲ十一字ヲ追加シ第三號書式ノ預金通帳中拂戻高主任者印ノ
下差引高ノ一欄ヲ增加ス

第二十四條但書ヲ法人タル府縣郡市町村會社等ニアリテハ擔當者ノ記名調印ヲ要セスト改ム
第二十五條中社宗教會會社ノ下ハ府縣郡市町村又ハ其他ノ法人ノ十三字ヲ追加ス

〔參照〕

大藏省令第十九號預金取扱規程(明治三十六年九月二十日抄録)
第三條 金庫ニ於テ前條ノ現金ヲ領收シタルトキハ第三號書式ノ預金通帳ニ記入調印シテ預金人ヘ交付ス
第二十四條 預金ノ受渡ニ關スル書類ニハ共有ニ係ルモノハ其總代人二名調印シ社宗教會會社ニアリテハ其名稱ヲ記シ
且押印ヲ爲シ此擔當者一名記名調印スヘシ但法人タル會社ニアリテハ擔當者ノ記名調印ヲ要セス
第二十五條 前條ノ社宗教會會社ニシテ其名稱變更改訂或ハ地位移轉シタルトキハ其旨金庫ヘ届出ヘシ擔當者總代人氏名變更
改印調印ノトキ亦同シ
前項改印ノ周書ニハ印鑑ヲ添フヘシ

○陸軍省令第一號

明治三十一年陸軍省令第十六號中左ノ通り改正ス

明治三十五年一月二十九日

陸軍大臣野崎兒玉源太郎

第十二憲兵隊門司憲兵屯所位置ノ區畫庄司ヲ祇園町一丁目ニ改ム

○海軍省令第一號

海軍出身志願者身體検査格例左ノ通り定ム

明治三十五年一月十三日

海軍大臣山本權兵衛

海軍出身志願者身體検査格例

第一條 海軍出身志願者身體検査ニ於テ合格トスヘキモノ左ノ如シ

一 甲種 身體強健精神異常ナク全身ノ發育對稱完全ニシテ海軍軍人ノ服役ニ適スルモノ

一 乙種 甲種ニ亞クモノ

第二條 左ノ各號ニ該當スルモノハ不合格トス

一 高等武官、各候補生、學生軍醫學生、齒科學生、主計學生、造船學生、生徒、兵學校生徒、機關學校生徒記志願
ノモノニ在テハ身長五尺、體重十二貫目、胸圍二尺五寸二分、胸廓擴張一寸八分、活量二千八百
立方仙迷百七十一、立力英寸ニ達セサルモノ但シ生徒志願ノモノニシテ十七年未滿(検査時ノ年)ナル
トキハ體重十一貫五百目、胸圍二尺四寸八分以上ニシテ發育ノ見込アルモノハ合格ト爲スコ
トナルヘシ

二 水兵、機關兵、鍛冶看護志願ノモノニ在テハ身長五尺二寸、體重十三貫目、胸圍二尺六寸、胸廓
擴張二寸、活量三千立方仙迷百八十三、立力英寸ニ達セサルモノ但シ十七年未滿ナルトキハ身長五尺
一寸五分、體重十二貫五百目、胸圍二尺五寸五分以上、十八年未滿ナルトキハ身長五尺一寸七
分、體重十二貫七百目、胸圍二尺五寸七分以上ニシテ發育ノ見込アルモノハ合格ト爲スコト

- アルヘ
- 三 水工、主厨志願ノモノニ在テハ、身長五尺、體重十二貫五百目、胸圍二尺五寸五分、胸廓擴張一寸八分、活量三千立方仙迷百八十三立方英寸ニ達セサルモノ
- 四 軍樂生志願ノモノ十七年未滿ニ在テハ、身長五尺、體重十二貫目、胸圍二尺五寸、胸廓擴張一寸八分、活量二千八百立方仙迷百七十一立方英寸ニ達セサルモノ、十七年以上ニ在テハ、身長五尺一寸、體重十二貫五百目、胸圍二尺五寸五分、胸廓擴張二寸、活量二千九百立方仙迷百七十七立方英寸、十八年以上ニ在テハ、身長五尺二寸、體重十三貫目、胸圍二尺六寸、胸廓擴張二寸、活量三千立方仙迷百八十三立方英寸ニ達セサルモノ
- 五 身長、體重、胸圍及活量、前諸號ノ規定ニ違スルモノ著シク其ノ交互ノ對稱ヲ失スルモノ
- 六 身體發育ノ不全、體質ノ薄弱、傷痕、疾病ニ起因スル全身衰弱
- 七 白痴、精神異常、言語障礙、知覺及運動麻痺
- 八 全身皮膚殊ニ頭皮ノ慢性病、膿瘻、疥癬及外傷等ノ痕跡著シキモノ
- 九 頭部、面部、頸部ノ畸形及著シキ醜形、頭蓋骨折傷、陷凹、斜頸、頸腺ノ腫大
- 十 視力二十ノ二十二ニ達セサルモノ、瞳色不全、斜視、淚管痙攣、眼瞼下垂或ハ翻轉、但シ軍醫官、藥劑官、主計官、造船官、造兵官、少軍醫候補生、少藥劑士候補生、少主計候補生、及學生志願ノモノニ在テハ、視力五十ノ二十以下、筆記志願ノ者ニ在テハ、視力三十ノ二十以下ノ近視ハ合格トナスコトアルヘ
- 十一 雙聽力遲鈍、鼓膜鼓室ノ疾病
- 十二 鼻骨、鼻軟骨ノ疾病、鼻茸、鼻粘膜炎ノ慢性病

- 十三 咽喉、口、舌、口蓋及舌ノ疾病、齒根及齒質不良若ハ齒數不足大齒齒ニ在テハ三齒以上其ノ他齒之ヨリ經過スルモノ上下顎齒牙對向ノ狀況、填塞、齒齦、齒肉ノ有無ヲ酌量シテ合格トナスコトアルヘ
- 十四 胸廓ノ畸形、扁平、陷沒、呼吸短促、聲音嘶啞、呼吸器及血行器ノ疾病
- 十五 腹部ノ腫脹、膨滿、腹輪ノ弛緩、脫腸、胃腸脾肝腎等ノ疾病
- 十六 下疳、疥癬、尿道狹窄、尿道瘻、辜丸副辜及精系ノ疾病
- 十七 痔疾、痔瘻、脫肛、扁平、コンヂロマ
- 十八 四肢ノ薄弱、畸形、又ハ傷痕、疾病ニ起因スル歪形、關節運動ノ障礙、靜脈怒脹、著シキ扁平足
- 十九 脊梁及骨盤ノ畸形、又ハ傷痕、疾病ニ起因スル歪形、運動ノ障礙
- 二十 前諸號ノ外急治ノ目的ナキ傷痕、疾病
- 二十一 遺傳性及發作性疾病ノ證據アルモノ
- 第三條 前條ニ掲ケルモノ、内輕症ニシテ風土氣候ニ關セズ海軍軍人ノ服役ニ堪ユル見込アルモノハ合格トナスコトアルヘ
- 體動ニ障礙ナキ瘦體、肥體、體毛過元、軀幹若ハ四肢ノ不同、膝内彎、膝外彎、齒牙及消食器ノ異常、精系、靜脈怒脹等輕度ノモノハ成年者ニ限リ合格ト爲スコトアルヘ
- 第四條 高等武官、各候補生、學生、志願ノモノニ在テハ、第二條第六號以下ノ諸狀況アルモノ其ノ輕度ノモノハ職務ヲ參酌シテ合格ト爲スコトアルヘ
- 海軍省令第二號
- 海軍志願兵徵募細則中左ノ通改正ス

明治三十五年一月十三日

海軍大臣山本權兵衛

第六條中「筆記」ヲ「上等筆記、筆記若ハ書記」ニ「看護手」ヲ「看護手若ハ看護」ニ改ム
第十三條ヲ削除ス

(參照)

海軍省令第三號海軍志願兵徵集細則(明治三十一年四月二十七日)抄錄

第六條 留守府司令長官ハ海軍兵志願者検査ノ爲必要ニ應シ兵隊官及軍醫官ヲ派出シ左ノ諸員ヲ隨行セシム

筆記

一名

看護手

一名

軍醫官以下諸員ハ兵隊官ノ指揮ヲ受ケ服務ス

第十三條 志願人身長左ノ定尺ニ達シ身體健全強健精神異常ナキ者ヲ身體検査合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス

一 水兵、海軍兵、看護志願者ニ在テハ五尺二寸

二 軍醫志願者ニ在テハ齒列齊正ニシテ五尺

三 木工、鍛冶、主府志願者ニ在テハ五尺

○海軍省令第三號

本年勅令第五號ニ依リ當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ嘱托ニ就テハ東京府下ニ在テハ海軍省經理局長其ノ他ハ所管領守府經理部長ヲ指定ス

明治三十五年一月二十三日

海軍大臣山本權兵衛

○文部省令第一號

明治二十六年文部省令第十六號實業補習學校規程ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治三十五年一月十五日

文部大臣理學博士菊池大麓

實業補習學校規程

第一條 實業補習學校ニ於ケル教科目ノ修業期間及教授時數ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ム

第二條 實業補習學校ニ於テハ土地ノ情況及職業ノ種類繁閑等ニ依リ生徒ノ修業ニ最モ便宜ナル時間及季節ヲ擇ヒ教授スヘシ

第三條 實業補習學校ノ教科目ハ修身、國語、算術及實業ニ關スル科目トス但シ修身ハ國語ニ附帶シテ教授スルコトヲ得

前項ノ教科目中國語、算術ハ之ヲ闕キ又ハ土地ノ情況ニ依リ他ノ教科目ヲ加フルコトヲ得
修身、國語、算術及前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

國語ハ讀書、作文、習字ニ算術ハ算珠算ニ分チ生徒各自ノ志望ニ依リ其ノ一事項若ハ數事項ヲ教授スルコトヲ得

實業ニ關スル科目ニ就キテモ便宜數事項ニ分チ生徒各自ノ志望ニ依リ其ノ一事項若ハ數事項ヲ教授スルコトヲ得

第四條 實業ニ關スル科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

一 工業ニ關シテハ物理、化學、圖畫、模型、幾何、製圖、圖案、力學、材料、工具、製作ノ類

二 農業ニ關シテハ物理、化學、博物、土壤、肥料、作物、耕耨、農具、病蟲害、園藝、養蠶、家畜、造林、丈量ノ類

三 水産ニ關シテハ物理、化學、博物、地文、漁撿、製造、養殖、漁船運用ノ類

四 商業ニ關シテハ商業算術、商業書信、商事要項、商品、商業地理、簿記、商業ニ關スル法令、外國語ノ類

前項ノ外或ル職業ノ爲ニ便宜其ノ科目ヲ定ムルコトヲ得

第五條 實業補習學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ尋常小學校ヲ卒業セサルモ學齡ヲ過ヤタル者ニ限り特ニ入學セシムルコトヲ得

第六條 實業補習學校ハ小學校實業學校又ハ其ノ他ノ學校ニ附設スルコトヲ得

第七條 實業補習學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學校ノ目的
- 二 修業期間ニ關スル事項
- 三 教授ノ季節ニ關スル事項
- 四 休業日ニ關スル事項
- 五 教科目及其ノ程度ニ關スル事項
- 六 教科目ノ教授時間及時數ニ關スル事項
- 七 入學退學ニ關スル事項
- 八 授業料等ニ關スル事項
- 第八條 實業補習學校ニ於テハ教科目、教授時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クヘシ
- 第九條 實業補習學校ノ教科目、修業期間、教授時數及季節ハ道廳府縣立ニアラサル公立學校ニアリテハ管理者、私立學校ニアリテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ但シ國庫ノ補助ヲ受クル學校ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 實業補習學校ノ名稱ニハ補習學校ノ文字ヲ附スヘシ

附則

第十一條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第十二條 明治二十七年文部省令第二十六號中實業補習學校ヲ削ル

〔参照〕

明治二十七年文部省令第二十六號ハ徒勞學校實業補習學校ニ於テハ便宜體操ヲ加フルコトヲ得ルノ件ナリ

○農商務省令第一號

種馬所種付規則左ノ通相定ム

明治三十五年一月二十五日

農商務大臣平田東助

種馬所種付規則

第一條 左ニ掲ケタル資格ヲ有スル牝馬ノ所有者又ハ管理者ハ種馬所ニ種付ヲ出願スルコトヲ得

一 年齢滿三歲以上ニシテ發育善良ナルコト

二 身幹四尺五寸以上ナルコト但體格特ニ優等ナルモノハ此限ニ在ラス

三 遺傳病又ハ惡癖ナキコト

四 體格優等、性質善良、體質健全ナルコト

前項ノ出願ヲ爲サントスルモノハ郡市役所ヲ經由シテ第一號書式ノ願書ヲ所轄種馬所長ニ差出スヘシ

第二條 前條ノ出願アリタルトキハ種馬所長ハ牝馬ヲ検査シ種付合格證ヲ下付スヘシ此種付合格證ハ一種付季節間其效力ヲ有ス

種付合格證ヲ有スル牝馬ニ非サレハ種付ヲ受クルコトヲ得ス

第三條 合格牝馬カ豫定頭數ニ達セサル場合ニ於テハ第一條第二項ノ手續ヲ經サルトキト雖モ種

馬所長ハ此馬ノ所有者又ハ管理者ノ請求ニ因リ臨時ニ之ヲ検査シ種付合格證ヲ下付スルコトヲ得

第四條 種付出願期日、検査及ヒ種付ノ期日及ヒ場所ハ種馬所長ノ通告ニ依リ地方長官之ヲ告示ス

第五條 種付ノ期日ニ種付ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ生シタルトキハ合格牝馬ノ所有者又ハ管理者ハ直チニ其旨ヲ種付所ニ届出ヘシ

第六條 優等種牝馬ヲ種付スルトキハ十圓以内ノ種付料ヲ徴收ス

前項ノ種牝馬及ヒ種付料ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ種馬所長之ヲ定ム

第七條 種付料ハ第二號書式ノ納付書ニ依リ初回種付ノ時ニ於テ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

納付シタル種付料ハ之ヲ返還セズ

種付ノ回数ハ種馬所長之ヲ定ム

第八條 左ニ掲ケタル事由ヲ生シタルトキハ種付牝馬ノ所有者、管理者又ハ讓受人ハ直チニ種馬所長ニ届出ヘシ二頭以上ノ種付牝馬ヲ所有又ハ管理スルトキハ種付合格證ノ番號ヲ届書中ニ記載スヘシ

一 出產前此馬ヲ讓渡シタルトキハ其讓受人ノ氏名住所

二 出產前此馬斃死シタルトキハ其年月日

三 出產シタルトキハ其年月日及ヒ產駒ノ性、毛色並ニ出產ノ時ニ於ケル身幹

四 流産シタルトキハ其年月日

五 受胎セサルコトヲ確證シタルトキハ其事實

六 產駒ヲ讓渡シタルトキハ其年月日、價額、讓渡ノ時ニ於ケル身幹及ヒ讓受人ノ氏名、住所又ハ種場ノ名稱

七 產駒斃死シタルトキハ其年月日

第九條 種付牝馬ノ所有者又ハ管理者ハ其產駒血統證ノ下付ヲ種馬所長ニ出願スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ種馬所長ハ種付合格證ノ效力ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

一 牝馬ノ疾病其他ノ事由ニ因リ種付ニ害アリト認メタルトキ

二 指定ノ種牝馬ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキ

三 當該官吏ノ指揮ニ従ハサルトキ

四 種付料ヲ納付セサルトキ

第十一條 種牝馬ノ疾病其他ノ事由ニ因リ種付スルコト能ハサルトキハ種馬所長ハ指定シタル種牝馬ヲ變更シ又ハ種付ヲ爲ササルコトヲ得

第十二條 第八條ノ届出ヲ怠リタル者、第十條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事由ニ因リ種付合格證ノ效力ヲ取消サレタル者又ハ種付牝馬若クハ產駒ノ飼養管理ヲ怠リタル者ニハ次年ノ種付ヲ許可セサルコトアルヘシ

第十三條 本則ノ規定ハ種馬牧場ニ於テ民有牝馬ニ種付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 本則施行前明治三十五年種付合格證ハ本則ニ依ル種付合格證ト看做ス

第一號書式

種付願

一 牝馬

二 種馬

三 毛色

四 年令

五 身幹

此地 父母系統
右實所種社馬控付相續候也

年月日

縣 郡 町 字 番地
所有者

氏 名 印

何種馬所長氏名殿
(備考) 特ニ管理者ヲ定メタル場合ハ其住所氏名ヲ記載スヘシ
第二號書式

種付料納付書

一金 圓 種付料納付書 種付料

(收入印紙)

右納付致候也

年月日

縣 郡 町 字 番地

所有者(又ハ管理者)

氏 名 印

何種馬所長氏名殿

○逓信省令第一號

明治二十年十二月 逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加ス

明治三十五年一月三十一日

逓信大臣子爵芳川顯正

大阪堺間金二十錢金十錢ノ次ニ

伊丹四ノ宮間	金二十錢	堺伊丹間	金二十五錢
大阪伊丹間	金二十錢	堺四ノ宮間	金二十五錢
西ノ宮神戶間	金二十錢	大阪四ノ宮間	金二十五錢
伊丹神戶間	金二十五錢	京都伊丹間	金二十五錢
		京都四ノ宮間	金二十五錢
		大津伊丹間	金二十五錢

逓信大臣子爵芳川顯正

堺伊丹間	金二十五錢	堺伊丹間	金二十五錢
堺四ノ宮間	金二十五錢	堺四ノ宮間	金二十五錢
大阪四ノ宮間	金二十五錢	大阪四ノ宮間	金二十五錢
京都伊丹間	金二十五錢	京都伊丹間	金二十五錢
京都四ノ宮間	金二十五錢	京都四ノ宮間	金二十五錢
大津伊丹間	金二十五錢	大津伊丹間	金二十五錢

大津四ノ宮間 金二十五錢 金十五錢

桑名大阪間金四十五錢金二十錢ノ次ニ

四日市伊丹間	金四十五錢	金二十錢
四日市四ノ宮間	金五十錢	金二十錢
桑名伊丹間	金五十錢	金二十錢
桑名四ノ宮間	金五十錢	金二十錢

名古屋堺間金六十錢金二十錢ノ次ニ

名古屋伊丹間	金六十錢	金二十錢
名古屋四ノ宮間	金六十錢	金二十錢

名古屋四ノ宮間 金六十錢 金二十錢

横濱堺間金一圓五十錢金二十五錢ノ次ニ

横濱伊丹間	金一圓五十錢	金二十五錢
横濱四ノ宮間	金一圓五十錢	金二十五錢

横濱神戶間金一圓六十錢金二十五錢ノ次ニ

東京伊丹間	金一圓六十錢	金二十五錢
東京四ノ宮間	金一圓六十錢	金二十五錢

○逓信省令第二號

明治三十三年四月逓信省令第九號在韓國本邦郵便電信局相互ノ間ニ發着スル電報ニ内國電信ノ規定ヲ準用スル件中第八號ノ次ニ左ノ一號ヲ追加シ來二月一日ヨリ施行ス

明治三十五年一月三十一日

逓信大臣子爵芳川顯正

九 和文電信受借報知料ハ一通毎ニ二三分ノ通常料金トス

○内務省令第一號
官國幣社主典及宮掌ノ定員等ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十五年二月十二日

内務大臣男爵内海忠勝

- 第一條 主典ノ定員ハ一社ニ付二人以内トス
 - 第二條 主典現在ノ定員一人ノ神社ニ於テ二人ニ増員セントスルトキハ地方長官ハ理由ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第三條 特別ノ事由アル神社ニ付テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第一條ノ定員外ニ主典ヲ増置スルコトヲ得
 - 第四條 主典ノ現員三人以上ノ神社ニ在テハ常分ノ内現員ノ儘存置スルコトヲ得但退職其ノ他ノ事故ニ依リ減員スルトキハ定員ニ復スルマテ補命スルコトヲ得ス
 - 前條ニ依ル補命ニ付テハ前項但書ノ規定ヲ適用スル限ニ在ラス
 - 第五條 熱田神宮宮掌ノ定員ハ五人以内トス
 - 第六條 雇員ハ宮司之ヲ命免ス
 - 第七條 禰宜、主典、宮掌ノ補免及死亡ハ其ノ時時地方長官ヨリ内務大臣ニ報告スヘシ
 - 第八條 第二條及第四條ノ事項ニ關シ本規則施行前内務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ本規則施行ノ爲メ其ノ效力ヲ失フコトナシ
 - 第九條 本規則ハ明治三十五年二月二十日ヨリ之ヲ施行ス
- 内務省令第二號
官國幣社神職俸給規則左ノ通相定ム

明治三十五年二月十四日

内務大臣男爵内海忠勝

官國幣社神職俸給規則

- 第一條 官國幣社宮司、權宮司ノ俸給ハ一號表ニ依リ稱宜、主典、宮掌ノ俸給ハ二號表ニ依ル
- 第二條 初メテ官國幣社宮司又ハ權宮司ニ補スル者ノ俸給ハ四級俸以下ヲ支給シ初メテ官國幣社稱宜、主典、宮掌ニ補スル者ノ俸給ハ二級俸以下ヲ支給ス
- 神宮稱宜以上ノ神官、神部署長、神部署神部又ハ官國幣社宮司、權宮司ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者ヲ官國幣社宮司又ハ權宮司ニ補スル場合ハ本條ノ制限ニ拘ハラズ前職ノ在職年數ニ應シ次條ニ準シ俸給ヲ支給スルモノトス
- 神宮權稱宜、宮掌、神部署神部ヲ官國幣社稱宜、主典、宮掌ニ補スル場合亦前項ニ同シ
- 第三條 宮司、權宮司ハ毎級在職一年以上稱宜、主典、宮掌ハ毎級在職一年以上ニアラザレハ増俸スルコトヲ得ス
- 前條第二項及第三項ニ依リ補命シタル場合ニ於テハ其ノ前職ノ在職期間ハ前項ノ期間ニ通算ス
- 第四條 官國幣社神職ニシテ他ノ官國幣社神職ヲ兼務スル者ニハ其ノ兼務ニ對スル俸給ヲ支給セズ
- 第五條 俸給ハ保存金ヨリ之ヲ支給シ保存金ノ下附ヲ受ケサル神社ニ在テハ基本財産ノ收入ヨリ支出ス但定員以外ニ増置スル主典ノ俸給ハ社入金ヨリ支出ス
- 第六條 名譽職タル官國幣社神職ニハ地方長官ニ於テ報酬ヲ支給スルコトヲ得但宮司、權宮司ニ付テハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 前項ノ報酬ハ保存金(保存金ノ下附ヲ受ケサル神社)及社入金ヨリ之ヲ支給ス但定員以外ニ増置

セル主典ノ報酬ハ社入金ヨリ之ヲ支出ス

第七條 俸給支給方ハ文官俸給支給ノ例ニ依ル

報酬ヲ月額又ハ年額ニテ支給スル場合亦前項ニ同シ

第八條 内務大臣ニ於テ辭令ヲ交附セルモノヲ除クノ外官國幣社神職ノ俸給額及報酬額並ニ其ノ増減ハ其ノ都度地方長官ヨリ内務大臣ニ報告スヘシ

附則

第九條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 従前ノ訓達ニシテ本令ニ抵触スルモノハ其ノ抵触ノ限度ニ於テ之ヲ廢止ス

第十一條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク

一號表

職名	年俸
宮司	四百圓
權宮司	三百五十圓
一級俸	三百圓
二級俸	二百五十圓
三級俸	二百圓
四級俸	一百五十圓
五級俸	一百圓

二號表

職名	年俸
稱宜	四百四十五圓
主典	三百二十五圓
宮掌	二百七十五圓
一級俸	二百二十五圓
二級俸	二百圓
三級俸	一百七十五圓
四級俸	一百二十五圓
五級俸	一百圓

○内務省令第三號

府縣郡吏員服務紀律左ノ通定

明治三十五年二月十四日

内務大臣男爵内海忠勝

府縣郡吏員服務紀律

- 第一條 府縣郡吏員ハ法令ニ從ヒ忠實ニ其ノ職務ヲ盡スヘシ
- 府縣郡吏員ハ其ノ職務ニ付指揮監督者ノ命令ヲ遵守スヘシ
- 第二條 府縣郡吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用シ廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス
- 第三條 府縣郡吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ洩洩シ又ハ未洩ノ事件者ハ文書ヲ私ニ洩示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ但裁判所ノ召喚ニ依リ職務上ノ祕密ニ付訊問ヲ受ケタル場合ニ於テ指揮監督者ノ許可ヲ得タル事件ニ付テハ此限ニ在ラス
- 第四條 府縣郡吏員ハ職務ノ爲出張ヲ命セラレタル場合ヲ除ク外指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス
- 第五條 府縣郡吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス
- 府縣郡吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノモノノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス
- 第六條 左ニ掲グル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル府縣郡吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスルモノノ懲罰ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 府縣郡ノ爲ニ工事又ハ物件購置ノ請負ヲ爲ス者
- 二 府縣郡ニ屬スル金銀ノ出納保管ヲ擔任スル者
- 三 府縣郡ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者
- 四 府縣郡ト土地物件ノ賣買贈與貸借者ハ交換ノ契約ヲ爲ス者
- 五 其ノ他府縣郡ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ントスル者
- 第七條 有給ノ府縣郡吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ營業ヲ爲シ若ハ家族ヲシテ營業ヲ爲サシメ又ハ給料若ハ報酬ヲ受クヘキ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス
- 第八條 本令ニ於テ指揮監督者ト稱スルハ府縣吏員ニ付テハ府縣知事郡吏員ニ付テハ郡長ヲ謂フ
- 第九條 郡組合ノ吏員ニ關シテハ郡吏員ニ關スル規定ヲ準用ス

○内務省令第四號

府社縣社以下神社神職任用規則左ノ通相定ム

明治三十五年二月十八日

内務大臣男爵内海忠勝

府社縣社以下神社神職任用規則

- 第一條 社司社掌試驗ニ及第シタル者ニアラサレハ社司社掌ニ補スルコトヲ得ス
- 官國幣社神職試驗ニ合格シタル者又ハ官國幣社神職及神職タリシ者ハ試驗ヲ要セス直ニ社司社掌ニ補スルコトヲ得
- 第二條 年齢二十年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ社司社掌ノ試験ヲ受クルコトヲ得

- 一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復権シタル者ハ此限ニ在ラス
 - 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
 - 三 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復権ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
 - 四 禁治產者禁禁治產者
 - 五 懲戒免官及免職ノ處分ヲ受ケタル後二年ヲ經過セサル者
- 第三條 地方廳ニ社司社掌試驗委員長一名及社司社掌試驗委員五名ヲ置キ社司社掌ノ試驗ヲ行ハシム
- 第四條 社司社掌試驗委員長及社司社掌試驗委員ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ選任スヘシ
- 第五條 社司社掌試驗委員ハ此規則ニ依リ試驗ヲ施行シ試驗委員長ヨリ其ノ成績ヲ北海道廳長官府縣知事ニ具申スヘシ
- 第六條 北海道廳長官府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ合格證書ヲ付與スヘシ
- 第七條 試驗ヲ施行スルトキハ豫メ其ノ試驗期日及場所等ハ官報公報又ハ新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
- 第八條 社司社掌ノ試驗科目ハ左ノ如シ
- 祭式 倫理 國文
- 作文 祝詞體 公文體 法制 現行神社法令
- 第九條 試驗問題ハ社司社掌試驗委員之ヲ定メ社司社掌試驗委員長ヨリ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

- 第十條 此規則施行ニ必要ナル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ
- 第十一條 左ニ掲グルル者ニシテ第二條ノ各號ニ該當セサル者ハ試驗ヲ要セス社司社掌試驗委員ノ銜衡ヲ經テ社司社掌ニ補スルコトヲ得
- 一 官國幣社及神部署神職任用令第九條一號二號三號五號ニ掲グルル者
 - 二 皇典講究所ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定メタル規則ニ依リ學階司業(社用ニ在テハ六等以上社掌ニ在テハ八等以上)ヲ附與シタル者ニシテ祭式ヲ修メタル者
 - 三 判任待遇以上ノ職ニ在リシ者ニシテ祝詞作文祭式ヲ修メタル者
- 第十二條 神社ニ神職ノ關員アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ十五日以内ニ氏子氏子ナキト總代ニ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ
- 第十三條 前條ノ場合ニ於テ氏子氏子ナキト總代ハ命令ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ其ノ候補者ノ履歷書及資格證明書ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ推薦スヘシ
- 第十四條 北海道廳長官府縣知事ハ候補者其ノ任ニ適セスト認ムルトキハ更ニ第十二條ノ規定ニ依リ候補者ノ推薦ヲ命スヘシ
- 附則
- 第十五條 本令ハ明治三十五年二月二十日ヨリ施行ス
- 第十六條 本令施行前ヨリ現ニ府社縣社以下神社ノ神職タル者ハ本令ノ施行ニ依リ神職タルノ資格ヲ失フコトナシ
- 第十七條 明治二十八年内務省令第十號同年内務省訓第六五六號及同年内務省訓令第十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十八年八月内務省令第十號八府社縣社以下神社神職費用規則同年十月内務省訓令第十六號八社司社寮試驗規則ナリ

○内務省令第五號

治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件携帶禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム

明治三十五年二月二十日

内務大臣男爵内海忠勝

土方工夫、土方工夫使用人、土方工事請負人ハ明治三十五年三月三十一日迄靜岡縣下富士郡大宮町、宮丘村、上野村ニ於テ戎器爆發物又ハ戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帶スルコトヲ得ス但職業ノ爲メ監督者ノ指揮ニ依リ爆發物ヲ携帶スルハ此限リニ在ラス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第二號

明治三十四年十一月十一日 本省令第二十五號中左ノ通改正ス

明治三十五年二月二十七日

大藏大臣曾根荒助

「隅田川」ノ下ニ「口」及ヒ「隅田川」ヨリ小名水川ヲ經テ東京府南葛飾郡砂村大字表龜高ノ三十字ヲ加フ
「大阪」ヲ「神戸」ト改ム

〔參照〕

大藏省令第二十五號(明治三十四年十一月三十日)
保稅倉庫法第四條ノ通則左ノ通相定ム

橫濱東京間 隅田川ニ經ルル水陸運送

橫濱大阪間

官設鐵道

○陸軍省令第二號

陸軍一年志願兵條例施行細則中左ノ通改正ス

明治三十五年二月一日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第一條 條例第二條ニ依ル被服ノ給與ハ左ノ區別ニ依リ取扱フヘシ

一 第一種帽前立第二種帽、絨衣袴、略衣袴、夏衣袴、日覆、外套、脚絆、軍隊手帳ハ新品ヲ支給シ其ノ原價ヲ納付セシム

二 背囊、被服手入具、飯盒、水筒、寢具及前號ノ外同號品種中尙必要アルトキハ貯藏品ヲ貸與シ其ノ補修費ヲ納付セシム

三 前各號ノ外下士卒給與品ニ限リ必要ニ應シ其ノ原價ヲ徴シテ特ニ支給スルコトヲ得

第二條 糧食費ハ行軍若ハ野外演習中ト雖亦自辨トス

第三條 第一ノ下ニ「樣式」ニ履歷書ハ「ヲ加フ

第四條 第一項中「報告」ノ下ニ「ス」ハ「シ」ヲ加ヘ「師團長」ハ「以下」ヲ削ル

第六條 第二項ヲ削ル

第七條ヲ削ル

第八條 師團長ハ條例第十三條ノ試驗ニ合格シタル者及第十四條第二項ノ検査ニ不參シタル者上

第二十條 米備ノ人名ヲ速ニ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ

第十條 中「官費服役證書」ハ第六樣式ニ「及但書」ヲ削ル

第十一條 第二項ヲ削ル

第十二條 第一項中「付與シタル者」ノ下「ノ人名」ヲ加ヘ「者」ヲ自費服役、官費服役、次年回シ等ニ區別シ

共ヲ削ル

第十三條第一項中「共人名」ノ下ニ「及事由」ヲ加フ

第十四條第二項ヲ削ル

第十六條第一項中「及軍吏生」監警部長若シハ「及監警部長」ヲ削リ第二項中「軍吏生」ハ師團監督部ニヲ削ル

第十七條中「軍吏生」ヲ削ル

附錄第一樣式中「戸籍謄本」ノ下ニ「及履歷書」ヲ加フ

同第二樣式ヲ左ノ通改ム

第二樣式

履歷書	
一何年月日何處校へ入學何年月日同校卒業	
一何年月日何所ニ於テ何々研究	
一何年月日何ニ従事ス	
一二年志願兵出願回数	
一未タ出願セシコトナシ	
一何年何師團ニ於テ出願	
一何年月日何ニ依リ賞(勳)受	
(右ノ外履歷ニ關スル事項ハ添テ記載スヘシ)	
右ノ通相違無之候也	
年 月 日	氏 名 印

同第三樣式欄外記註第一號ヲ削ル

同第四樣式中第一號ヲ左ノ通改メ第二號ヲ削リ欄外記註ヲ削ル

一賞罰ニ關スル事項ハ履歷書ノ通

同第六樣式ヲ削ル

同第七樣式欄内「自費」官費及「條例第六條第二項ニ當ル者」ヲ削リ欄外記註第二號中「第六條第二項及」ヲ削ル

同第八樣式欄内「軍吏生」自費「官費」及「官費」ノ下「計」ヲ削ル

〔参照〕

陸軍省令第十號陸軍一年志願兵條例施行規則(明治二十六年七月二十二日)抄録

第一條 條例第二條ノ所屬隊ヨリ給スル被服器具ノ現品左ノ如シ

一第一種帽 一第二種帽 三制表袴 四時表袴 五夏表袴 六日履 七外套 八脚絆 九軍隊手履

一十背蓋 十一被服手入具 十二飯盒 十三水筒 十四膠履

一被食費自辨ノ者ハ行軍若シハ野外演習中ノ被食費亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ附錄第一第二樣式ニ承認書ハ第三樣式ニ證明書ハ第四樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第四條 條例第十三條ノ身體検査料ハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍學校生徒試験臨時委員ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不登

其他ノ軍山ヲ記註シ履歷検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ條例第八條ノ旅團長ニ交付ス其身體検査ニ不合格ノ者ヲ除ク

第六條第二項 師團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者ニ付該隊ノ身體検査表ヲ本籍地ノ師團長ニ送付ス可シ

第七條 第四條及第六條ノ身體検査不合格ノ者ハ師團長ニ送付ス可シ又ハ師團長ニ送付ス可シ

第八條 師團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ検査ニ不登セル者ニ付該隊ノ身體検査料ヲ受ケタル者ニ在テハ身體検査料ヲ添フヘシ

第九條 師團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキ該隊員ノ抽籤施行前ニ在テハ相當ノ身分ヲ為スヘシ

第十條 師團長ハ條例第十四條ノ一年志願兵認定書ハ附錄第五樣式ニ官費履歷表ハ第六樣式ニ依リ作ル可シ但條例第六條第二

項ニ依リ次年返シト爲ス可キ者ハ官費履歷表ハ附錄第五樣式ニ官費履歷表ハ第六樣式ニ依リ作ル可シ

第十一條第二項

明治三十五年二月五日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第二十五條中「監督部長」ヲ「經理部長」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○陸軍省令第七號

徵兵事務條例施行細則中左ノ通改正ス

明治三十五年二月十七日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第三條第一項中「同月三十一日」ヲ「同月二十五日」ニ「二月十五日」ヲ「二月五日」ニ「三月一日」ヲ「二月二十日」ニ改メ第二項中「人員」ハ之ヲ別記スヘシヲ「人員及前年假決ノ人員」ハ各別記スヘシニ改ム

第八條第二項中「警備隊司令官」ハ「下」ニ「二月二十日迄」ニ「師團長」ハ「下」ニ「三月一日迄」ヲ加フ

第十一條 陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘレ

一 歩兵ハ脚力強健ニシテ勢力ニ堪ヘ且成ルヘク視力聴力完全ナル者

二 騎兵ハ馬匹ノ使用ニ慣レ視力聴力完全身體輕捷性質敏捷言語明晰且他兵ニ比シ普通ノ文字ヲ解シ得ル者其ノ他要員ノ凡十二分一ハ騎工卒ニ適スル者

三 砲兵ハ體力強大視力清明ナル者而シテ野戰砲兵要員ノ凡八分一ハ鍛工卒凡十六分一宛ハ木工卒ニ適スル者要員砲兵ハ成ルヘク讀書算術ヲ能クシ且要員ノ凡十六分一宛ハ鍛工

工、鍛工卒ニ適スル者

四 工兵ハ成ルヘク工兵ノ作業ニ適當シテ力アル者其ノ他要員ノ凡二十分一ハ鍛工卒凡六分一

ハ木工卒ニ適シ凡五分一ハ船ノ使用ニ慣レタル者又若干ハ電信鐵道ノ業務ニ從事シ成ルヘ

ル者

五 讀書算術ヲ能クシ且手指硬固ナラサル者

六 輜重兵、輜重輸卒及砲兵輸卒ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ且勢力アル者而シテ輜重兵ハ成

ルヘク讀書算術ヲ能クシ且他輜重輸卒要員ノ凡五十分一ハ鞍工、木工、鍛工卒ニ適ス

ル者

七 砲兵助卒ハ成ルヘク勢力アリテ力役ニ堪フル者

第十三條第二項中「志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者」ヲ削ル

第二十條中「交付スヘシ」ヲ「交付シ總代人」ハ之ヲ市町村長東京市、京都市、大阪市ニ差出シ市町村長ハ之ヲ各人ニ交付スヘシニ改ム

第二十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ第一第二補充兵及海軍補充兵ノ爲抽籤番號ニ基キ各別ニ補充

兵編入ノ番號ヲ設ケ壯丁名簿中ニ記入スヘシ

第二十七條中「町村長」ノ下ニ「ハ直ニ」ヲ加フ

第二十九條中「抽籤」ヲ「身體検査」ニ改メ若クハ條例第二十七條ノ名簿ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ

身體検査ヲ終リタル徵募區ニ轉籍シタル者アルトキハ成ルヘク其ノ年便宜ノ徵兵署ニ呼出シ條

例第五十三條ノ例ニ依リ身體検査及抽籤ヲ行フモノトス

第三十條 身體検査後條例第三十一條ノ處分前他ノ徵募區ニ轉籍スルモ總テ舊徵募區ニ於テ之

ヲ處分スルモノトス

第三十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十五年二月 省令 陸軍省第七號

二九

徵兵令第二十五條ニ依リ適齡屆ヲ爲スヘキ期間ニ於テ戶主未定若ハ失踪等ノ場合ニ在リテモ亦前項ニ依リ取扱フモノトス

第三十七條中「海兵團ヲ」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

第七師團ニ在リテハ十二月入營スヘキ他ノ師團ヨリ徵集ノ人員ヲ十日間以内ニ於テ二回若ハ三回ニ分チ入營セシムルコトヲ得但シ其ノ期日ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三十九條第四十一條及第四十二條中「海兵團長ヲ」ニ改メ「鎮守府兵事官」ニ改ム

第四十四條中「補充兵ニシテ」ノ下ニ「未ダ教育ヲ終ラサル者」ヲ加ヘ「シタル者」ヲ「シタルトキ」ニ抽籤ヲ編入ニ改ム

第四十五條第二項中「抽籤ヲ」編入ニ改ム

第四十九條 條例第五十三條及第六十三條ニ依リ寄留地徵募區ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ許シ可シタル旨通知ヲ受ケタル島司郡市長ハ其ノ壯丁名簿若ハ前年ノ假決名簿ヲ直ニ寄留地ノ島司郡市長ニ送附スヘシ

身體検査若ハ抽籤終ルトキハ前項ノ名簿ニ検査ノ結果及抽籤番號ヲ記入シ之ニ寄留地同兵種最高ノ番號ヲ添ヘ直ニ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送附スヘシ

第五十條 前條ノ名簿條例第三十一條ノ處分迄ニ到達セサルトキハ其ノ年ノ検査及抽籤ノ成績ニ依リ翌年假決若ハ終決ノ處分ヲ爲スヘシ

第五十一條ノ次ニ左ノ各條ヲ加フ

第五十二條 他ノ徵募區ニ於テ身體検査及抽籤ヲ爲シタル者ノ徵集順序ヲ定ムル爲ニハ本籍地寄

留地兩徵募區同兵種ノ最高番號ヲ準トシ比例ヲ以テ本籍地同等番號ノ上位ニ列スルモノトス

第五十三條 志願兵出願者ニシテ採用ニ決シタルトキハ現役兵及補充兵ニ決定スルモ入營ノ前後ヲ問ハズ志願ニ應セシム但シ現役兵ニシテ該志願ニ應セサル者ハ條例第四十五條第二項ノ例ニ依リ翌年之ヲ徵集スルモノトス

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ志願兵採用若ハ志願ニ應セサルコトノ通知ヲ當該官衙學校長ヨリ受ケタル後前項ニ關スル取扱ヲ爲スモノトス

第五十四條 一年志願兵出願者中二十歳以上ニシテ徵兵令第十三條ノ學校卒業者若ハ其ノ年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者及學術試験ヲ受ケタル者ニシテ本籍徵募區ノ徵兵検査前採用ニ決シタル者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ假決ノ區畫ニ其ノ事由ヲ記スルモノトス

第五十五條 島司郡市長東京市 京都市 大阪市 在リテハ區長ハ一年志願兵出願者二十歳未満者ヲ除クノ人名及學術試験ノ要否ヲ調査シ條例第二十一條ノ諸名簿ニ添附スヘシ

第五十六條 聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ成ルヘク條例第五十三條及第六十三條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ身體検査ヲ受ケタル者ノ名簿ヲ受領シタル後條例第三十一條ノ處分ヲ爲スヘシ

第五十七條 近衛師團及第七師團司令部ハ條例第十八條ノ配賦ニ基キ現役兵ノ入營スヘキ隊號ヲ定メ之ヲ第二十三條ノ現役兵證書調製ニ差支ナキ樣當該師團司令部ニ通報スヘシ但シ第七師團ニ在リテハ第三十七條第二項ノ入營期日ヲモ通報スルモノトス

附則第五十二條ヲ第五十八條ニ第五十三條ヲ第五十九條ニ改ム

附錄第一様式中「甲」種何兵第何番ノ左側ニ「編入第何番」ヲ欄外記註ニ左ノ一項ヲ加フ
六 兵種番號區畫中編入番號ハ補充兵ニ限り記載スルモノトス

附錄第三樣式裏面中「郡市長」ノ下ニ「東京市京都市大阪」ノ割註ヲ加フ

附錄第六樣式裏面欄内第一號「現役兵ノ入營期日ハ十二月一日トス」ヲ「入營期日ハ明治 年 月 日トス」ニ改メ第二號第三號及第四號ヲ削リ第十三號中「補充兵」ノ下ニ「教育ヲ終リタ」ノ割註ヲ加ヘ

欄外第一項第二項ヲ左ノ如ク改メ第四項中「抽籤」ヲ「身體検査」ニ改ム
一 表面「何兵第何聯(大)隊」ヲ「近衛兵」ニ在リテハ「近衛何兵第何聯(大)隊」ト騎兵及砲兵旅團兵ニ在リテハ「何兵何旅團第何聯隊」ト海軍兵ニ在リテハ「何鎮守府ノ兵籍」ト記スヘシ又第一、第二、第八師管ロリ徵集スル第七師團兵ニ在リテハ「第七師團何兵第何聯(大)隊」ト記スヘシ

二 現役兵ノ入營期日ハ徵兵事務條例第四十二條及本則第三十七條第二項ニ依リ裏面第一項ニ記入スヘシ

附錄第七樣式ノ一中「縫工」ヲ「看護卒」ニ改メ「靴工」ヲ削ル

附錄第七樣式ノ二欄外第一項中「補充兵」ノ下ニ「及要員ニ超過スル者」ヲ加フ

附錄第七樣式ノ四「令第二十二條ニ當リ三箇年ヲ過クル者」ノ區畫中「五尺以上五尺未満小計及五尺未満ノ區畫中」甲種乙種ノ種別ヲ削ル

附錄第七樣式ノ五中「縫工」ヲ「看護卒」ニ改メ「靴工」ヲ削ル

附錄第七樣式ノ六中欄外ニ左ノ一項ヲ加フ

大學卒業ノ者若ハ之ト同等ノ學力ト認ムル者ハ相當區畫ヲ設ケ記入スヘシ

附錄第八樣式中「何海兵團」ヲ「何鎮守府」ニ改ム

附錄第十一樣式欄外記註ヲ削ル

附錄第一、第二、第三、第六及第九樣式中(次)男ヲ(一)男(二)男(三)女ヲ(一)女(二)女ニ改ム

附則

第三條及第八條ハ本年ニ限り舊第三條及第八條ニ依ル

〔參照〕

陸軍省令第十號徵兵事務條例施行細則(明治二十九年四月二十三日)抄録

第三條 島根郡市長ハ毎年一月一日附ヲ以テ其ノ年ノ壯丁人員又前年假決ノ人員ヲ同月三十一日迄ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ聯隊區司令官及警備隊司令官ハ壯丁人員ヲ數點シ二月十五日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ三月一日迄ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

前項ノ人員中明治二十八年勅令第三百二十六號第三條及明治三十年勅令第三百五十八號第二項ニ當ルハ之ヲ別記スヘシ

第八條 身體検査ハ毎年四月中旬ヨリ九月下旬迄ノ間ニ於テ之ヲ行フヲ例トス

其ノ日割表ハ附錄第十一樣式ニ依リ之ヲ作り聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ師團長ニ報告シ師團長ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條 陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選ブヘシ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク努力及遠足ニ堪ユル者
- 二 騎兵ハ成ルヘキ馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ適キサル者
- 三 砲兵ハ體方強大ニシテ視力清明ナル者
- 四 工兵ハ成ルヘキ工兵ノ作業ニ適當シ努力ナル者
- 五 補遺兵砲兵騎兵及看護卒ハ成ルヘキ馬匹ノ使用ニ慣レ且努力ナル者
- 六 砲兵助卒ハ身體強健ニシテ努力ナル者
- 七 職工ハ成ルヘキ其ノ職ニ從事セシ者
- 八 看護卒ハ成ルヘキ患者ノ取扱ニ慣レタル者

第十三條第二項

公稱停止中者ヲハ逃亡失蹤等ノ爲メ其ノ年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ志願兵出陣中及認可ヲ受ケタル者六週間現役ニ服スヘキ者ハ徵集延期名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其ノ事由ヲ記スルモノトス

第二十條 抽籤總代人ハ抽籤所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其ノ籤札ヲ徵兵事務員ニ渡シ徵兵事務員ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ順ニ貼附シ徵兵事務員ヲ以テ判印ヲ爲シ一人毎ニ之ヲ籤丁切リ總代人ニ交付スヘシ

三時第三學期ヲ四時ニ法制及經濟ノ教授時數ヲ二時ニ第三學年ノ合計時數ヲ二十九時ニ改ム

第十四條第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ
前表ノ外生徒ノ志望ニ依リ第五學年ニ於テ圖畫一時ヲ課スルコトヲ得
體操ハ前表ノ教授時數ヲ三時以內増加シテ之ヲ課スルコトヲ得

第三十四條第二項中「入學、轉學、退學」ヲ「入學、轉學、退學」ノ年月日及其ノ學年、ト改ム

第四十七條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但レ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第四十七條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但レ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ノ爲特ニ追試験ヲ行フコトヲ得

第五十四條第二項第三號ヲ左ノ如ク改ム
課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

附則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ限スルハキ學科目及其ノ程度ハ便宜斟酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得

〔參照〕

文部省令第三號中學校令施行規則(明治三十四年三月五日)抄錄
第七條第五項

第三十四條第二項
學生進級ノハ生徒ノ氏名、族姓、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學、轉學、退學、卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學、退學ノ事由、體操、保健、人ノ氏名及居所等ヲ記載スルヘシ

第四十七條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムルヘシ
試験ハ分テ學期試験及學年試験トシ學期試験ハ第一學期及第二學期內ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年終ニ於テ之ヲ行フ

第五十四條第二項
學期中ニ規定スルハキ事項凡左ノ如シ
三 試驗ニ關スル事項

○文部省令第三號

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス

明治三十五年二月十四日

文部大臣理學博士菊池大麓

第六十條ニ左ノ一項ヲ加フ

小學校教科用圖書ノ發行者ニ於テ採定セラレタル圖書ノ供給ヲ怠リ又ハ之ヲ拒否スルカ爲ニ之ヲ更定スルハキ事情ヲ生シタルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ公布期限ニ依リテ之ヲ更定スルコトヲ得

第六十三條第三項中「特別ノ事情」ノ上ニ「第六十條第二項其ノ他」ノ十字ヲ加フ

〔參照〕

文部省令第十四號小學校令施行規則(明治三十三年八月二十一日)抄錄
第六十條 府縣知事ニ於テ小學校圖書發售委員會ノ選定シタル圖書ヲ採定シタルトキハ之ヲ使用セントスル學年ノ開始ヨリ九十日以前ニ其ノ旨ヲ公布スルヘシ此ノ場合ニ於テハ五日以內ニ文部大臣ニ報告スルコトヲ要ス
第六十三條 小學校教科用圖書ハ採定後四箇年ヲ經ルニテ之ヲ更定スルコトヲ得

小學校教科用圖書ヲ更正シタル場合ニ於テハ其ノ圖書ハ最下學年ノ兒童ヨリ用ヒシメ其ノ他ノ兒童ニハ從來ノ教科用圖書ヲ採用セシムヘシ
特別ノ事情アルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

○文部省令第四號

小學校教科用圖書ノ發行者ニ於テ採定セラレタル圖書ノ供給ヲ怠リ又ハ之ヲ拒否シタル事實アルトキハ其ノ情狀ニ依リ文部大臣ハ該圖書又ハ該發行者ノ發行ニ係ル小學校教科用圖書ノ全部ノ檢定ヲ無効トシ又其ノ發行ニ係ル小學校教科用圖書ヲ檢定セサルコトアルヘシ

明治三十五年二月十四日

文部大臣理學博士菊池大麓

○文部省令第五號

高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校ニ於テハ其ノ入學志望者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヲ入學セシムヘカラス

一 明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程第五條第一項第七號ノ體格薄弱ニ屬スル者

二 精神機能ニ障害アル者

三 傳染性眼炎ヲ患フル者又ハ眼鏡ヲ以テ補正スルコト能ハサル近視亂視弱視等ヲ有スル者

四 聽官又ハ言語ノ障害著シキ者

五 肺結核其ノ他結核ノ諸兆アル者

六 心臟瓣膜病ヲ患フル者

七 惡性腫瘍、腎臟炎、糖尿病、重症貧血等ヲ患フル者

八 修學上ニ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

附則

本令ハ明治三十五年三月一日ヨリ施行ス

明治三十五年二月二十四日

文部大臣理學博士菊池大麓

○農商務省令第二號

明治三十四年法律第二十二號馬匹去勢法施行ニ要スル技術者養成ノ爲メ馬匹去勢術練習生規則左ノ通相定ム

明治三十五年二月二十二日

農商務大臣平田東助

馬匹去勢術練習生規則

第一條 馬匹去勢術練習生ハ年齡滿十八歲以上四十歲以下ニシテ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ有スル者ヨリ試験ノ上採用スルモノトス

第二條 練習生ノ募集及ヒ試験ニ關スル手續ハ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシム

試驗ニ依リテ採用スヘキ人員、試驗ノ期日及ヒ場所ハ地方長官之ヲ公告ス

第三條 練習生ヲ志願スル者ハ制規ノ願書ニ履歷書、獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ證明スルニ足ル書面及ヒ醫師ノ體格檢定書ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四條 練習生ハ軍馬補充部ニ委託シテ修業セシム

修業期ハ毎年春夏ノ交二箇月ヲ一期トシ二期ヲ以テ了スルモノトス但時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 練習生ニハ修業期中一箇月金二十圓以内ノ手當ヲ支給ス但旅費ハ之ヲ支給セズ

第六條 練習生規則命令ニ違背シ又ハ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ免スヘシ

第七條 練習生修業了了ハタルトキハ其成績ヲ考査シ修業證書ヲ交付スヘシ
 第八條 練習生ハ修業證書ヲ受ケタル後三年間農商務大臣ノ指定スル所ニ從ヒ去勢技術者トシテ奉職スル義務ヲ有ス

第九條 左ノ場合ニ於テハ修業期中支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルハ

- 一 修業中自己ノ便宜ニ因リ練習生ヲ辭シタルトキ
- 二 第六條ニ依リ練習生ヲ免セラレタルトキ
- 三 第八條ノ義務ヲ履行セサルトキ
- 四 奉職義務年限中懲戒ニ由リ免官又ハ免職セラレタルトキ

書式

馬匹去勢術練習生志願書

私儀馬匹去勢術練習生志願ニ付御試験ノ上御採用相成度修業中及ヒ修業後ハ馬匹去勢術練習生規則及ヒ其他ノ御命令堅ク遵守可致且木人身上ニ關スル件ハ保證人ニ於テ一切引受可申此段逓信省ヲ以テ相願儀也

年月日

願人 氏 名
 族籍住所職業
 保證人 氏 名

農商務大臣宛

○逓信省令第三號

明治三十年十二月十二日 逓信省令第三十二號 電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加ス

明治三十五年二月七日

逓信大臣子爵芳川顯正

大阪堺間金二十錢金十錢ノ次ニ

名古屋大津間金四十錢金二十錢ノ次ニ

大阪茨水間	金二十錢	金十錢
大阪神戸間	金二十五錢	金十五錢
茨水伊丹間	金二十五錢	金十五錢
茨水西ノ宮間	金二十五錢	金十五錢
堺茨水間	金二十五錢	金十五錢
神戶茨水間	金二十五錢	金十五錢
京野茨水間	金二十五錢	金十五錢
大津茨水間	金二十五錢	金十五錢

四日市茨水間	金四十錢	金二十錢
桑名伊丹間	金五十錢	金二十錢
名古屋茨水間	金五十錢	金二十錢
東京京町間	金四十錢	金二十錢
横濱茨水間	金四十錢	金二十錢
東京茨水間	金四十錢	金二十錢

○逓信省令第四號

明治三十年十二月十二日 逓信省令第三十二號 電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加ス

逓信大臣子爵芳川顯正

同一電話加入區域内金十五錢ノ次ニ

東京濱田間	金十五錢
横濱濱田間	金二十錢

○逓信省令第五號

逓信省管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ就テハ左ノ官職ニ在ルモノヲ以テ本官ノ代理ニ指定ス
 但明治三十二年七月逓信省令第三十一號同三十三年九月逓信省令第五十三號ハ廢止ス
 明治三十五年二月十三日

本省各局長
 總務局長
 鐵道局長

電信燈器用品製造所長
 鐵道作業局長

逓信大臣子爵芳川顯正
 鐵道作業局工務部長
 鐵道作業局出張所長

一等郵便電信局長
電話交換局長
郵便爲替貯金管理所長

航路標識管理所長
海軍局長
港務局長

東京郵便電信學校長
商船學校長

〔參照〕

明治三十二年七月 遞信省令第三十一號ハ會計規則ニ依リ土地ヲ以テ出納官更身元保証金ニ代用スルトキ其抵當權ニ關
スル登記ニ付遞信大臣ノ代理タラシムル官吏ノ件同三十三年八月 遞信省令第五十三號ハ不動產ノ收用若クハ買收其他所
有權ノ取得ヲ爲シタル場合ニ行フヘキ登記ニ付遞信大臣ノ代理タラシムル官吏ノ件ナリ

○遞信省令第六號

明治三十年八月 遞信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加ス

明治三十五年二月二十日

遞信大臣子爵芳川顯正

門司福岡間金二十五錢金十五錢ノ次ニ	名古屋西ノ宮間金六十錢金二十錢ノ次ニ
關西若松間 金二十五錢 金十五錢	長崎若松間 金六十錢 金二十錢
關西小倉間 金二十五錢 金十五錢	長崎小倉間 金六十錢 金二十錢
四日市伊丹間金四十五錢金二十錢ノ次ニ	名古屋神戸間金六十五錢金二十錢ノ次ニ
關西長崎間 金四十五錢 金二十錢	門司長崎間 金六十五錢 金二十錢
	券間關長崎間 金七十錢 金二十錢

○外務省令第二號

明治三十三年外務省令第二號外國旅券規則中左ノ通改正ス

明治三十五年三月五日

外務大臣男爵小村壽太郎

第二條第一項中左ノ事項ヲ記載シノ下ニ「戶籍謄本若ハ其氏名本籍地及身分ヲ證明スヘキ文書ヲ
添附シ」ヲ加ヘ同項但書ヲ「但外國ニ於テハ公使若ハ領事ノ認定ニ依リ戶籍謄本若ハ其他ノ文書ノ
添附ヲ省略セシムルコトヲ得」ニ改ム

第四條但書中「未成年者ヲ」十二歳未満ノ者ニ改ム

〔參照〕

外務省令第二號外國旅券規則(明治三十三年六月四日)抄録

第二條 旅券ノ下付ヲ請フモノハ得而ニ左ノ事項ヲ記載シ内國ニ於テハ本籍地若ハ所在地ノ地方上級行政區外國ニ於テハ
公使館若ハ領事館ニ出願スヘシ但シ内國ニ於テハ戶籍ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 氏名(姓ヲ以テテ)
- 二 本籍地(本籍地ト所在地ト別ニ示スヘシ)
- 三 身分(主家族ノ別ニ示スルコトヲ要ス)
- 四 族稱
- 五 年齡
- 六 職業
- 七 旅行地名
- 八 旅行ノ目的

第四條 戶主ト同行スル家族、夫ト同行スル妻又ハ父若ハ母ト同行スル子ニシテ旅券ノ下付ヲ請フトキハ其氏名身分及ヒ年
齡ヲ明記スルコトヲ得但シ夫ト同行スル妻ヲ除クノ外未成年者タル場合ニ限ル

附則

第五條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治二十七年内務省令第三號健全證書交附ノ件及明治三十二年内務省令第四十號健康證書交附手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○内務省令第十號

本年勅令第七十六號ニ依リ海港檢渡ノ執行ニ關シ福岡縣知事ノ職權行使區域ハ山口縣下下ノ關港及其附近トス

附則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十五年三月二十九日

内務大臣男爵内海忠勝

○大藏省令第三號

明治三十五年法律第二十五號蟲害地地租特別處分法ニ依リ蟲害地地租ノ免除ヲ請ハムトスル者及同年法律第二十六號雹害地地租特別處分法ニ依リ雹害地地租ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ收穫皆無メリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務署ニ差出スヘシ

明治三十五年三月十九日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第四號

明治三十二年大藏省令第十四號中武藏國東京築地稅關監視署ヲ削除ス
本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年三月二十七日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第五號

明治三十五年勅令第五十三號ニ據リ月手當ヲ給與スヘキ場所及給與細則左ノ通相定ム

明治三十五年三月二十七日

大藏大臣男爵曾禰荒助

島嶼在勤者月手當給與細則

第一條 月手當ハ別表ニ據リ左ノ島嶼ニ在勤スル者ニ之ヲ給ス

千島國 擇捉島

琉球國 宮古島

伊豆國 小笠原島

八重山島

第二條 新ニ赴任ノモノハ任所ヘ到達ノ翌日ヨリ支給ス

第三條 兼務者ニハ月手當ヲ給セス

第四條 前條ノ外手當支給ニ關シテハ各條給支給ノ例ニ依ル

(別表)

稅務局	六	圓
技手	六	圓
雇員	五	圓

○陸軍省令第九號

徵兵檢査規則中左ノ通改正ス

明治三十五年三月六日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第二條第一項中「八夜直ヲ削リ九ヲ八ニ改メ以下順次繰上ク

○陸軍省令第十號

明治三十一年陸軍省令第十六號中第八憲兵隊青森分隊欄内管府縣區班中「下北郡」ヲ削リ同欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十五年三月二十二日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

大	青森縣下北郡	大	青森	下北郡
大	大湊村	大	大湊村	

○陸軍省令第十一號

陸軍警守採用規程左ノ通定ム

明治三十五年三月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 陸軍警守ノ採用ニ就テハ陸軍監獄看守採用規則ヲ準用ス

第二條 陸軍監獄看守ノ職ニ在ル者ハ陸軍警守ニ採用スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍監獄看守ノ職ニ在リタル者及滿二年以上上法廷取締トシテ師團司令部又ハ臺灣陸軍法官部ニ勤續シタル者ハ本令施行ノ際ニ限り陸軍警守ニ採用スルコトヲ得

○海軍省令第五號

明治十九年海軍省令第三百二十三號ヲ廢ス

明治三十五年三月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治十九年四月一日海軍省令第三百二十三號ハ軍艦兵員部署規程式ナリ

○司法省令第三號

長崎地方裁判所管内大村區裁判所佐世保出張所ハ之ヲ廢止ス

同地方裁判所管内長崎區裁判所面高出張所大村區裁判所早岐出張所平戶區裁判所山口、佐々ノ兩出張所ハ同地方裁判所管内佐世保區裁判所ノ出張所トス

本令ハ明治三十五年三月十五日ヨリ施行ス

明治三十五年三月一日

司法大臣男爵清浦奎吾

○司法省令第四號

明治三十五年法律第十一號ニ依リ監獄費ヨリ北海道地方費及府縣ニ償還スヘキ費額ハ一人一日ニ付金貳拾錢トス但一日内ニ於テ出入スル者モ各一日ヲ以テ計算スヘシ

明治三十五年三月十七日

司法大臣男爵清浦奎吾
內務大臣男爵內海忠勝

○司法省令第五號

一新潟地方裁判所管内新潟區裁判所管轄越後國西蒲原郡大原村大字國見、今井、大曾根、新飯田、瀨上、新田、新飯田、瀨下、新田ヲ同區裁判所自根出張所ノ管轄トス

同地方裁判所管内三條區裁判所管轄越後國西蒲原郡赤塚村大字中權寺、中野、小屋村、大字、榎尾、高山、笠木、新通ノ内字仲才、道上、村大字三ツ門、新ヲ同區裁判所卷出張所ノ管轄トシ同區裁判所管轄同國三島郡大河津村大字北曾根、教ヶ曾根、萬善寺、高内、矢田、田尻、町、經井、大川津、求草、入經井、平

野新村新田、馬越竹森、小豆曾根、新長、饒口、岩方、仁ヶ村外新田、下桐、裕田、水島五分一、有信ヲ同區裁判所地蔵堂出張所ノ管轄トス

同地方裁判所管内長岡區裁判所管轄越後國南蒲原郡坂井村大字三林、中之島村大字六所、西高山新田、中西、眞野代新田、中條新田、下沼新田、西野、赤沼、小沼新田、大沼新田ヲ同區裁判所見附出張所ノ管轄トス

同地方裁判所管内高田區裁判所管轄越後國中頸城郡上米山村、米山村大字上輪、上輪新田、笠島、青海川ヲ同區裁判所柿崎出張所ノ管轄トス

一 岐阜地方裁判所管内岐阜區裁判所管轄美濃國本巢郡西根尾村ヲ同區裁判所北方出張所ノ管轄トス

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十五年三月二十四日

司法大臣男爵清浦奎吾

○司法省令第六號

新潟地方裁判所管内三條區裁判所卷出張所管轄越後國西蒲原郡太田村大字花見、櫻町ヲ同區裁判所ノ管轄ニ改メ同管内六日町區裁判所浦佐出張所管轄同國南魚沼郡大卷村大字五日町ヲ同區裁判所ノ管轄ニ改メ同管内高田區裁判所鳥坂出張所管轄同國中頸城郡關山村大字坂口新田ヲ同區裁判所關山出張所ノ管轄ニ改メ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十五年三月二十四日

司法大臣男爵清浦奎吾

地方裁判所		區裁判所		出張所		管轄	
高田	六日町	三條	卷	越後	越後	越後	越後
關山	島坂	浦佐	越後	越後	越後	越後	越後
越後	越後	越後	越後	越後	越後	越後	越後
中頸城郡ノ内 關山村 矢代村 中郷村 名香山村 杉野澤村	中頸城郡ノ内 島坂村 原通村 桑賀村 寺野村 水原村 泉村 平丸村 豐葦村 大鹿村 水上村 越橋村 新井町 鹽太村 大字 八幡新田 新保新田 坂井新田 梨木原新田 土田 猪野山 小丸山新田 長秋 三役	南魚沼郡ノ内 浦佐村 越後村 東村 伊米ヶ崎村 大崎村	南魚沼郡ノ内 六日町 三役村 土樽村 神立村 湯澤村 上關村 大沼村 大君田村 中目來田村 宮實村 榛庭村 吉里村 鹽澤町 大宮村 上島村 南旭村 長崎村 三和村 旭村 小栗山村 余川村 君師村 欠之上村 川龜村 八幡村 美佐島村 三國村 城内村 五十澤村 中之島村 大卷村	西蒲原郡ノ内 卷町 曾根村 升瀧村 松野尾村 間瀧村 角田村 越郷村 和納村 赤塚村 峰岡村 浦波村 關茂村 松長村 岩室村 道土村 吉田村 波山村 米納津村 中野小屋村	南蒲原郡ノ内 三條町 高館村 粟林村 大崎村 非栗村 鹿島村 水成寺村 大島村 西蒲原郡ノ内 燕町 小中川村 太田村 小池村 大字 大岡 越後 大曲 小關	南蒲原郡ノ内 三條町 高館村 粟林村 大崎村 非栗村 鹿島村 水成寺村 大島村	南蒲原郡ノ内 三條町 高館村 粟林村 大崎村 非栗村 鹿島村 水成寺村 大島村

○文部省令第六號

東京音樂學校官費甲種師範科卒業生服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十五年三月二十八日

文部大臣理學博士男爵菊池大麓

第一條 東京音樂學校官費甲種師範科生徒ハ卒業ノ日ヨリ三箇年間文部大臣ノ指定ニ從ヒ音樂ニ關スル教職ニ從事スヘキ義務アルモノトス

第二條 前條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故生シタルトキハ其ノ理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

第三條 服務年限中ノ者ニシテ義務ヲ盡サ、ルモノ、懲戒免職ニ處セラレタルモノ又ハ教員免許狀ヲ褫奪セラレタルモノハ在學中給與シタル學費ノ全部又ハ幾部ヲ償還セシム但シ前條ニ依リ義務ヲ免除セラレタル者ハ學費ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第四條 服務年限中ノ者ニシテ東京音樂學校又ハ其ノ他ノ學校ニ入學セントスルモノアルトキハ時宜ニヨリ之ヲ許可スルコトアルヘシ但シ在學中ノ期間ハ服務年限ニ算入セス

第五條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○文部省令第七號

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第一項ノ學齡兒童數及就學兒童數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前々年以前三箇年ニ於ケル各年末現在數ノ平均ニ依ルモノトス

明治三十三年文部省令第八號ハ廢止ス

明治三十五年三月二十九日

文部大臣理學博士男爵菊池大麓

〔參照〕

文部省令第八號(明治三十三年五月十二日) 市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第一項ノ學齡兒童數及就學兒童數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前々年以前三箇年ニ於ケル各年末現在數ノ平均ニ依ルモノトス

○文部省令第八號

臨時教員養成所規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十五年三月二十九日

文部大臣理學博士男爵菊池大麓

臨時教員養成所規程

第一條 臨時教員養成所ニハ國語漢文科、英語科、數學科、博物科、物理化學科ノ一學科若ハ數學科ヲ置ク

第二條 前條各學科ノ修業年限ハ二箇年トス

第三條 國語漢文科ノ學科目ハ倫理、教育、國語、漢文、英語、歴史トス

第四條 英語科ノ學科目ハ倫理、教育、英語、國語及漢文トス

第五條 數學科ノ學科目ハ倫理、教育、數學、英語、物理、簿記トス

第六條 博物科ノ學科目ハ倫理、教育、動物、生理、植物、礦物、英語、地文、地質、人類、天文トス

第七條 物理化學科ノ學科目ハ倫理、教育、物理、化學、英語、數學トス

第八條 各學科ノ各學年ニ於ケル每週教授時數ハ第一號表乃至第五號表ニ依ルヘシ

第九條 特別ノ事情アルトキハ管理者ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學科目ヲ加除シ教授時數ヲ増減スルコトヲ得

第十條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル學年ハ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一

日ヨリ八月三十一日マテトシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテトシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテトス

休業日ニ關スル規定ハ管理者之ヲ定ムヘシ

第十一條 入學試験ハ中學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ但シ中學校及師範學校ノ卒業生ニ限リ時宜ニ因リ試験ヲ行ハサルコトヲ得

第十二條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平常ノ學業及試験ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ但シ管理者ノ見込ニ因リ某學科目ノ試験ヲ行ハサルコトヲ得

第十三條 管理者ハ全學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第十四條 管理者ハ前項ノ卒業生ニ對シ教員免許狀ノ授與ヲ文部大臣ニ申請スヘシ

第十五條 管理者ハ成業ノ見込ナシト認メタル者及品行不良ナル者ニハ退學ヲ命スヘシ

第十六條 生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退學スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ管理者ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第十七條 管理者ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第十八條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試験料ヲ徴收スルコトヲ得

國語漢文科

倫理	國語漢文科		
	第一學年	第二學期	第三學期
二	二	二	二

英語科

計	英語科		
	第一學年	第二學期	第三學期
二八	二八	三	三〇

數學科

倫理	數學科		
	第一學年	第二學期	第三學期
一	一	一	一
二九	二九	二	二六

第四號表

博物科

備考 實驗ハ一回凡二時トス

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	學	第一學期	第二學期	學	第一學期	第二學期	學
地文	二	二	二	二	二	二	二	二	二
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
礦物	實驗共 三	同上	二	同上	同上	二	同上	同上	二
植物	實驗三回 二	同上	二	同上	同上	二	同上	同上	二
生理	二	二	二	二	二	二	二	二	二
動物	實驗三回 二	同上	二	同上	同上	二	同上	同上	二
教育	-	-	-	-	-	-	-	-	-
倫理	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
博物	二	三	三	實驗一回 三	同上	三	同上	同上	三
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
動物	一七	一七	一七	一六	一六	一六	一六	一六	一六
計	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八

第五號表

物理化學科

備考 實驗ハ一回凡二時トス

學科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	學	第一學期	第二學期	學	第一學期	第二學期	學
地質	-	-	-	-	-	-	-	-	-
人類	-	-	-	-	-	-	-	-	-
天文	實驗四回 一六	同上	一四	同上	同上	一六	同上	同上	一四
計	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
倫理	二	二	二	二	二	二	二	二	二
教育	二	二	二	二	二	二	二	二	二
物理	實驗三回 五	同上	七	同上	同上	七	同上	同上	七
化學	實驗三回 五	同上	七	同上	同上	七	同上	同上	七
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
數學	五	五	五	五	五	五	五	五	五
計	實驗四回 二二	同上	二二	同上	同上	二二	同上	同上	二二

○農商務省令第三號

明治三十五年農商務省令第一號種馬所種付規則第七條ノ種付料納付書ハ之ヲ種付所ニ差出スヘシ

明治三十五年三月 省令 農商務省第三號

種付所前項ノ納付書ヲ收受シタルトキハ主任者ニ於テ其ノ適法ナルコトヲ確認シタル後納付書ノ紙面ト貼付印紙ノ彩紋トニ掛ケ黒肉ヲ用ヒテ消印ヲ捺捺スヘシ但シ納付者ニ於テ既ニ消印ヲ捺捺シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ種馬牧場ニ於テ餘勢種付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

明治三十五年三月二十九日

農商務大臣男爵平田東助

○農商務省令第四號

諸省所管ニ係ル不動産登記囑託ニ關シ本官ノ代理トシテ左ノ通り指定ス

明治三十五年三月二十九日

農商務大臣男爵平田東助

山林局長

總務局會計課長

製鐵所長官

大林區署長

鑛山監督署長

農事試驗場長

工業試驗所長

生絲検査所長

鹽業調査所長

種馬牧場長及種馬所長

種牛牧場長

東京蠶業講習所長

京都蠶業講習所長

水産講習所長

廣島鑛山管理長

○農商務省令第五號

外國領海水產組合法施行規則左ノ通相定ム

明治三十五年三月三十一日

農商務大臣男爵平田東助
外務大臣男爵小村壽太郎

外國領海水產組合法施行規則

第一條 外國領海水產組合法ニ依ル水產組合及水產組合聯合會ニハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外重要物產同業組合法施行規則ノ規定ヲ準用ス

第二條 重要物產同業組合法施行規則ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ行フヘキ職務ハ本則ニ於テハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外外務、農商務兩大臣之ヲ行ヒ地方長官ノ行フヘキ職務ハ營業區域ニ依ル組合又ハ其ノ聯合會及外國ニ住所ヲ有スル者ノ組織スル住所區域ニ依ル組合又ハ其ノ聯合會ニ在リテハ所轄領事又ハ貿易事務官之ヲ行ヒ其ノ他ノ住所區域ニ依ル組合又ハ其ノ聯合會ニ在リテハ所轄地方長官之ヲ行フ但シ區域カニ以上ノ行政官廳ノ管轄ニ互ル組合又ハ二以上ノ行政官廳ノ管轄ニ屬スル組合ヲ以テ組織シタル聯合會ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ外務、農商務兩大臣之ヲ行フ

第三條 組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ外國領海ノ名稱及水產組合又ハ水產組合聯合會ナル文字ヲ附スヘシ

第四條 住所區域ニ依ル組合ノ區域ハ北海道、府縣ノ區域ニ依ルヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 組合又ハ聯合會ニシテ一地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ設置、定款ノ變更、役員ノ選任、經費ノ豫算及徴收法並解散ノ認可ハ地方長官ニ之ヲ申請スヘシ

第六條 前條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ重要物產同業組合法第十四條及第十五條ノ處分ハ外務、農商務兩大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フコトヲ得

第七條 第五條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ經費ノ決算、業務成績ノ報告及定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規則ノ提出ハ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

第八條 組合又ハ聯合會ノ設置ヲ認可シタルトキハ認可ヲ與ヘタル行政官廳ハ其ノ名稱、組合ノ

區域又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ名稱及營業ノ種類ヲ公告スヘシ
前項ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ組合若ハ聯合會カ解散シタルトキハ當該行政官
廳ハ其ノ事項ヲ公告スヘシ

附則

第九條 本則ハ外國領海水産組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本則施行以前ニ於テ外務、農商務兩大臣ノ認可ヲ經テ設置シタル組合又ハ聯合會ニシテ
外國領海水産組合法ノ規定ニ抵觸セサルモノハ本則ニ依リ定款ヲ變更シ本則施行ノ日ヨリ六箇
月以内ニ其ノ認可ヲ主務大臣ニ申請スヘシ

○逓信省令第七號

明治三十年^{十二}逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加ス

明治三十五年三月十四日

逓信大臣子爵芳川顯正

大阪茨木間金二十錢	金十錢	桑名伊丹間金五十錢	金二十錢
伊丹池田間	金十錢	四日市池田間	金五十錢
大阪池田間	金十錢	桑名池田間	金五十錢
大津茨木間金二十五錢	金十五錢	名古屋西ノ宮間金六十錢	金二十錢
池田西ノ宮間	金十五錢	名古屋池田間	金六十錢
神戶池田間	金十五錢	横濱西ノ宮間金一圓五十錢	金二十五錢
堺池田間	金二十五錢	横濱池田間	金一圓五十錢
茨木池田間	金二十五錢	東京西ノ宮間金一圓六十錢	金二十五錢
京都池田間	金二十五錢	東京池田間	金一圓六十錢
大津池田間	金二十五錢		金二十五錢

○逓信省令第八號

明治三十三年^{十二}逓信省令第八十七號船舶検査法施行細則中左ノ通改メ明治三十五年四月一日ヨ
リ施行ス

明治三十五年三月十五日

逓信大臣子爵芳川顯正

第七條ヲ左ノ通改ム

特別検査ハ前條ノ規定ニ依リ検査官吏ニ於テ定メタル期間内ト雖モ船舶所有者、船舶管理人又
ハ船舶借入人ヨリ申請アルトキハ管海官廳ニ於テ相當ノ事由アリト認めル場合ニ限リ其ノ期間
ヲ繰上ケ之ヲ行フコトヲ得

第九條第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ繰上フ

第十條中「行フ」ノ下「ヘキ」ノ二字ヲ削ル

第十四條第一項第一號中「總噸數」ノ下ニ「若ハ積石數」ノ五字ヲ加ヘ第四項ヲ削ル

第三十一條第二項ヲ左ノ通改ム

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生シタル事項カ船長ノ交代ニ係ルトキハ新船長ハ前項ノ手續ニ依ラズ
シテ船舶検査證書又ハ假證書ニ變更事項ノ寫書ヲ申請スルコトヲ得

第三十二條第一項第四號ヲ左ノ通改ム

四 内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査
證書有效期間内ニ於テ内地ノ目的港マテ回航スルトキ

同條第一項第四號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

五 内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ

依り検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書ノ有効期間内ニ於テ内地各港ノ間、内地ト臺灣トノ間又ハ内地ト外國トノ間ヲ航行セントスルトキ

六 臺灣ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書ノ有効期間内ニ於テ船舶検査法第十七條ノ場合ニ該證書ルトキ

第三十四條第四號ヲ左ノ通改ム

四 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲メ工場所在地マテ船舶ヲ回航セシムルトキ

同條第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第七號中「航路定限外ノ地ニ於テ検査ヲ受ケタル」ヲ「航路定限外ノ地ニ在ル」ニ改メ第八號ニ繰下ケ第八號ヲ第九號ニ繰下ク

七 船舶検査證書ノ有効期間満了シタル場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船舶ヲ航路定限内ノ検査執行地マテ回航セシムルトキ

第三十五條第一項ヲ左ノ通改ム

前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ同條第五號ノ場合ヲ除ク外船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ事由ヲ具シタル申請書ヲ差出スヘシ但シ船舶カ其ノ船籍港外ニ在ルトキハ船長ニ於テ之ヲ申請スルトコトヲ得

第三十六條第一項ヲ左ノ通改ム

外國ヨリ歸航ノ途中ニ在ル船舶カ外國ニ於テ航行期間ノ満了シタル場合ニ之ヲ其ノ到達港マテ回航セシメントスルトキハ船長ハ相當ノ技能ヲ有スル者ニ於テ船舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタ

ル書面ヲ申請書ニ添附シ最寄帝國領事ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第三十八條第三十九條第四十一條及ヒ第四十二條中、其ノ交付ヲ受ケタル「九」字ヲ削ル

第四十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

適航證書ノ有効期間満了ノトキ又ハ效力ヲ失ヒタルトキハ船長ヨリ五日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十六條ヲ左ノ通改ム

船舶検査手帖ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

船舶検査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊船舶検査手帖ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

船舶検査手帖ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ更ニ封綴ヲ申請スヘシ

第四十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

適航證書若ハ回航認可證書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊適航證書若ハ舊回航認可證書ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第五十二條第十五區ノ次ニ左ノ一區ヲ加ヘ以下順次繰下ク

第十六區 肥前國七郎崎ヨリ黒島ヲ經テ平戸島坊ヶ崎ニ至ル線内及ヒ肥前國大瀬崎ヨリ平戸島魚見崎ニ至ル線内

第五十八條ヲ左ノ通改ム

船舶ニ旅客ヲ搭載スル場合ニ於テ十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ、二年以上五年未滿ノ者ハ四人ヲ以テ旅客定員ノ一人ニ積算シ二年未滿ノ者ハ之ヲ算入セス

第六十四條ヲ左ノ通改ム

船舶所有者者、船舶管理人又ハ船舶借入人ニシテ近海航路以下ノ航路ニ於テ臨時ニ多數ノ漁夫、移民若ハ出稼人ヲ運送セントスルトキハ、最寄管海官廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ第三十一條ノ手續ニ依ラスレテ附録臨時旅客定員算出表ニ定ムル割合ニ依リ旅客ヲ搭載スルコトヲ得

第六十五條第五號航行期間ヲ「豫定航海期間」ニ改メ第六號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

七 船舶検査證書ニ記載セル航行期間

八 船舶検査證書ニ記載セル航路制限

第七十五條ヲ左ノ通改ム

船舶ノ航行期間内ニ於テ左ニ掲クル場合ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ其ノ管海官廳ヘ届出ツヘシ

一 船舶ヲ入渠若ハ上架セントスルトキ

二 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修繕變更セントスルトキ

三 汽機若ハ汽鐘ヲ取放シタルトキ又ハ螺旋軸ヲ拔出シタルトキ

第七十六條ヲ左ノ通改ム

船舶検査證書、通航證書、回航認可證書若ハ臨時旅客定員證書ノ交付ヲ受ケタルトキ又ハ船舶検査證書ノ裏書ヲ受ケタルトキハ汽船ニ在リテハ二圓帆船ニ在リテハ一圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

第四十六條第一項ノ規定ニ依リ船舶検査手帖ノ再交付ヲ受ケタルトキ亦前項ニ同シ

第八十條第一號第二號及ヒ第十號ヲ左ノ通改ム

一 第五章ノ規定ニ依リ船舶検査證書、假證書ノ書換ヲ申請セサルトキ又ハ船舶検査證書、假證書、通航證書、回航認可證書若ハ船舶検査手帖ノ再交付ヲ申請セス又ハ之ヲ返還スヘキ義務ヲ怠リタルトキ

二 第三十二條第二項ノ規定ニ反シ旅客若ハ貨物ヲ搭載シ又ハ第三十三條ノ規定ニ反シ回航認可證書ヲ受ケスレテ旅客若ハ貨物ヲ搭載シ又ハ第三十五條若ハ第三十六條ノ規定ニ反シ回航認可證書ニ明許ヲ受ケスレテ旅客若ハ貨物ヲ搭載シタルトキ

十 第七十五條ノ規定ニ反シ届出ヲ爲サ、ルトキ

臨時旅客定員算出表

航行時間	上層旅客甲板以上ノ場所		下層旅客甲板	
	面積	容積	面積	容積
二十四時間未満	五平方呎	三十五立方呎	八平方呎	五十立方呎
二十四時間以上	七平方呎	四十五立方呎	十平方呎	六十五立方呎

備考 本表ハ旅客定員一人ニ宛ツヘキ船室ノ面積積ノ最少限ヲ示ス

○遞信省令第九號

明治三十三年三月十二日 遞信省令第八十八號船舶検査規程中左ノ通改メ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十五年二月十五日

遞信大臣子爵芳川顯正

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ

検査官吏ニ於テ定期検査若ハ臨時検査執行ノ際船舶ノ資格ニ變更ヲ生シタリト認ムルトキハ更ニ資格ヲ定ムヘシ

第八條第二項第一號ヲ左ノ通改ム

一 鐵船船體

進水後十五年未滿ニシテ其ノ要部造船規程ニ合格セルモノ

進水後十年未滿ニシテ其ノ要部鐵鋼船検査規程ニ合格セルモノ

進水後十五年以上二十七年未滿ニシテ其ノ要部造船規程ニ合格セルモノ

進水後十年以上十八年未滿ニシテ其ノ要部鐵鋼船検査規程ニ合格セルモノ

進水後二十七年以上三十六年未滿ニシテ其ノ要部造船規程ニ合格セルモノ

進水後十八年以上二十七年未滿ニシテ其ノ要部鐵鋼船検査規程ニ合格セルモノ

進水後三十六年以上ニシテ其ノ要部造船規程ニ合格セルモノ

進水後二十七年以上ニシテ其ノ要部鐵鋼船検査規程ニ合格セルモノ

但ニ重底ノ全通セサル船舶ニ於テ其ノ構造造船規程ニ合格スルトキハ該規程ニ合格スルモノト看做ス

第十三條ヲ左ノ通改ム

特別検査ニ於テハ船舶ヲ入渠若ハ上架セシメテ之ヲ執行スヘシ但湖水ノミヲ航行スル船舶ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキニ限り碇泊ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

汽船ノ特別検査ニ於テハ速力試験ヲ執行スヘシ但検査官吏ニ於テ船舶ノ現速力カ前回試験ニ依

リ得タル速力ト單位以上ノ異動ナシト認ムル場合及ヒ第四級船ノ特別検査ノ場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十四條第二項ヲ左ノ通改ム

汽機若ハ汽罐ヲ入換ヘタルトキハ特別検査ニ準シ之ヲ検査スヘシ但此ノ場合ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ船舶ヲ入渠又ハ上架セシメサルモ妨ナシ

第十五條但書ヲ「但外國ニ於テ検査ヲ受ケ検査官吏ノ適當ト認ムル證明書ヲ有スルモノニ限り之ヲ省略スルコトヲ得」ニ改メ第二號中「一年ヲ一年六箇月」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

湖水ノミヲ航行スル船舶ニ於テハ船底ノ検査ハ之ヲ省略シ螺旋軸ノ検査ハ碇泊ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第十九條中「第三十四條第一號」ノ下ニ「及ヒ第三號」ノ五字ヲ加フ

第二十三條ヲ左ノ通改ム

此ノ規程ニ定ムル水壓試験ハ外國ニ於テ水壓試験ヲ受ケ検査官吏ノ適當ト認ムル證明書ヲ有スル船舶ニ限り之ヲ省略スルコトヲ得

第二十七條中第五號及ヒ第七號ヲ左ノ通改ム

五 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船底包板及ヒ毛紙ノ幾部ヲ剝去スルコト

七 揚錨機及ヒ操舵機具ノ要部ヲ取外スコト

第二十八條中第五號及ヒ第七號ヲ左ノ通改ム

五 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船底包板及ヒ毛紙ノ幾部ヲ剝去スルコト

七 揚錨機及ヒ操舵機具ノ要部ヲ取外スコト

第二十九條中第五號、第八號及第十一號ヲ左ノ通改ム

五 鐵船ニ於テハ船體内外ノ要部、木鐵交造船ニ於テハ鐵製ノ要部ヲ銷落スルコト
木船ニ於テハ上甲板梁壓材、船鐮、船口ノ緣材及ヒ上部外板ノ塗料ヲ播落スコト
鐵船及ヒ木鐵交造船ニ於テ上甲板梁、船鐮、船口ノ緣材及ヒ上部外板カ木製ナルトキハ其ノ
塗料ヲ播落スコト

前回特別検査以後ニ於テ銷落ヲ爲シ又ハ塗料ノ播落ヲ爲シタルトキハ其ノ検査ヲ受ケタル
部分ニ限り本號ノ規定ニ拘ハラヌ銷落又ハ播落ヲ省略スルコトヲ得

八 木船及ヒ木鐵交造船ニ於テハ船底包板及ヒ毛紙ノ全部ヲ剝去スルコト但前回特別検査以後
ニ於テ全部ヲ剝去シ検査ヲ受ケタルトキハ其ノ幾部ニ止ムルコトヲ得

十一 揚錨機及ヒ操舵機具ノ要部ヲ取外スコト

第四十一條中「汽鐘」ノ距離一呎未満ナルトキハ「汽鐘ニ接近シ燃焼ノ虞アルトキハ」ニ改ム
第四十五條第一項但書ヲ左ノ通改ム

但上甲板下ノ噸數三百五十噸未満ノ木船ニ限り各船ニ設クルノ必要ナキトキハ各船ヲ通シテ一
箇ノ手用塗水唧筒ヲ設クルモ妨ナシ又平水航路ノ船舶ニハ検査官吏ニ於テ必要ナシト認ムル場
合ニ限り手用塗水唧筒及ヒ測水管ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

第四十六條第二項ヲ削ル

第四十八條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但船樓内、甲板室内若ハ直接ニ波浪ヲ受ケサル場所ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ緣材ノ高ヲ
減スルコトヲ得

第五十五條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但平水航路ノ船舶ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ豫備操舵索ヲ備ヘサルモ妨ナレ

第五十七條第二號ヲ左ノ通改ム

總噸數三百噸以上ノ船舶ニ在リテハ之ニ備フヘキ端艇ノ容積ノ二分ノ一以上ハ救命艇ノ容積ト
爲スコトヲ要ス

同條第三號中「容積ヲ備ヘ且其ノ容積ノ二分ノ一以上救命艇ノ容積ナルトキハ」ヲ「容積ヲ備フルト
キハ」ニ改ム

第五十九條ヲ左ノ通改ム

總噸數百噸未満ノ船舶ニ在リテハ検査官吏ノ見込ニ依リ第四號表ニ掲グル端艇ノ代リニ又總噸
數百噸以上ノ船舶ニ在リテハ第四號表中當該噸數ニ對スル端艇ノ容積ト一段下級ノ噸數ニ對ス
ル端艇ノ容積トノ差ニ相當スル端艇ノ代リニ端艇鈎ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救命
浮帶ヲ用ウルコトヲ得但救命筏ノ空氣箱ハ三立方呎、救命浮環若ハ各一箇ヲ以テ端
艇容積ノ十立方呎若ハ十立方呎未満ニ相當スルモノトス

總噸數百噸以上ノ船舶ニ在リテハ前項ノ規定ニ依リ端艇鈎ヲ備ヘサル端艇、救命筏、救命浮環若ハ救
命浮帶ヲ代用スルトキハ端艇鈎ヲ備フヘキ端艇ノ數ハ其ノ容積ニ應リ第四號表ニ依リ之ヲ定ム
ルモノトス

端艇鈎ヲ備フヘキ端艇ノ數ハ最少艇數十箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ其ノ定數ヨリ二箇以內、
六箇以上ヲ要スル船舶ニ在リテハ一箇ヲ減スルモ妨ナレ

端艇ニ代用スヘキ救命筏ハ検査官吏ノ適當ト認ムル構造ニシテ其ノ空氣箱三立方呎ニ付一人ノ

割合ヲ以テ算定シタル人員ニ對スル坐席ニ充分ナル面積ヲ有シ船一箇、船索二十條、擧救命索其ノ他必要ナル器具ヲ備ヘ且搭載シ得ヘキ人員ヲ表示スヘシ

第六十條第一項中「二百噸」ヲ「三百噸」ニ改ム

第六十一條ヲ左ノ通改ム

此ノ規程ニ依リ備フヘキ端艇ニハ揚卸ニ適當ナル端艇鈎若ハ之ト同一效力ヲ有スルモノヲ備フヘシ

端艇鈎ハ沿海航路以上ノ汽船ニ於テハ鐵製ト爲シ端艇ノ長一呎ニ付五分ノ一時ノ割合ニ依リ又ハ左ノ算式ニ依リ其ノ徑ヲ定ムヘシ但傳馬船其ノ他ノ舟ニ備フル端艇鈎ノ徑ハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

$$D = \sqrt[3]{\frac{L \times B \times D}{40} \left(\frac{H}{3} + S \right)}$$

d ハ端艇鈎ノ徑(吋ニテ)

L ハ端艇ノ長(呎ニテ)

B ハ端艇ノ幅(呎ニテ)

D ハ端艇ノ深(呎ニテ)

H ハ端艇鈎上部支點ヨリノ高(呎ニテ)

S ハ端艇鈎上部突出ノ徑(呎ニテ)

明治三十四年一月一日以前ニ製造シタル船舶ノ端艇鈎ノ徑ハ前項ニ依リ定メタル徑ノ五分ノ四以上ナルトキハ之ヲ合格ト看做ス

第六十五條第一號中「船燈ヲ備フル船舶ニ於テハ」ノ下ニ「船燈一種ニ付」ノ六字ヲ加フ

第六十九條第一項中「星火ヲ發スル榴彈打上筒」ヲ「星火ヲ發スル榴彈」ヲ備フルトキハ其ノ打上筒ニ改ム

第七十二條第一項及ヒ第二項中「旅客定員算出表」ノ下ニ「及ヒ臨時旅客定員算出表」ノ十一字ヲ加フ

第七十三條ニ左ノ二項ヲ加フ
船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニ限り検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ艙内ノ貨物若ハ荷足ノ上ニ板及ヒ越ヲ敷キタル場所ヲ旅客室ト爲ス

トコトヲ得但第七十二條ニ掲グル下層旅客甲板下ニ於ケル貨物若ハ荷足ノ上ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ場合ニ於テ旅客定員一人ニ充ツヘキ面積ノ割合ハ下層旅客甲板ノ割合ニ依ル

第七十七條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得

同條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫、移住民若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得

第八十四條中「旅客定員算出表」ノ下ニ「及ヒ臨時旅客定員算出表」ノ十一字ヲ加フ
第八十五條第一項ヲ左ノ通改ム

甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ梯子ヲ備フヘシ

割合ヲ以テ算定シタル人員ニ對スル坐席ニ充分ナル面積ヲ有シ船一箇、錨索二十卷、擲救命索其ノ他必要ナル屬具ヲ備ヘ且搭載シ得ヘキ人員ヲ表示スヘシ

第六十條第一項中「二百噸」ヲ「三百噸」ニ改ム

第六十一條ヲ左ノ通改ム
此ノ規程ニ依リ備フヘキ端艇ニハ揚卸ニ適當ナル端艇鈎若ハ之ト同一效力ヲ有スルモノヲ備フヘシ

端艇鈎ハ沿海航路以上ノ汽船ニ於テハ鐵製ト爲シ端艇ノ長一呎ニ付五分ノ一時ノ割合ニ依リ又ハ左ノ算式ニ依リ其ノ徑ヲ定ムヘシ但傳馬船其ノ他ノ舟ニ備フル端艇鈎ノ徑ハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

$$d = \sqrt[3]{\frac{L \times B \times D}{40} (H + S)}$$

d ハ端艇鈎ノ徑(吋ニテ)

L ハ端艇ノ長(呎ニテ)

B ハ端艇ノ幅(呎ニテ)

D ハ端艇ノ深(呎ニテ)

H ハ端艇鈎上部支點ヨリノ高(呎ニテ)

S ハ端艇鈎上部突出ノ徑(呎ニテ)

明治三十四年一月一日以前ニ製造シタル船舶ノ端艇鈎ノ徑ハ前項ニ依リ定メタル徑ノ五分ノ四以上ナルトキハ之ヲ合格ト看做ス

第六十五條第一號中「船燈ヲ備フル船舶ニ於テハ」ノ下ニ「船燈一種ニ付」ノ六字ヲ加フ

第六十九條第一項中「星火ヲ發スル榴彈打上筒」ヲ「星火ヲ發スル榴彈」ヲ備フルトキハ其ノ打上筒ニ改ム

第七十二條第一項及ヒ第二項中「旅客定員算出表」ノ下ニ「及ヒ臨時旅客定員算出表」ノ十一字ヲ加フ

第七十三條ニ左ノ二項ヲ加フ
船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニ限り検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ艙内ノ貨物若ハ荷足ノ上ニ板及ヒ籠ヲ敷キタル場所ヲ旅客室ト爲スコトヲ得但第七十二條ニ掲グルル下層旅客甲板下ニ於ケル貨物若ハ荷足ノ上ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テ旅客定員一人ニ充ツヘキ面積ノ割合ハ下層旅客甲板ノ割合ニ依ル

第七十七條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得

同條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫、移任民若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ適用セサルコトヲ得

第八十四條中「旅客定員算出表」ノ下ニ「及ヒ臨時旅客定員算出表」ノ十一字ヲ加フ

第八十五條第一項ヲ左ノ通改ム
甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ梯子ヲ備フヘシ

同條第二項中「前項ノ梯子ハ」ヲ「沿海航路以上ノ船舶ニ於テハ前項ノ出入口ハ天氣ノ如何ニ拘ハラズ何時ニテモ甲板上ニ出入シ得ヘキ裝置ト爲シ又其ノ梯子ハ」ニ改メ「總幅ヲ有スルモノ」ニ改ム

第八十六條第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

但明治三十四年一月一日以前ノ製造ニ係ル船舶ニシテ鑄鐵製ノモノヲ用井タルトキハ検査官吏ニ於テ蓋支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ合格ト看做ス

第八十七條ヲ左ノ通改ム

近海航路以上ノ船舶ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニハ舷窓、出入口、槍口、天窓其ノ他甲板諸口ノ外ニ通風管ヲ上下層旅客甲板ニ各別ニ設ケ其ノ截面ハ旅客定員一人ニ付出入口トモ各二平方吋半ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但機關室ノ兩側ニ於ケル雜居客室ニ於テハ一倍三分ノ一ト爲スヘシ

屈曲セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ屈曲ノ度ニ應シ各屈曲ニ對シ百分ノ五乃至十其ノ截面ヲ増加スヘシ又屈折セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ屈折ノ度ニ應シ各屈折ニ對シ百分ノ十六乃至三十六其ノ截面ヲ増加スヘシ

船樓内又ハ甲板室内ニ在ル上甲板口ヲ通シ雜居客室ニ通風シ得ル場合、機械的の通風ノ裝置アル場合、雜居客室内ノ容積ニ餘剩アル場合若ハ雜居客室ト他室ト空氣ノ流通シ得ル場合ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ通風管ノ截面ヲ減少スルコトヲ得

船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫、移住民若ハ出稼人ヲ搭載スル場合ニ於ケル通風管ハ検査官吏ノ見込ニ依リ第一項ノ規定ニ依ラサルモ妨ナシ

第八十九條ヲ左ノ通改ム

船舶検査法施行細則第六十四條ニ該當スル船舶ニ於テ高三呎以上ノ舷牆又ハ柵欄ヲ有シ且完全ノ天幕ヲ備フルトキハ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノモノニ限り上甲板ニ於テ適當ノ場所ヲ限リ旅客ヲ搭載スルコトヲ得

航行豫定時間三時間ヲ超エサル平水航路ノ船舶ハ上甲板上又ハ其ノ他閉塞セサル場所ニ於テ検査官吏ノ適當ト認ムル部分ニ限り旅客ヲ搭載スルコトヲ得

前二項ノ場所ハ其ノ形状ニ從ヒ第八十三條ノ規定ニ依リ面積ヲ算出スヘシ

第九十二條第一項但書ヲ左ノ通改ム
但人員三百人以上ナルトキ若ハ沿海航路以下ノ船舶ナルトキハ検査官吏ニ於テ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

第九十四條ヲ左ノ通改ム

旅客船ニ於テハ高三呎以上ノ舷牆又ハ柵欄ヲ堅牢ニ取附クヘシ但第三級船以下ノ船舶又ハ船舶検査法施行細則第六十四條ノ規定ニ依リ漁夫若ハ出稼人ノミヲ搭載スル船舶ニレテ検査官吏ニ於テ安全ト認ムルトキハ舷牆又ハ柵欄ノ高ヲ減スルカ若ハ他ノ方法ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

柵欄ノ横棒ハ其ノ距離九吋ヲ超ニヘカラス但之ニ帆布若ハ網ヲ取附ケ其ノ他検査官吏ニ於テ安全ト認ムル裝置アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ唧筒ハ獨立ノ汽機ヲ以テ運轉セシムルコトヲ得

第百十七條ヲ左ノ通改ム

正汽管及ヒ給水管ノ壓力ハ機關検査規程第五章ニ依リ之ヲ算定スヘシ

第百二十四條ヲ左ノ通改ム

最大喫水線以下及ヒ其ノ近傍ノ孔ニ通スル諸管ハ容易ニ開閉シ得ヘキ辨又ハ嚙子ヲ以テ外板ニ取附クヘシ但沿海航路以下ノ船舶ニ於テハ最大喫水線以上ノ孔ニ通スル諸管ニ限リ検査官吏ノ見込ニ依リ辨又ハ嚙子ヲ省略スルコトヲ得

○遞信省令第十號

明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則第八十一條但書左ノ通改正ス

明治三十五年三月十八日

遞信大臣子爵芳川顯正

但シ必要ト認ムルトキハ其ノ區域ヲ制限シ又ハ其ノ區域外ノ地ヲ區域内ニ編入スルコトアルヘ

〔參照〕

國信省令第八十一號電報規則(明治三十三年九月一日)抄錄

第八十一條 電信局所ヨリ陸上一里以内及此ノ局所所在ノ市街内ヲ電報直通區域トス但シ特ニ指定シテ其ノ區域ヲ制限スルコトアルヘ

○遞信省令第十一號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト瑞典及諾威國兩政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年三月二十七日

遞信大臣子爵芳川顯正

第一條 千八百七十五年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測定證書ヲ受有

スル瑞典國ノ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測定スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數ニ瑞典國ノ法令ニ依リ控除シタル部分ニシテ帝國ノ船舶積量測定規則ニ依リハ控除ヲ許ササルモノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條 千八百八十一年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測定證書ヲ受有

スル瑞典國ノ汽船ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測定スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數ニ帝國ノ船舶積量測定規則ニ依リハ控除ヲ許ササル部分ニシテ該證書ニ其控除ヲ明示シタル場所ノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス但瑞典國汽船ノ船長ヨリ申請アルトキハ特ニ帝國ノ船舶積量測定規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シテ其登簿噸數ヲ算定ス

船舶積量測定證書ニ英吉利式ニ依リ測定シタル登簿噸數ノ記載アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ハラヌ該噸數ハ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第三條 千八百九十三年十月一日以後諾威國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測定證書ヲ受有スル諾威國ノ汽船又ハ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測定スルコトナク其證書ニ記載スル登簿噸數ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

○遞信省令第十二號

明治三十年十二月遞信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加ス

明治三十五年三月二十八日

遞信大臣子爵芳川顯正

「横濱蒲田間金二十錢」ノ次ニ

東京羽田間	金二十錢
東京大田河原間	金二十錢
横濱大田河原間	金二十錢

「小倉若松間金二十錢金十錢」ノ次ニ

横濱羽田間	金二十五錢
東京池上間	金二十錢
横濱池上間	金二十錢
	金十錢
	金十錢

○逓信省令第十三號

明治三十三年八月逓信省令第二十七號私設鐵道法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十五年三月二十八日

逓信大臣子爵芳川顯正

第十六條第一項第三號中「建築定規」ノ下ニ「及車輛定規」ノ五字ヲ加ヘ第十一號中「客車並貨車ノ輛數」ヲ「客車貨車共ノ他車輛ノ輛數ニ」機關車及客貨車ノ車臺ヲ「機關車及客貨車共ノ他車輛ノ車臺ニ改ム

第十八條第一項第一號中「家屋及其ノ他ノ建造物ニ接近シ又ハ之ヲ移轉スヘキ箇所」ヲ「重要ナル建造物ニ接近シ又ハ之ヲ取除クヘキ箇所」ニ改ム

第二十三條第四號中「機關車、客車及貨車」ヲ「車輛」ニ改メ同號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 車輛ノ改造但車輛ノ用方ヲ變更スルモノハ此限ニアラス

第二十四條ヲ左ノ通改ム

第二十四條 左ノ各號ニ該當スルモノハ理由書及新舊對照圖並新舊工費對照表ヲ添附シ其ノ都度届出ツヘシ

- 一 線路中心線ノ異動カ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ左右各半鎖其ノ他ニ於テハ各五鎖以內ニ在ルトキ
- 二 曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルトキ並之ヲ變更シテ二十鎖ヨリ短縮セシメサル

トキ

三 施工基面高低ノ變更カ實測縱斷面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ二呎其ノ他ニ於テハ六呎以內ニ在ルトキ

四 線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩ナラシムルトキ並之ヲ變更シテ百分ノ一ヨリ急ナラシメサル

トキ

停車場内線路ノ勾配、内務省直轄河川及其ノ他著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スル場合ニ於テハ前項ニ該當スル場合ト雖認可ヲ受クルコトヲ要ス

前二項ノ外線路ノ變更ハ第一項ニ掲グル書類圖面ヲ添附シ認可ヲ受クヘシ

第二項中著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スル場合及前項線路ノ變更ノ場合ニ於テハ地方長官ヲ經由スヘシ

停車場、聯絡所、信號所及隧道、橋梁ノ名稱ヲ變更シタルトキハ之ヲ届出ツヘシ

第二十五條第一項中「圖面及工事方法書」ヲ「圖面、工事方法書及工費豫算書」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於ケル假設工事ノ變更ニシテ第二十三條第一號乃至第三號及第二十四條第一項第一號乃至第四號ニ該當スル場合ニ於テハ第二十二條ニ掲グル書類圖面等ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ届出ツヘシ

第四號様式「收支概算書說明書」ノ下ニ附表ヲ加フ

○逓信省令第十四號

在清國帝國領事館附海軍局職員手摺ノ給與ニ關スル手續ハ明治三十四年逓信省令第十九號在外國

郵便及電信局官吏手當給與細則ノ規定ヲ準用ス

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十一年遞信省令第十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十五年三月二十九日

遞信大臣子爵芳川顯正

〔參照〕

遞信省令第十七號(明治三十一年九月十三日)

明治三十一年勅令第二百九號在清國帝國領事館附司檢官以下月手當金給與手續ハ明治三十四年遞信省令第三十號千島國
國後島同國海部島大隅國大島琉球國八重山島ニ設置スルニ等郵便及電信局職員在勤月手當給與細則ヲ準用ス

○内務省令第十一號

明治三十三年内務省令第四十九號中「北海道鐵道」ノ下ニ「及土木」ヲ加フ
本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十五年四月一日

内務大臣男爵内海忠勝

〔參照〕

明治三十三年十一月内務省令第四十九號ハ北海道鐵道工事請負ノ競争ニ加ハラントスル者ノ資格ニ關スル件ナリ

○内務省令第十二號

神部署職員俸給支給規則左ノ通相定ム

明治三十五年四月二日

内務大臣男爵内海忠勝

神部署職員俸給支給規則

第一條 神部署長、神部ノ俸給ハ一號表ニ依リ神部補ノ俸給ハ二號表ニ依ル

第二條 俸給支給方ハ神部署長、神部ニ在リテハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ神部補ニ在リテハ判
任官俸給支給ノ例ニ依ル

附則

第三條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケケルモノハ現ニ受ケル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ケ
一號表

職名	俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸
神部署長	八百圓	七百圓	六百五十圓	六百圓	
神部	五百五十圓	五百圓	四百五十圓	四百圓	

明治三十五年四月 省令 大藏省第七號

支那支	支那支		支那支		支那支		支那支		支那支	
英城縣那到那橋鄉村	那那那		那那那		那那那		那那那		那那那	
七十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內
支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支
安途那新殿村	石川郡窪田村	石城郡三坂村	平高崎村	內野村	西浦原郡	中浦原郡	北浦原郡	新瀧郡	新瀧郡	新瀧郡
六十町步以內	四十七町步以內	八町步以內	三十八町步以內	三十八町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內
支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支
上房郡	阿智郡	川上郡	甲奴郡	比婆郡	神石郡	岡山縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣
中津川村	中津川村	中津川村	中津川村	中津川村	中津川村	中津川村	中津川村	中津川村	中津川村	中津川村
四十二町步以內	四十二町步以內	四十二町步以內	四十二町步以內	四十二町步以內	四十二町步以內	四十二町步以內	四十二町步以內	四十二町步以內	四十二町步以內	四十二町步以內
支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支
日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡
永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村
十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內

八八

支那支	支那支		支那支		支那支		支那支		支那支	
那那那	那那那		那那那		那那那		那那那		那那那	
三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內	三十町步以內
支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支
大分縣	大分縣	大分縣	大分縣	大分縣	大分縣	大分縣	大分縣	大分縣	大分縣	大分縣
直入郡	直入郡	直入郡	直入郡	直入郡	直入郡	直入郡	直入郡	直入郡	直入郡	直入郡
藤生村	藤生村	藤生村	藤生村	藤生村	藤生村	藤生村	藤生村	藤生村	藤生村	藤生村
七十町步以內	七十町步以內	七十町步以內	七十町步以內	七十町步以內	七十町步以內	七十町步以內	七十町步以內	七十町步以內	七十町步以內	七十町步以內
支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支	支那支
日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡	日置郡
永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村	永吉村
十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內	十四町步以內

明治三十五年四月 省令 大藏省第七號

八九

○大藏省令第八號

明治三十年大藏省令第十號中左ノ通改正ノ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年四月十一日

大藏大臣 野村 浩一

第一條 國稅徵收法施行規則第一條ノ納稅告知書ハ稅務署長又ハ稅務支署長ニ於テ第一號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條ヲ第三條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條ノ二 納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第六條第二項ヲ左ノ通改ム

前項ノ督促ヲ爲ストキハ第七號書式第八號書式ノ納付書ヲ添附スヘシ但シ收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ係ルトキハ第七號書式ノ納付書ヲ添附スルヲ要セス

納稅人督促ヲ受ケ稅金及督促手数料ヲ金庫ニ納付セムトスルトキハ納稅告知書及納付書ヲ添附スヘシ但シ市町村ノ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ納稅告知書ヲ添附スルヲ要セス

第七條中「滯納處分費」ヲ「督促手数料、滯納處分費」ニ改ム

第九條 稅務管理局長ハ國稅滯納者ノ財產差押ヲ命シタル收稅官吏ニ左ノ證據ヲ交付スヘシ

用紙厚紙 縦二寸五分横一寸五分

第一號書式	稅務署
國稅滯納者	稅務署
財產差押	稅務署
證據	稅務署

又ハ「何」稅務署	稅務署
又ハ「何」稅務支署	稅務支署
官 氏 名	官 氏 名

第十一條 國稅徵收法施行規則第十六條ノ差押調書ハ第十號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十二條 第十三條及第十五條中「差押財產」ヲ「財產」ニ改ム

第十八條 督促又ハ滯納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十一號書式ノ送達書ヲ交付シ同號書式ノ送達證ニ受取人ノ署名捺印ヲ求ムヘシ

第一號書式中通知書「何」金庫圖ノ左側ニ「又ハ收入官」ヲ加ヘ備考第四號ヲ左ノ通改ム

四 收稅官吏木書ニ依リ稅金ヲ領收スルトキハ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證ヲ發行スルコトヲ要セス

第六號書式中「五」ヲ削リ第七號、第八號及第十一號書式ヲ左ノ通改メ第九號及第十二號書式中「滯納處分費」ヲ「督促手数料及滯納處分費」ニ改ム

第九號書式ニ左ノ備考ヲ加フ

二 債權ノ目的カ金錢以外ノモノナルトキハ其ノ名稱、數量其ノ他重要ナル事項ヲ明記スルモノトス

第七號書式

用紙適宜 縦四寸五分横二寸五分ノモノニ枚數四寸五分ノモノ一枚	何市何町村
納	何 年 度
付	經 常 租
何	稅 何 稅 (項) 何 年 何 期 分
大藏省主管	何 稅務管理局 何 稅務署又ハ 何 稅務支署
一金「何」租	何 稅
一金「何」租	何 稅
明治何年何月何日	何 稅

何年 度		[何] 市何町村	
租 税		(項)	[何] 年 [何] 期 分
一金 何租	任印	何	税
税金取付主		何	税
税金		[何] 金	庫印
明治[何]年[何]月[何]日			

何年 度		[何] 市何町村	
租 常租		(項)	[何] 年 [何] 期 分
一金 何租	任印	何	税
税金取付主		何	税
税金		[何] 金	庫印
明治[何]年[何]月[何]日領收			
[何] 税務管理局長 氏 名 殿			

備考
 一 出納區域ニアラサル金庫へ納付セシムルトハ納付書中「何」金庫へ納付スルコトヲ承認スルト記入シ稅務署又ハ稅務支署印ヲ捺捺スルモノトス

第八號書式

何年 度		[何] 市何町村	
租 常租		(項)	[何] 年 [何] 期 分
一金 何租	任印	何	税
税金取付主		何	税
税金		[何] 金	庫印
明治[何]年[何]月[何]日領收			
[何] 税務管理局長 氏 名 殿			

何年 度		[何] 市何町村	
租 常租		(項)	[何] 年 [何] 期 分
一金 何租	任印	何	税
税金取付主		何	税
税金		[何] 金	庫印
明治[何]年[何]月[何]日領收			
[何] 税務管理局長 氏 名 殿			

用紙總定額四十五分ノモノニ一枚額四十五分ノモノ一枚換算

通 知 書

何 年 度	何 郡 市 何 町 村	某 納
經 常 雜 收	入 辨 價 及 送 約 金	
一 金 何 租 任 金庫 取 主 任 印	辦 價 金	
明 治 何 年 何 月 何 日 領 取	何 稅 務 署 又 何 稅 務 支 署 長	
何 稅 務 管 理 局 長 氏 名 殿	何 金 庫 印	

備考

一 出納區域ニアラサル金庫(納付セシムルトキハ納付書申(何)金庫(納付スルトコトヲ承認ス)ト記入シ稅務署 又ハ稅務支署印ヲ捺捺スルモノトス

第十一號書式

送 達 書	送 達 證
送達スヘキ 番 名 通 取	送達シタル 番 名 通 取
名 宛 人 氏 名	名 宛 人 氏 名
名 宛 人 所 在 所 又 ハ 居 所	受 取 人 氏 名
右 使 丁 ワシテ送達セシム	送 達 日 時
明 治 何 年 何 月 何 日	何 郡 市 何 町 村
何 稅 務 署 長 又 何 稅 務 支 署 長	何 郡 市 何 町 村
官 氏 名 印	使 丁 何 某

〔參照〕

大藏省令第十號國稅徵收法施行細則(明治三十年六月二十六日抄録)

- 第一條 國稅ヲ徵收セムトスルトキハ稅務署長又ハ稅務支署長ニ於テ第一號書式ノ納稅告知書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ其ノ前正ヲ要スルトキハ前正ノ納稅告知書ヲ交付スヘシ
- 第六條 稅金納付ノ督促ヲ爲ストキハ稅務署長又ハ稅務支署長ハ第六號書式ノ督促狀ヲ發スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ納稅金及督促手續料ヲ金庫ニ納付セシムルトキハ納入ワシテ第七號書式第八號書式ノ納付書ヲ添付セシムヘシ
- 第七條 稅金及納納金分費ハ郵便爲替、日本銀行若ハ其ノ代理店ニ宛テタル送金手形又ハ日本銀行若ハ其ノ代理店ニ於テ贈明シタル小切手ヲ以テ納付スルトコトヲ得
- 第九條 國稅納納者ノ財產差押ヲ命シタル收稅官吏ニハ左ノ取扱ヲ受付ス 用紙厚紙 縱二寸五分横一寸五分

第 何 號 國稅納納者 財產差押 證 票	大 關 省 印
第 何 稅 務 署 又 何 稅 務 支 署 官 氏 名	何 郡 市 何 町 村

- 第十一條 收稅官吏財產ノ差押ヲ爲ストキハ第十號書式ノ差押調製シ之ヲ立會人ニ交付スヘシ
- 第十二條 收稅官吏差押財產ヲ取却セムトスル場合ニ其ノ價格ヲ見積リ雖キモノアルトキハ適當ナル鑑定人ヲ選ミ其ノ押價ヲ爲サシムルトコトヲ得
- 第十三條 入札ノ方法ヲ以テ差押財產ヲ公賣スル場合ニハ買受人ハ其ノ住所氏名買受財産ノ種類員額及入札價額ヲ記シタル入札書ヲ封緘シテ提出スヘシ
- 第十五條 競賣ノ方法ヲ以テ差押財產ヲ公賣スルトキハ競賣人ヲ選ミ之ヲ取扱ハシムルトコトヲ得
- 第十八條 差押財產分ニ關シ使丁ヲ以テ機關ノ送達ヲ爲ストキハ第十一號書式ノ送達書ヲ添付スヘシ

○陸軍省令第十二號

明治三十一年陸軍省令第十六號中左ノ通改正シ四月一日ヨリ施行ス

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

第五憲兵隊與分隊憲兵屯所及同位置ノ區畫中「吉浦村」ヲ「二川町」ニ改メ同管府縣ノ區畫中安藝郡括弧内「吉浦村」ヲ次へ「二川町」ヲ加フ

○陸軍省令第十三號

明治三十一年陸軍省令第十六號中左ノ通改正ス

明治三十五年四月十五日

陸軍大臣寺內正毅

第六憲兵隊佐世保分隊網内分隊木部位置及憲兵屯所位置ノ區畫「同縣東彼杵郡佐世保村」ヲ各「同縣佐世保市島瀬町」ニ、同憲兵屯所ノ區畫「佐世保村」ヲ「佐世保市」ニ改メ同管府縣ノ區畫中東彼杵郡括弧内「佐世保村」ヲ削リ「北松浦郡」ノ上ニ「佐世保市」ヲ加フ

○陸軍省令第十四號

明治三十三年陸軍省令第三十九號中左ノ通改正ス

明治三十五年四月二十六日

陸軍大臣寺內正毅

一 甲號表雛形中「イ」「ロ」「ハ」ニ各欄内①②③④⑤⑥⑦⑧⑨ノ各符號ヲ削除シ船舶欄ノ下別ニ「官衛公署」ノ一欄ヲ加フ

一 甲號表調査上ノ注意第二ヲ「現住人口ハ年末ノ本籍人口ニ入寄留者ヲ加ヘ之ヨリ出寄留者陸海軍在營在艦ノ下士兵卒、囚人、移治人、在臺灣人及在外國人ヲ除キタルモノトス」ニ改ム

一 甲號表製表上ノ注意第三ヲ「市郡區役所、島嶼、北海道廳支廳、郵便電信局、同支局、郵便局、同支局、電信取扱所、公衆電報取扱所、電話交換局、同支局、同分局、中央金庫、本金庫、支金庫、警察署、同分署アル市區町村(島又ハ間切)ニ在リテハ總テ官衛公署ノ欄内ニ其ノ名稱ヲ記入スヘシ」ニ改ム

〔參照〕

明治三十三年十一月陸軍省令第三十九號ノ陸軍事務條例ニ依ル陸表ノ雛形ノ件ナリ

○司法省令第七號

函館地方裁判所管内函館區裁判所戶井出張所管轄渡島國龜田郡鏡浦村大字石崎ニ屬スル商業登記ノ事務ハ函館區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ

本令ハ明治三十五年四月十日ヨリ施行ス

明治三十五年四月五日

司法大臣野村浩一

○司法省令第八號

明治十九年八月司法省令甲第二號公證人規則施行條例第一條第一項但書中「二十名以下」ノ下ニ「京都區裁判所管内及神戸區裁判所管内ニ於テハ十五名以下」ヲ加フ

明治三十五年四月八日

司法大臣野村浩一

〔參照〕

司法省令甲第二號公證人規則施行條例(明治十九年八月三十日)抄録

第一條 公證人ハ各區裁判所管内二十名以下ヲ限ク但東京區裁判所管内ニ於テハ二十五名以下大阪區裁判所管内ニ於テハ二十名以下ヲ限クコトアル可シ

○文部省令第九號

實業教育費國庫補助法第七條ニ基キ實業學校教員養成規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十五年四月一日

文部大臣野村浩一

第一條 東京帝國大學農科大學本科若ハ實科、東京高等商業學校、東京高等工業學校、東京美術學

校、商船學校及水産講習所ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事スヘキ者並東京帝國大學農科大學附屬農業教員養成所、東京高等商業學校附設商業教員養成所及東京高等工業學校附設工業教員養成所ノ生徒ニハ學費ヲ補助スルコトアルヘシ

但シ東京高等工業學校附設工業教員養成所研究生ニ補助スル學費ハ六圓ヲ超過スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ學費ノ補助ヲ受ケタル者ハ卒業ノ日ヨリ學費ノ補助ヲ受ケタル年限ニ一箇年ヲ加ヘタル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス但シ必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ從事スルノ義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

第三條 學費ノ補助ヲ受ケル者半途ニシテ退學シ若ハ前條ノ義務ヲ盡サ、ルトキハ補助シタル學費ヲ償還スヘキモノトス但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第四條 第一條ノ學生生徒ノ員數及各養成所ニ募集スヘキ員數ハ毎年文部大臣之ヲ定ム

附則

第五條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第六條 明治三十二年文部省令第十三號實業學校教員養成規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス但シ該規程ニ依リ現ニ農業教員養成所、商業教員養成所及工業教員養成所ニ在學スル生徒ハ各東京帝國大學農科大學附屬農業教員養成所、東京高等商業學校附設商業教員養成所東京高等工業學校附設工業教員養成所ノ生徒タルモノトス

前項ノ生徒及東京帝國大學農科大學木科若ハ實科、東京高等商業學校及東京高等工業學校ノ學

生、生徒ニシテ從前ノ規程ニ依リ學費ノ補助ヲ受ケタル年限ハ本令第二條ノ年限中ニ算入ス

第七條 明治三十二年文部省令第十三號實業學校教員養成規程ニ依リ義務ヲ有スル卒業者ニ關シテハ尙從前ノ規程ニ依ル

○文部省令第十號

明治三十三年文部省令第十三號高等學校大學豫科學科規程中左ノ通改正ス

文部大臣理學博士男齋藤池大麓

第一條 第二項中「第二部ノ學科ハ」ノ下ニ「醫科大學ノ藥學科」ヲ加フ

第三條 第二項中「前項ノ學科ノ外」ノ下及第四項中「第一項ノ學科ノ外」ノ下ニ「醫科大學ノ藥學科」ヲ加フ

第五條 中「第二部各學科每週授業時數表」ノ附記第一項「第三年ニ於テ」ノ下、第二項ノ始及第四項「隨意科トシテ」ノ下ニ「醫科大學ノ藥學科」ヲ加フ

〔參照〕

文部省令第十三號高等學校大學豫科學科規程(明治三十三年八月四日)抄録

第一條 高等學校大學豫科學科ヲ分テ第一、第二、第三部トス

第一部ノ學科ハ法科大學及文科大學志望者ニ第二部ノ學科ハ工科大學、理科大學、理工科大學及農科大學志望者ニ第三部ノ學科ハ醫科大學志望者ニ課スルモノトス

第三條 第二部ノ學科ハ倫理、國語、外國語、數學、物理、化學、地質及礦物、圖畫、體操トス

前項ノ學科ノ外理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學志望者ニハ動物及植物ヲ限シ工科大學及理工科大學ノ土木工學科、機械工學科、電氣工學科、探礦及冶金學科、工學科、造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科、理科大學ノ星學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、林學科志望者ニハ測量ヲ限ス

外國語ハ英語ノ外獨語又ハ佛語ヲ選ハシム但シ工學科大學及理工科大學ノ電氣工學科、應用化學科、製造化學科、探礦及冶金學科並ニ農科大學志望者ハ必ス獨語ヲ選フヘキモノトス

第一項ノ學科ノ外理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科並ニ農科大學ノ獸醫學科志願者ニハ隨意科トシテ科目ヲ得
スルコトヲ得

○農商務省令第六號

道廳府縣種畜場規程左ノ通相定ム

明治三十五年四月三十日

農商務大臣男爵平田東助

道廳府縣種畜場規程

第一條 本規程ニ於テ道廳府縣種畜場ト稱スルハ北海道地方費又ハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル種畜場ヲ謂フ

第二條 道廳府縣種畜場ハ畜産ノ改良發達ヲ圖ル爲メ種畜ノ繁殖、育成及配付ヲ行フモノトス

第三條 道廳府縣種畜場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

- 一 巡回講話
- 二 家畜ノ改良繁殖ニ關スル試験
- 三 家畜ノ管理及飼養方法ニ關スル試験
- 四 家畜ノ肥肉法ニ關スル試験
- 五 酪業ニ關スル試験
- 六 牧草ノ栽培ニ關スル試験
- 七 畜産業ニ關スル講習

第四條 道廳府縣種畜場ハ農商務大臣ノ指定レタル事項ニ付キ試験又ハ調査ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 道廳府縣種畜場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ

受テヘン分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ

- 一 名稱及位置
- 二 業務ノ項目
- 三 用地ノ種類及其ノ面積
- 四 建物ノ種類及其ノ坪數
- 五 職員ノ職名、其ノ員數及俸給額
- 六 收支豫算書

第六條 道廳府縣種畜場ノ收支豫算書ハ每會計年度一箇月前ニ地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出ス

前條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ届出ツヘン

第七條 道廳府縣種畜場前年度ノ決算報告書及業務功程ハ地方長官ヨリ每會計年度後二箇月内ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘン

道廳府縣種畜場ノ業務ニ關スル報告書ハ之ヲ發行スル毎ニ地方長官ヨリ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘン

第八條 道廳府縣種畜場又ハ其ノ分場ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受テヘン

附則

第九條 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本規程施行前ニ設立シタル道廳府縣種畜場ニ付テハ地方長官ハ施行ノ日ヨリ一箇月内ニ
第五條ニ掲ケタル事項ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

○逓信省令第十五號

明治三十年六月逓信省令第十八號外國新聞電報規則中左ノ通改正シ本日ヨリ施行ス

明治三十五年四月十日

逓信大臣子爵芳川顯正

第四條中「本邦ト清國上海」ノ次ニ「北京天津及芝罘」ノ七字ヲ加フ

〔參照〕

逓信省令第十八號外國新聞電報規則(明治三十年六月二十六日)抄録

第四條 新聞電報ハ左ノ場合ヲ除クノ外普通ノ英語ヲ以テ記載シタルモノニ限ル

但數字又ハ文字ヲ以テ示シタル商標若ハ商號ハ普通通語ト見做ス

一 本邦ト清國上海トノ間ニ送受スルモノハ普通通語ヲ羅馬文字ヲ以テ記載スルコトヲ得

一 本邦ト韓國トノ間ニ送受スルモノハ普通通語ヲ羅馬文字若ハ片假名ヲ以テ記載スルコトヲ得ト雖モ羅馬文字ト片假名トヲ混用スルヲ得ス

○逓信省令第十六號

明治三十三年九月逓信省令第四十三號中左ノ通改メ來六月二十日ヨリ施行ス

明治三十五年四月二十四日

逓信大臣子爵芳川顯正

一 第一號左ノ通改ム

一 通常郵便物ノ名宛變更若クハ取戻、代金引換ノ取消又ハ現金取立ノ取消ニ關スル請求ハ電信ニ依ルコトヲ得ス

一 第一號ノ次ニ左ノ二號ヲ加ヘ以下順次繰下ク

二 價格表記通常郵便物トシテ取扱フヘキ有價ノ物件ハ紙幣又ハ有價ノ證券ニ限ル
三 在清國郵便官署相互間並ニ同官署ト其以外ノ郵便官署トノ間ニ發著スル價格表記通常郵便物ノ價格表記料ハ左ノ如シ

表記金額十圓迄ハ金二十錢

表記金額十圓以上ハ其超過シタル額ニ對シテ十圓迄毎ニ金十錢

〔參照〕

逓信省令第四十三號(明治三十三年九月一日)抄録

明治三十三年十月一日以降本邦ト在外郵便官署所在地トノ間並ニ在外郵便官署所在地相互間ニ發著スル通常郵便物ニ關スル取扱ニ付テハ左記各號ニ記載スルモノヲ除クノ外明治三十三年九月逓信省令第四十二號郵便規則ヲ適用ス

一 本邦ト在外郵便官署所在地トノ間並ニ在外郵便官署所在地相互間ニ發著スル通常郵便物ニ付テハ價格表記若クハ代金引換ノ取扱、現金取立ノ委託並ニ電信ニ依ル名宛變更若クハ取戻ノ請求ヲナスコトヲ得ス

○外務省令第三號

明治三十三年外務省令第五號在外帝國領事館管轄區域中左ノ通改正ス

明治三十五年五月十六日

外務大臣男爵小村壽太郎

在韓國京城帝國領事館管轄區域中京畿道東部果川ノ下ニ始興ヲ加フ

○内務省令第十四號

治安警察法第十八條ニ依リ戎器爆發物共ノ他ノ物件攜帶禁止ノ件左ノ通之ヲ定メ明治三十五年六月一日ヨリ施行ス

明治三十五年五月二十六日

内務大臣男爵内海忠勝

栃木縣上都賀郡足尾町ニ於テ戎器爆發物及戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ攜帶スルコトヲ得ス但職業ノ爲メ爆發物ヲ攜帶スルハ此限リニ在ラス

大藏省令第九號

明治二十六年十一月十一日大藏省令第三十二號諸計算書仕拂命令領收證及諸帳簿ノ様式中第九號書式甲、丙ヲ左ノ通り改正シ丁、戊ヲ削除ス

(「」内ハ執毛朱書)

第九號書式甲ノ一	
1.	
日	金額
	25,000,000
	20,000,000
	1,000,000
	500,000,000
	546,000,000
	0
	546,000,000

明治三十五年五月 省令 大藏省第九號

第九號式丙				國庫日記簿 (支出ノ部) 明治何年何月何日	
收入支出差引殘額				原簿丁數	借方科目
借方		貸方			
借方	貸方	借方	貸方		
0	0	0	0	2.	某年度歳出 報第何號
				4.	雜 報第何號
				1.	貸方金庫 某年度歳出外一件 金庫現在高

107

明治三十五年五月 省令 大藏省第九號

第九號式甲ノ二		國庫日記簿 (收入ノ部) 明治何年何月何日	
金額		原簿丁數	貸方科目
借方	貸方		
		3.	某年度歳入 報第何號
12,000	00 0	4.	雜 報第何號
8,000	00 0	2.	某年度歳出 報第何號
20,000	00 0	5.	〔定額戻入 報第何號〕 某年度發行大藏省證券 報第何號
526,000	00 0	1.	借方金庫 某年度歳入外三件 前日ロリ越金庫現在高
546,000	00 0		

106

(某年度各金庫收支金報告額整理簿)
中央金庫 (何地本金庫)

收入 額						支出 額					
收支金報告額			毎月出納計算得掲額			收支金報告額			毎月出納計算		
收入	同金受入	預納同受入	收入	同金受入	預納同受入	支出	同金拂出	預納同拂出	支出	同金拂出	預納同拂出
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

簿助補庫國 中

明治三十五年五月一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

年月日	摘要	收報年	支金日
何 何	報第何號	何 何	何 何
何 何	報第何號	何 何	何 何
何 何	「更正」	何 何	何 何
何 何	「戻入」	何 何	何 何
何 何	何年何月分出納計算書	何 何	何 何

○大藏省令第十號
 當省ノ所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ付テハ左ノ官吏ヲ指定ス

明治三十五年五月二十七日

警視總監 北海道廳長官
 大藏省總務局營繕課長 府縣知事
 大藏省總務局會計課長
 稅關長 稅務管理局長 專賣局長 造幣局長
 臨時稅關工事部部长 臨時沖繩縣土地盤理事務局長官

大藏大臣男爵曾禰荒助

○陸軍省令第十五號

明治二十八年陸軍省令第二十號同第二十一號明治三十年陸軍省令第十八號同明治三十三年陸軍省令第二十八號中賜金ノ請求及交付ニ關スル手續左ノ通改ム

明治三十五年五月十六日

陸軍大臣寺内正毅

第一條 賜金ヲ受クヘキ者辭令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ賜金請求書ヲ本人ヨリ直ニ陸軍監督部ニ差出スヘシ

第二條 賜金ハ陸軍監督部ヨリ直接ニ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三條 賜金ヲ受クヘキ者賜金受領前ニ死亡レタルトキハ其ノ繼承者ヨリ死亡届書ニ賜金請求書及戸籍謄本ヲ添ヘ陸軍監督部ニ差出スヘシ

第四條 賜金請求書ニハ在隊者及陸軍官衙學校附ノ者ニ在リテハ所屬長其ノ他ノ者ニ在リテハ市區町村長ヨリ其ノ正當受給者タル證明ヲ受クヘシ

〔參照〕

明治二十八年十月二日陸軍省令第二十號ハ明治二十七八年戰役ニ從事シ公務ノタメ死歿シ又ハ傷疾ヲ受ケ疾病ニ罹リタル者ニ對スル特別賜金ノ件同第二十一號ハ同戰役ニ關シ功勞者ニ賜與セラルヘキ一時賜金ノ件明治三十年七月陸軍省令第十八號ハ同戰役ニ從事シ死歿シタル陸軍軍人軍醫職員備入ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クル資格ナキ者ニ特別賜金支給ノ件明治三十三年八月十日陸軍省令第二十八號ハ同年ノ清國事變ニ從事シ公務ノタメ死シ又ハ傷疾ヲ受ケ疾病ニ罹リタル者ニ對スル特別賜金ノ件ナリ

○陸軍省令第十六號

明治三十一年陸軍省令第十六號中第十二憲兵隊下ノ關分隊欄内「赤間關市」ヲ「下關市」ニ改メ明治三十五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年五月十九日

陸軍大臣寺内正毅

○文部省令第十一號

明治二十五年文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則中左ノ通改正ス

明治三十五年五月十六日

文部大臣理學博士男爵菊池大麓

第八條中「親族二名親族ナキトキハ近隣ノ戶主二名連署シ」市町村長ノ證明ヲ經テ削除ス

〔參照〕

文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則(明治二十五年二月十日)抄録

第八條 府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十二條第十三條第十四條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り親族二名親族ナキトキハ近隣ノ戶主二名連署シ市町村長ノ證明ヲ經テ退隱料ヲ受ケシテ死シタル者ノ遺族ニ在テハ死者ノ最終勤務セシ學校所屬府縣知事ニ退隱料ヲ受ケ死シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ在テハ居住地ノ府縣知事ニ差出スヘシ

○文部省令第十二號

明治二十五年文部省令第二號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則中左ノ通改正ス

明治三十五年五月十六日

文部大臣理學博士男爵菊池大麓

第七條中「親族二名親族ナキトキハ近隣ノ戶主二名連署シ」ヲ削除ス

〔參照〕

文部省令第二號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則(明治二十五年二月十日)抄録

第七條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十條第十一條第十二條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り親族二名親族ナキトキハ近隣ノ戶主二名連署シ退隱料ヲ受ケシテ死シタル者ノ遺族ニ在リテハ死者ノ最終勤務セシ小學校所屬市町村長ニ退隱料ヲ受ケ死シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ在テハ居住地ノ市町村長ニ差出スヘシ

○農商務省令第七號

漁業法施行規則左ノ通相定ム

明治三十五年五月十七日

農商務大臣男爵平田東助

漁業法施行規則

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ漁業法第三條第二項ニ依リ主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業及特別漁業ニ非スシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂フ

第二條 定置漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(張網類漁業)
- 二 落網、上綱及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(落網類漁業)
- 三 側網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(枴網類漁業)
- 四 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(建網類漁業)
- 五 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ(出網類漁業)
- 六 囊網又ハ立回網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設スルモノ(張網類漁業)
- 七 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ資若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陷穽ノ裝置若ハ魚堰ヲ設クルモノ(飯籠類漁業)

第三條 區劃漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ築ヲ建設シテ爲ス養殖業(第一種)
- 二 土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業(第二種)
- 三 前二號ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業(第三種)

第四條 特別漁業ノ種類左ノ如シ

- 一 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業(第一種)
- 二 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業(第二種)
- 三 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業(第三種)
- 四 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業(第四種)
- 五 一定ノ網場ヲ有スル囊待網漁業(第五種)
- 六 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業(第六種)
- 七 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業(第七種)
- 八 一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鱈漁業(第八種)
- 九 一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業(第九種)

第五條 前三條ニ該當スル漁業ノ名稱ハ別ニ之ヲ告示ス

第六條 本則ニ於テ漁場ト稱スルハ定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域ヲ謂ヒ、區劃漁業ニ在リテハ區劃スル區域ヲ謂ヒ、專用漁業ニ在リテハ專用スル區域ヲ謂ヒ、特別漁業中第一種ノ漁業ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域ヲ謂ヒ、第二種ノ漁業ニ在リテハ追込場ノ區域ヲ謂ヒ、第三種及第四種ノ漁業ニ在リテハ網ノ使用區域ヲ謂ヒ、第五種及第六種ノ漁業ニ在リテハ網場ノ區域ヲ謂ヒ、第七種ノ漁業ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域ヲ謂ヒ、第八種ノ漁業ニ在リテハ

漁場ノ區域ヲ謂ヒ、第九種ノ漁業ニ在リテハ築磯ノ區域ヲ謂フ

第七條 同一漁場ニ於テハ同一時期ニ於テ同一名稱ノ漁業ヲ免許セス但シ第三種乃至第六種ノ特別漁業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條 前條ノ外水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益ニ害アリト認ムル漁業又ハ免許ヲ受ケタル漁業ト相容レスト認ムル漁業ハ之ヲ免許セス

第九條 市町村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區ハ從來ノ慣行アルニ非サレハ漁業免許ヲ受クルコトヲ得ス

第十條 同一漁場ニ於テ二以上ノ漁業免許アリタルトキハ關係漁業權者ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ交互ニ其ノ權利ヲ制限セラルモノトス

第十一條 漁業權者ハ其ノ漁場内ニ於ケル他人ノ漁業直接ニ自己ノ漁業ニ妨害アルニ非サレハ其ノ漁業ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 他人ノ專用漁場ニ入漁スルノ權利ヲ有スル者ハ漁業權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行又ハ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 前條ノ規定ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十四條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣ニ之ヲ爲スヘシ

- 一 專用漁業ニ關スルトキ
- 二 二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ
- 三 漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ

前項第二號又ハ第三號ニ該當スル場合ニ於テハ主務大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得

第十五條 農商務大臣ニ出願、申請又ハ届出ヲ爲サルトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第十六條 漁業ニ關スル行政行為ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス

第十七條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
書面ハ專用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ一通ヲ作り
差出人ノ住所及差出ノ年月日ヲ記載シ差出人ノ記名捺印スヘシ

第十八條 二人以上共同シテ漁業ニ關スル權利ヲ享有行使シ又ハ漁業ニ關シ出願若ハ申請ヲ爲ストキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願若ハ申請ノ書面ニ記載スヘシ代表者ノ變更アリタルトキ亦同シ

代表者ハ行政官廳ニ對シ共同シテ漁業ニ關スル權利ヲ享有行使スル者又ハ共同出願者若ハ共同申請者ヲ代表ス

代表者ノ變更ハ第一項ノ手續ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ漁業ニ關シ出願、申請若ハ届出ヲ爲シタル者又ハ漁業權者、入漁者若ハ漁業權ノ借主ニ對シ漁業ニ關スル目論見書其ノ他ノ書類ノ提出、訂正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ指定シタル期間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ慣行ノ公布式ニ依リ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタ

ル日より起算シテ三十日ヲ経過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二章 漁業免許

第二十一條 漁業免許ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ漁場圖正副二通ヲ添附シ行政官廳ニ出願スヘシ
從來ノ慣行ニ因リ漁業免許ノ出願ヲ爲ストキハ前項ノ外其ノ慣行ノ事實ヲ證スヘキ書面ヲ添附
スヘシ

第二十二條 漁業免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地カ他人ノ所有ニ係ルトキハ前條第一項ノ外所有
者又ハ關係人ノ承諾ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ
前項ノ規定ハ從來ノ慣行ニ因ル出願ニハ之ヲ適用セス

第二十三條 漁業免許ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 専用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱
- 二 漁獲物ノ種類
- 三 漁業時期
- 四 免許期間

第二十四條 漁場圖ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 漁場ノ位置
- 二 定置漁業ニ在リテハ漁具建設又ハ敷設ノ形状及間敷、區劃漁業ニ在リテハ漁場ノ區域及面
積其ノ他ノ漁業ニ在リテハ漁場ノ區域

第二十五條 從來ノ慣行又ハ契約ニ因リ共有ノ性質ヲ有スル入會ヲ爲シタル者カ從來ノ慣行ニ因
リ専用漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ入會漁業者連印シテ出願スヘシ但シ連印ヲ爲ササル者

アルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ願書ニ添附スヘシ

第二十六條 從來ノ慣行又ハ契約ニ因リ他人ノ専用漁場ニ入漁シタル者ハ入會其ノ他何等ノ名義
ヲ以テスルニ拘ハラズ専用漁業ノ免許ニ因リテ其ノ權利及義務ニ變更ヲ生スルコトナシ但シ入
漁者ニ於テ本則施行後一箇年以内ニ免許漁業原簿ノ登録ノ申請ヲ爲ササルトキハ此ノ限ニ在ラ
ズ

第二十七條 前條ノ入漁者又ハ本則施行後ノ契約ニ因リ他人ノ専用漁場ニ入漁スル者ハ専用漁業
權者ノ變更又ハ専用漁業免許期間ノ更新ニ因リテ其ノ權利及義務ニ變更ヲ生スルコトナシ但シ
本則施行後ノ契約ニ因ル入漁者ニ於テ免許漁業原簿ノ登録ヲ受ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 漁業免許ヲ與フルトキハ免許狀ニ漁場圖ノ副本ヲ添附シ之ヲ下付スヘシ

- 一 免許番號
- 二 免許年月日
- 三 漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
- 四 漁場ノ位置
- 五 漁業ノ種類及名稱
- 六 漁獲物ノ種類
- 七 漁業時期
- 八 免許期間
- 九 免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ條件又ハ制限ノ事項

十 免許ヲ與ヘタル官廳名

第二十九條 前條第二項第六號及第七號ニ掲ケタル事項又ハ漁場ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ願書ニ免許狀ヲ添附シ變更ノ免許ヲ行政官廳ニ出願スヘシ但シ漁場ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ第二十四條ノ規定ニ依リ漁場圖正副二通ヲ作製シ之ヲ添附スヘシ

前項ノ出願ヲ免許スルトキハ更ニ免許狀ヲ下付スヘシ但シ漁場ノ區域ノ變更ヲ免許スルトキハ之ニ漁場圖ノ副本ヲ添附スヘシ

第三十條 從來ノ慣行ニ因ル専用漁業權者ハ前條ノ規定ニ依リ變更ノ免許ヲ出願スルコトヲ得

第三十一條 第二十八條第二項第三號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ訂正ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

第三十二條 免許期間更新ノ免許ヲ得ムトスルトキハ更新期間及事由ヲ具シ願書ニ免許狀ヲ添附シ免許期間満了ノ日ヨリ三箇月前ニ行政官廳ニ申請スヘシ

前項ノ出願ヲ免許スルトキハ更ニ免許狀ヲ下付スヘシ

第三十三條 漁業權ノ相續、讓渡若ハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ申請書ニ其ノ事由ヲ證スヘキ書面及免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 免許狀ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ再下付ヲ申請スヘシ

第三十五條 漁業權消滅シタルトキハ三十日以内ニ行政官廳ニ免許狀ヲ返納スヘシ

漁業權ノ拋棄ニ因ル消滅ハ免許狀ヲ返納スルニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得

第三十六條 地先水面専用漁業權ノ處分ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ申請スヘシ

第三十七條 漁業休業ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ免許ヲ受ケタル日、休業ノ日又ハ認可期限満了ノ日ヨリ六箇月以内ニ事由ヲ具シ行政官廳ニ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ニ著手シ又ハ再ヒ漁業ニ從事シタルトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ届出ヲ爲ササルトキハ休業シタルモノト看做ス

第三章 漁業權登録

第三十八條 行政官廳ハ免許漁業原簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登録スヘシ

一 漁業免許ヲ與ヘタルトキハ第二十八條第二項第一號乃至第九號ニ掲ケタル事項

二 變更ノ免許ヲ與ヘタルトキハ其ノ事項及年月日

三 免許狀ノ訂正ヲ許可シタルトキハ其ノ事項及年月日

四 免許狀ノ書換ヲ許可シタルトキハ相續又ハ讓渡ニ關シテハ其ノ事由、年月日及相續人若ハ讓受人又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所、共有又ハ代表者ノ變更ニ關シテハ其ノ事由、年月日及代表者ノ氏名若ハ名稱及住所

五 漁業權ノ貸付ニ關シテハ其ノ事由、年月日、期間及借主又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所

六 入漁ニ關シテハ入漁者ノ權利義務及入漁者又ハ其ノ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所

七 免許期間更新ノ免許ヲ與ヘタルトキハ其ノ年月日及期間

- 八 休業ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ事由、年月日及休業期間
 - 九 漁業權ヲ制限又ハ停止シタルトキハ其ノ事由及年月日
 - 十 漁業權ノ消滅ニ關シテハ其ノ事由及年月日
 - 十一 漁業權又ハ入漁者若ハ借主ノ權利ノ差押、假差押又ハ假處分ニ關シテハ其ノ事由及年月日
- 前項第五號及第六號ニ掲ケタル事項ハ申請ニ因リ之ヲ登録スルモノトス
- 第三十九條 行政官廳ハ免許漁業共同人名簿ヲ備ヘ漁業權共有者、共同入漁者及共同借主ノ氏名若ハ名稱及住所、持分ノ定アリタルトキハ其ノ持分並之ニ關スル相續、讓渡、貸付、變更、差押、假差押、假處分ノ登録ヲ爲スヘシ
- 免許漁業共同人名簿ハ免許漁業原簿ノ一部トス
- 第四十條 第三十八條第一項第四號第五號及第十一號ノ規定ハ前條第一項ノ相續、讓渡、貸付、差押、假差押、假處分ノ登録ニ之ヲ準用ス
- 持分ノ變更ニ關シテハ其ノ事由及年月日ヲ登録スヘシ
- 前條第一項ノ相續、讓渡、貸付若ハ變更ノ登録ハ申請ニ因リ之ヲ爲スモノトス
- 第四十一條 行政官廳ハ免許ヲ與ヘタル漁業ノ漁場圖正本ヲ編綴シテ之ヲ備ヘ置クヘシ
- 前項ノ漁場圖ハ免許漁業原簿ノ一部トス
- 第四十二條 他人ノ專用漁場ニ入漁スル權利ヲ有スル者登録ヲ受ケムトスルトキハ當事者雙方連印シテ之ヲ申請スヘシ但シ連印ヲ得ルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ申請スヘシ
- 第二十六條ノ入漁者前項ノ登録ヲ申請スルトキハ申請書ニ其ノ權利ヲ證スヘキ書面ヲ添附スヘシ

- 第四十三條 登録シタル入漁者ノ權利義務ニ變更ヲ生シタルトキハ事由ヲ具シ三十日以内ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
- 前條ノ規定ハ前項ノ申請ニ之ヲ準用ス
- 第四十四條 漁業權又ハ漁業權共有者ノ持分ノ貸付アリタルトキハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ
- 第四十五條 漁業權ノ差押、假差押又ハ假處分ノ命令アリタルトキハ其ノ申請ヲ爲シタル者ハ之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ十五日以内ニ行政官廳ニ届出ツヘシ其ノ取消ノ命令アリタルトキ亦同シ
- 第四十六條 登録シタル入漁者及借主ノ權利並漁業權共有者、登録シタル共同入漁者及共同借主ノ持分ニ相續、讓渡若ハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者雙方ハ其ノ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ登録ヲ申請スヘシ
- 前條ノ規定ハ前項ノ權利及持分ニ之ヲ準用ス
- 第四十七條 漁業權共有者、登録シタル共同入漁者及共同借主ノ氏名若ハ名稱又ハ住所ニ變更アリタルトキハ其ノ變更アリタル者ハ之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
- 前項ノ規定ハ民法第二百五十五條及第二百六十四條ノ規定ニ依リ其ノ持分ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス
- 第四十八條 前五條ノ外當事者ノ申請ニ因リテ登録シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ之ヲ證スヘキ書面ヲ添ヘ三十日以内ニ變更又ハ消滅ノ登録ヲ申請スヘシ但シ代表者ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 行政官廳ニ於テ第三十八條第一項第一號、第二號及第四號乃至第十一號ニ掲ケタル事項ヲ登録シタルトキハ慣行ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五十條 漁業權者其ノ他ノ利害關係者ハ免許漁業原簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ下付ヲ行政官廳ニ申請スルコトヲ得

第四章 繁殖保護及漁業取締

第五十一條 水産動物ヲ疲憊若ハ斃死セシムヘキ有毒物又ハ爆發物ヲ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ捕鯨ノ爲メ爆發物ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 前條ノ規定其ノ他漁業法第十三條ニ依ル命令ハ官署又ハ公署ニ於テ調査又ハ試驗ノ爲水産動物ノ採捕又ハ繁殖ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十三條 漁業法第十三條ニ依ル命令ハ繁殖、學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ水産動物ノ採捕ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

第五十四條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ

第五十五條 定置漁業及特別漁業ニ關シテハ行政官廳ハ漁場取締ノ爲命令ヲ以テ保護區域ヲ設クルコトヲ得

保護區域内ニ於テ漁業ノ妨害トナルヘキ行爲ノ禁止又ハ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

地方長官前二項ノ命令ヲ發スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條 左ニ掲ケタル漁業ハ其ノ漁業ヲ爲ス水面ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 藻手綫網漁業

二 藻打網漁業

三 藻曳網漁業

四 潜水器漁業

五 空釣繩漁業

前項漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付スヘシ

第五十七條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帶スヘシ

第五十八條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用セムトスル者ハ事由ヲ具シ共ノ土地ヲ管轄スル島司又ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ土地カ島司又ハ郡長ノ管轄ニ屬セザルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ漁場標識ノ建設ヲ命セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五十九條 漁場ノ標識ヲ建設スル爲他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スル者ハ其ノ認可書又ハ命令書ヲ携帶スヘシ

第六十條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示スヘシ

第六十一條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標示ヲ爲スヘシ

第五章 裁決

第六十二條 漁業法第二十五條第一項ニ依リ爭議ノ裁決ヲ受ケムトスル者ハ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ申請スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキハ農商務大臣ニ申請スヘシ

第六十三條 前條ノ裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者及争議ノ相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
- 二 申請ノ目的及理由
- 三 立證

第六十四條 争議ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同シ

第六章 罰則

第六十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第三十三條第一項、第五十一條、第五十四條又ハ第五十六條ノ規定ニ違背シタルトキ
- 二 第四十四條又ハ第四十六條ニ依リ漁業權ノ貸付又ハ漁業權共有者ノ持分ノ相續讓渡、共有者ハ貸付ノ登録ヲ申請セザルトキ

三 第四十五條又ハ第四十六條ニ依リ漁業權、登録シタル入漁者若ハ借主ノ權利又ハ漁業權共有者、登録シタル共同入漁者若ハ共同借主ノ持分ノ差押、假差押又ハ假處分ニ關スル届出ヲ爲サザルトキ

- 四 禁漁區内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動物ヲ採捕シタルトキ
- 五 禁漁區ノ標示ヲ移轉シ又ハ毀壞シタルトキ

第六十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

- 一 第三十一條、第三十三條第二項、第三十五條第一項又ハ第五十七條ノ規定ニ違背シタルトキ
- 二 前條第二號ノ場合ヲ除ク、外木則ノ規定ニ依リ登録スヘキ事項ノ登録ノ申請ヲ怠リタルトキ

附則

第六十七條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十八條 本則施行前ニ於テ漁業ニ關シ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ抵觸セザルモノハ漁業法又ハ本則ニ依リ發シタルモノト看做ス

第六十九條 漁業法第三十三條ニ該當スル者ハ本則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ行政官廳ニ免許期間ノ指定ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ササル者ハ廢業シタルモノト看做ス

第七十條 第二十一條第一項、第二十三條、第二十四條、第二十八條、第三十八條、第三十九條及第四十一條ノ規定ハ前條ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十一條 獨立シタル區ヲ爲ササル濱、浦、漁村又ハ漁業者ノ部落ニシテ從來ノ慣行ニ因リ漁業免許ヲ受ケムトスルトキハ漁業組合ヲ組織シテ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ出願スヘシ

第七十二條 本則施行前ヨリ行政官廳ノ許可ヲ受ケ第五十六條第一項ノ漁業ヲ爲ス者ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ鑑札ノ下付ヲ受ケサルモノハ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ管轄地方長官ニ鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ鑑札ノ下付ヲ受クル迄ノ間鑑札ヲ携帯セシメテ漁業ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 本則施行前ヨリ第五十六條第一項ノ漁業ヲ爲ス者ニシテ前條ノ規定ニ該當セザルモノハ本則施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ管轄地方長官ニ許可ヲ出願シタルトキハ許可ノ處分ヲ受ケル迄ノ間仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第七十四條 地方長官ハ本則ニ規定スルモノノ外農商務大臣ノ認可ヲ得テ漁業ニ關スル出願申請又ハ届出ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十五條 本則中市町村町村組合及市町村内ノ區ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ區町村及區町村内ノ部沖繩縣ニ於テハ區間切島間切島組合及區間切島内ノ部ニ之ヲ適用ス

○農商務省令第八號

漁業組合規則左ノ通相定ム

明治三十五年五月十七日

農商務大臣男爵平田東助

漁業組合規則

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ漁業組合ト稱スルハ漁業法第十八條ニ依リ設置スル組合ヲ謂フ

第二條 組合ノ名稱ニハ共ノ地區ノ名稱及漁業組合ナル文字ヲ附スヘシ

漁業組合ニ非シテ其ノ名稱中ニ漁業組合ナル文字ヲ附スルトコトヲ得ス

第三條 組合ノ地區ハ互ニ重複スルトコトヲ得ス

第四條 組合ハ理事共ノ他ノ代理人カ共ノ職務ヲ行フニ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第五條 本則ノ規定ニ依リ地方長官ニ屬スル職權ノ一部ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ下級行政官廳ニ之ヲ委任スルトコトヲ得

第二章 組合ノ設置

第六條 組合ヲ設置セムトスルトキハ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者五名以上發起人ト爲リ其ノ地

區内ニ住所ヲ有スル漁業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ規約ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

特別ノ事由ニ因リ前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ創立總會ヲ開クコトヲ得

第七條 發起人前條第一項ノ同意ヲ求メムトスルトキハ左ノ事項ヲ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ニ通知スヘシ

- 一 地區

二 享有行使セムトスル漁業權

三 同意表示ノ方法及期間

第八條 第六條第一項ノ同意又ハ同條第二項ノ認可アリタルトキハ發起人ハ規約並初年度ニ於ケル經費ノ豫算及賦課徵收法ニ關スル議案ヲ作り遲滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第九條 發起人創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的日時及場所並規約案備附ノ場所及閱覽ノ時間ヲ組合員タルヘキ者ニ通知スヘシ

第十條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱、地區及事務所ノ位置
- 三 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 四 役員ニ關スル規定
- 五 會議ニ關スル規定

六 會計ニ關スル規定

七 漁業權ノ享有行使及之ニ對スル組合員ノ漁業ニ關スル規定

八 違約者處分ニ關スル規定

九 組合員ノ避難救恤ニ關スル事項ヲ定メタルトキハ之ニ關スル規定

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十一條 規約ハ組合員タルヘキ者三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

第十二條 創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ受任者ハ委任狀ヲ發起人ニ差出スヘシ

第十三條 創立總會ヲ終リタルトキハ發起人ハ組合設置ノ認可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ規約、初年度ニ於ケル經費ノ豫算及賦課徴収法、第六條ニ定メタル同意アリタルコトヲ證スル書類及創立總會ノ決議録ノ原本ヲ添付スヘシ

第十四條 組合ノ設置ヲ認可シタルトキハ地方長官ハ其ノ名稱、地區及事務所ノ位置ヲ公告スヘシ之ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第三章 組合ノ管理

第十五條 組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ初回ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ組合員タルヘキ者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

理事及監事ノ選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 理事及監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第十八條 理事ハ組合ノ事務ニ付組合ヲ代表ス但シ組合ト利益相反スル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

理事數入アル場合ニ於テハ組合ノ事務ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 理事ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 經費ノ豫算及賦課徴収法ヲ定ムルコト

二 漁業權又ハ不動產ニ關スル權利ノ得喪、變更ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト

三 基金ノ利用方法ヲ定メ又ハ其ノ支出ヲ爲スコト

四 豫算外ノ支出ヲ爲シ又ハ負債ヲ起スコト

五 組合員ニ非サル者ニ漁業權ヲ貸付シ又ハ之ト入漁ノ契約ヲ爲スコト

六 組合員ヲ除名スルコト

七 訴訟行爲又ハ和解ヲ爲スコト

八 基金ヲ預入ルヘキ銀行ヲ定ムルコト

第二十條 理事ハ經費ノ決算、財産目録、事業報告書、基金ノ積立及剩餘金ノ分配ニ關スル議案ヲ副製シ監事ノ意見書ト共ニ之ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

前項ノ承認ヲ得タルトキハ理事ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 理事ハ規約、前年度ニ於ケル經費ノ決算、其ノ年度ニ於ケル經費ノ豫算、組合員名簿及總會ノ決議録ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 監事ハ理事又ハ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第二十三條 監事ハ組合ノ財産及事務執行ノ狀況ヲ監査ス

第二十四條 監事財産ノ狀況又ハ事務ノ執行ニ付不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク之ヲ總會又ハ監督官廳ニ報告スヘシ

監事ハ前項ノ報告ヲ爲ス爲必要アルトキハ總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十五條 理事共ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ理事ノ缺ケタルトキハ監事共ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三箇月以上ニ亙ルコトヲ得ス

第二十六條 前條ノ規定ニ依リ理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ組合員中ヨリ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 理事ハ毎年度少クトモ一回通常總會ヲ開クヘシ

第二十八條 理事ハ必要アリト認ムルトキハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

組合員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スヘシ但シ此ノ定數ハ規約ヲ以テ之ヲ減スルコトヲ得

第二十九條 總會ヲ招集スルニハ少クトモ會日ノ三日前ニ各組合員ニ對シテ其ノ通知ヲ發スヘシ

前項ノ通知ニハ會議ノ目的及事項ヲ記載スヘシ

總會ニ於テハ前二項ニ依リテ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノ決議ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 組合員ハ各一箇ノ議決權ヲ有ス

第三十一條 組合ト或組合員トノ關係ニ付決議ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ組合員ハ議決權ヲ有セス

第三十二條 總會ノ決議ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十三條 左ノ決議ハ組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 規約變更ノ決議

二 解散ノ決議

三 第十七條、第十九條、第二號乃至第六號及第五十八條ノ決議

四 訴訟行為又ハ和解ヲ爲スコトノ決議

前項第一號乃至第三號ノ決議並經費ノ豫算及賦課徵收法ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十四條 第十二條ノ規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第三十五條 總會カ決議ヲ爲サヌ又ハ爲スコト能ハサルトキハ理事ハ事情ヲ具シテ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ總會ノ決議ニ代ルヘキ命令ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 總會ノ決議法令若ハ規約ニ違背シ又ハ組合員共同ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ理事

ハ其ノ執行ヲ停止シ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第四章 組合ノ會計

第三十七條 組合ニハ收入役ヲ置クヘシ但シ收支寡少ナル組合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ置カサルコトヲ得

收入役ハ總會ニ於テ之ヲ選任シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ初回ノ收入役ハ創立總會ニ於テ之ヲ選任スルコトヲ得

第三十七條及第三十三條ノ規定ハ收入役ノ解任ニ之ヲ準用ス

第三十八條 收入役ハ理事、監事又ハ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十九條 收入役其ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ收入役ノ缺ケタルトキハ理事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三箇月以上ニ亘ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ收入役ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ地方長官ハ假收入役ヲ選任シ收入役ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十條 收入役ハ組合ノ出納ヲ掌リ會計ノ事務ヲ整理ス

第四十一條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ收入役ヲシテ身元保證金ヲ供セシムルコトヲ得

第四十二條 收入役ハ規約及豫算ニ違ヒタル支出ヲ爲スコトヲ得ス

理事カ規約及豫算ニ違ヒタル支出ヲ命シタルトキハ收入役ハ之ヲ地方長官ニ具申シ其ノ指揮ヲ請フヘシ

第四十三條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十四條 組合ノ經費ノ豫算及決算ハ別ニ定ムル所ノ方式ニ從ヒテ之ヲ調製スヘシ

第四十五條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ漁業權ニ依リテ特別ノ利益ヲ受クル組合員ヨリ漁業料ヲ徴收スルコトヲ得

第四十六條 組合ノ收入其ノ經費ヲ支辨シテ剩餘アルトキハ剩餘金額十分ノ一以上ヲ基金トシテ之ヲ積立ツヘシ

基金ハ公債若ハ地方債ヲ買得シ又ハ郵便貯金若ハ一定ノ銀行ニ預入ルルノ外他ニ之ヲ利用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 基金ハ天災、地震其ノ他必要止ムヲ得サル場合又ハ組合員ノ共同ノ利益ヲ増進スルコト顯著ナリト認メラルル場合ノ外之ヲ支出スルコトヲ得ス

第五章 組合員ノ加入、脱退及違約處分

第四十八條 組合ノ地區内ニ一箇年以上住所ヲ有スル者ニシテ組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ミ又ハ其ノ加入ヲ困難ナル條件ニ繋ラシムルコトヲ得ス

第四十九條 組合員ノ家督相續人カ相續ノ日ヨリ三十日以内ニ加入ノ申込ヲ爲シタルトキハ相續ノ日ヨリ組合員タリシモノト看做ス但シ隠居シタル被相續人カ組合ヲ脱退セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ規約ニ違背シタル組合員ヲ除名シ又ハ之ニ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第五十一條 不當ニ加入ヲ拒マレタル者又ハ不當ニ除名セラレ若ハ過怠金ヲ課セラレタル者ハ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第六章 組合ノ解散及清算

第五十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立時期ノ満了其ノ他規約ニ定メタル事由ノ發生
- 二 組合ノ目的タル漁業權享有行使ノ不能
- 三 組合員ノ數カ其ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ノ三分ノ一未滿ト爲リタルトキ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 組合員ノ數カ五人未滿ニ減シタルトキ
- 五 總會ノ決議

前項第一號乃至第四號ノ事由ニ因リ解散シタルトキハ理事ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ地方長官ニ届出ツヘシ

第五十三條 組合ノ解散アリタルトキハ行政官廳ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第五十四條 組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス

第五十五條 組合カ解散シタルトキハ理事共ノ清算人ト爲ル但シ規約ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人缺ケタルトキハ地方長官之ヲ選任ス

第五十六條 清算人ノ選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五十七條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第五十八條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ總會ノ決議ヲ經ヘシ

第五十九條 組合債務完済後ノ剩餘金ハ公共團體又ハ水産組合ニ寄附スヘシ

第六十條 清算カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り總會ノ承認ヲ經タル後之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ決算報告書ニハ組合ノ帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添附スヘシ

第七章 組合ノ監督

第六十一條 組合ハ農商務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十二條 監督官廳ハ何時ニテモ理事若ハ清算人ヲシテ組合ノ事業若ハ清算事務ニ關スル報告ヲ爲シシメ又ハ組合ノ事業、清算事務及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ行フ

郡長前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第六十三條 組合ノ行爲法令又ハ規約ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スト認ムルトキハ監督官廳ハ總會ノ決議若ハ組合ノ行爲ノ取消、役員若ハ清算人ノ解任又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

郡長前項ノ處分ヲ爲サルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六十四條 地方長官設置ノ認可若ハ規約變更ノ認可ヲ與ヘ又ハ解散ヲ命シ若ハ前條第二項ニ依リ解散ノ處分ノ認可ヲ與ヘタルトキハ遲滞ナク之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第八章 罰則

第六十五條 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 二 第二十一條ノ書類ヲ備ヘス又ハ其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 第十九條又ハ第五十八條ニ違背シタルトキ
 四 第六十二條ノ報告ヲ爲ス又ハ検査ヲ拒ミ共ノ他監督官廳ノ命令若ハ處分ニ従ハサルトキ
 第六十六條 組合ノ理事、監事又ハ清算人本則ニ規定シタル届出ヲ爲スコトヲ忘リ又ハ不正ノ届
 出ヲ爲シタルトキハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第六十七條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第六十八條 本則ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島
 嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

○農商務省令第九號

水産組合規則左ノ通相定ム

明治三十五年五月十七日

農商務大臣 野村平田東助

水産組合規則

第一條 本則ニ於テ水産組合又ハ水産組合聯合會ト稱スルハ漁業法第二十二條ニ依リ設置スル組
 合又ハ聯合會ヲ謂フ
 第二條 組合及聯合會ニハ漁業法及本則ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外重要物産同業組合法施
 行規則ノ規定ヲ準用ス
 第三條 組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ其ノ地區ノ名稱及水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文字ヲ附
 スル
 水産組合又ハ水産組合聯合會ニ非ステ共ノ名稱中ニ水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文字ヲ

附スルコトヲ得ス但シ外國領海水産組合法ニ依ル組合又ハ聯合會ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 組合又ハ聯合會ハ漁業權ヲ享有行使スルコトヲ得ス

第五條 組合又ハ聯合會ノ地區ニ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ設置、定款ノ變更、役員ノ選
 任、經費ノ豫算或徵收法及解散ノ認可ハ地方長官ニ之ヲ申請スヘシ
 地方長官前項ノ組合又ハ聯合會ノ設置、定款ノ變更及解散ノ認可ヲ與ヘムトスルトキハ農商務
 大臣ノ認可ヲ經ヘシ

地方長官役員ノ選任或經費ノ豫算及徵收法ヲ認可シタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ
 第六條 前條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ重要物産同業組合法第十四條及第十五條ノ處分
 ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フコトヲ得

第七條 第五條第一項ノ組合又ハ聯合會ニ在リテハ經費ノ決算又ハ業務成績ノ報告及定款又ハ業
 務ノ執行ニ關スル規則ノ届出ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘシ
 地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

附則

第八條 本則ハ漁業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十九年農商務省令第七號漁業組合準則ハ之ヲ廢止ス

第九條 本則施行以前ニ於テ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同
 ノ利益ヲ圖ル爲行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニシテ漁業法及本則ノ規定ニ抵觸セザル
 者ハ本則ノ規定ニ依リ定款ヲ變更シ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ認可ヲ管轄行政官廳
 ニ申請スヘシ

○農商務省令第十號
明治三十二年農商務省令第二十二號及第二十三號ハ北海道地方費ヲ以テ設立スル水産試驗場及水産講習所ニ之ヲ適用ス

明治三十五年五月十七日

農商務大臣 野村平田東助

〔參照〕

明治三十二年ハハ農商務省令第二十二號ハ府縣水産試驗場規程同第二十三號ハ府縣水産講習所規程ナリ

逓信省令第十七號

明治二十三年月十一 逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則中左ノ通改正シ本月十六日ヨリ施行ス但シ木改正施行前ニ於テ貯金通帳ノ交付ヲ受ケタル預ケ人ニ對シテハ第十九條第三項ノ料金ハ施行後三箇月間ハ特ニ之ヲ免除ス

明治三十五年五月三日

逓信大臣 子爵 芳川顯正

第一條中郵便電信局郵便局郵便受取所又ハ郵便貯金預所トアルヲ「郵便局所」ト改ム

第十三條但書ヲ左ノ通改ム

但貯金幾部拂戻ノ場合ニ於テハ十錢以上ノ預ケ金ヲ殘シ置クヘシ

第十四條ヲ左ノ通改ム

第十四條 貯金預ケ人貯金ノ幾部拂戻ヲ要スルトキハ貯金取扱局所ニ於テ交付スル貯金拂戻請求書用紙ニ通帳ノ記號番號金額拂戻金ノ拂渡ヲ受ケムトスル局所名居所及氏名ヲ記載捺印シ之ヲ通帳ノ交付ヲ受ケタル貯金取扱局所ヲ受持區域トスル郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ送付ス

ルカ又ハ之ヲ最寄貯金取扱局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ要スルトキハ前項ノ例ニ依リ貯金拂戻請求書ニ相當事項ヲ記載捺印シ通帳ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

但拂戻請求書ニハ金額ヲ記載セシ其右方餘白ニ全拂ノ文字ヲ記載スヘシ

第十五條第一項中「請求人ノ居所ニ發送スヘシ」トアルヲ「請求人ノ居所ニ發送シ拂戻請求書ハ之ヲ拂渡局所ニ送付ス」ト改ム

第十六條ヲ左ノ通改ム

第十六條 貯金拂戻請求人拂戻證書ヲ受領シタルトキハ其證書記名ノ下ニ關印シ通帳又ハ通帳受取證書ト共ニ之ヲ拂渡局所ニ差出スヘシ

拂渡局所ハ拂戻證書及通帳又ハ通帳受取證書ヲ拂戻請求書ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上拂戻金ヲ交付ス

但貯金幾部拂戻ノ場合ニ於テハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第十八條中「一箇月一回金二十圓」トアルヲ「一箇月一回一回金三十圓」ト改メ且但書ヲ削除ス

第十九條ヲ左ノ通改ム

第十九條 貯金預ケ人特ニ指定シタル貯金取扱局所ニ於テ豫メ特別取扱ノ認可ヲ受クルトキハ前條各號ノ場合ニ限リ金額及回数ニ制限ナク即時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得

貯金預ケ人最初預入ノ際特別取扱ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ預入申込書ノ副本ヲ差出スヘシ

ヲ差出スヘシ此場合ニ於テハ手数料トシテ郵便切手ヲ以テ金五錢ヲ納付スヘシ
貯金取扱局所ニ於テ特別取扱ヲ認可スルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知ス

第二十條ヲ左ノ通改ム

第二十條 貯金預ケ人第十八條又ハ第十九條ニ依リ貯金ノ即時拂ヲ請求セムトスルトキハ貯金取扱局所ニ於テ交付スル貯金即時拂戻請求書用紙ニ相當事項ヲ記載捺印シ通帳ト共ニ之ヲ拂戻ヲ請求セムトスル貯金取扱局所ニ差出スヘシ

貯金取扱局所ニ於テ第十八條ニ依ル即時拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シタル上拂戻證書ヲ調製シ且通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ通帳ト共ニ之ヲ請求人ニ交付ス

但請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シ能ハサル場合ニ於テハ其請求ヲ拒ムコトアルヘシ
貯金取扱局所ニ於テ第十九條ニ依ル即時拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書及通帳ヲ預入申込書副本ト對照シ相違ナキヤ確メタル上前項ノ手續ヲ爲スヘシ

貯金拂戻請求人即時拂戻證書ヲ受領シタルトキハ直ニ記名調印シ之ヲ當該局所ニ差出シ拂戻金ノ交付ヲ受ケヘシ

第二十一條ヲ左ノ通改ム

第二十一條 貯金預ケ人ハ貯金圓位以上ノ幾部拂戻ニ限り電報拂戻ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ手数料トシテ郵便切手ヲ以テ金三十三錢ヲ納付スヘシ

貯金預ケ人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ第十四條第一項ノ例ニ依リ貯金拂戻請求書正副二通ヲ調製シ且金額記載ノ直下ニ電報拂戻ノ文字ヲ記載シ正本ノ餘白ニ手数料ニ相當スル郵便切

手ヲ貼付シ副本ト共ニ之ヲ拂戻金ノ拂渡ヲ受ケムトスル貯金取扱局所ニ差出スヘシ

第二十二條中「左ノ例ニ依リ電報ヲ以テ拂戻許可ノ旨ヲ請求書經由局所及請求人ニ通知スヘシ」トアルヲ電報ヲ以テ拂戻許可ノ旨ヲ拂渡局所ニ通知シ拂渡局所ハ之ヲ請求人ニ通知ス「ト改メ且電報例ヲ削除ス

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

貯金拂戻請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其通知書ヲ拂渡局所ニ差出シ拂戻證書ノ交付ヲ受ケヘシ

第二十三條ヲ左ノ通改ム

第二十三條 第十六條ノ規定ハ貯金電報拂戻金受渡ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條第一項但書ヲ左ノ通改ム

但改印ノ場合ニ於テハ相當保證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ且届書ハ之ニ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經由差出スヘシ

第二十五條ニ左ノ一項ヲ加フ

第十九條ニ依リ特別取扱ノ認可ヲ受ケタル貯金預ケ人第二十四條及前項ノ届書ヲ差出ストキハ各二通ヲ調製シ當該貯金取扱局所ヲ經由差出スヘシ

第二十七條第二項ヲ左ノ通改メ同第三項ヲ削除ス

郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳利子記入ノ手續ヲ了リタルトキハ通帳ハ幾ニ交付セル通帳受取證書ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第二十條中「請求書經由ノ局所ニ回送シ其告知書ヲ請求人ニ送達スルモノトス」トアルヲ「請求人指

定ノ再度通帳交付局所ニ送達ス」ト改ム

第三十一條ヲ削除ス

第三十三條中「手数料金十錢」トアルヲ「手数料金五錢」ト改ム

第三十四條ヲ左ノ通改ム

第三十四條 貯金預ケ人其家督相續人ニ貯金ヲ讓與セムカ爲メ其名前書換ヲ請求セムトスルトキハ通帳ノ記號番號名前書換ヲ請求スル事由預ケ人及相續人ノ居所氏名ヲ記載シタル名前書換請求書ニ預ケ人及相續人連署シ且相續人ノ印鑑ヲ添へ通帳ト共ニ之ヲ貯金取扱局所ニ差出レ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

第三十五條ヲ左ノ通改ム

第三十五條 貯金預ケ人死亡シ其家督相續人又ハ遺産相續人ニ於テ貯金ヲ相續シタル爲メ其名前書換ヲ請求セムトスルトキハ前條ノ例ニ準シ名前書換請求書ヲ調製シ家督相續ノ場合ニアリテハ請求書ニ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ添付スルカ又ハ相當保證人ヲ立テ連署シ又遺産相續ノ場合ニアリテハ請求書ニ相當保證人ヲ立テ連署シ且相續人ノ印鑑ヲ添へ通帳ト共ニ之ヲ貯金取扱局所ニ差出レ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

第三十六條ヲ左ノ通改ム

第三十六條 第三十四條第三十五條ノ場合ニ於テ家督相續人又ハ遺産相續人既ニ自己名義ノ通帳ヲ所持スルトキハ名前書換ノ手續ニ準シ之ニ相續シタル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十七條ヲ左ノ通改ム

第三十七條 郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ第三十四條第三十五條又ハ第三十六條ノ請求

ヲ許可シタルトキハ相當手續ヲ了シ通帳ハ彙ニ交付セル通帳受取證書ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第四十五條ヲ左ノ通改ム

第四十五條 公債證書ノ購入ヲ請求セムトスル者ハ貯金取扱局所ニ於テ交付スル公債證書購入請求書用紙ニ通帳ノ記號番號公債證書ノ種類、額面金額、公債證書保管證書ノ交付ヲ受ケムトスル局所名、居所及氏名ヲ記載捺印シ第十四條第一項ノ例ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スルカ又ハ最寄貯金取扱局所ニ差出スヘシ

但營利ヲ目的トセサル法人ニ於テ本條ノ請求ヲ爲ストキハ購入請求書ニ法人登記ノ謄本又ハ相當證明書ヲ添付スヘシ

第四十七條中「郵便爲替貯金管理所ニ於テ」ノ十二字ヲ削除ス

第四十八條ヲ左ノ通改ム

第四十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ公債證書ヲ購入シタルトキハ其旨ヲ請求人ニ通知シ且公債證書保管證書ヲ請求人指定ノ局所ニ送達ス
請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定局所ニ通帳ヲ差出シ公債證書保管證書ノ交付ヲ請求スヘシ

貯金取扱局所ハ通帳ニ公債證書購入代金及手数料金ヲ記入シ公債證書保管證書ト共ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第五十條ヲ左ノ通改ム

第五十條 保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求セムトスル者ハ貯金取扱局所ニ於テ交付スル公債證

書下渡請求書用紙ニ通帳ノ記號番號、公債證書ノ額面金額保管證書ノ記號番號、公債證書ノ交付
ヲ受ケムトスル局所名居所及氏名ヲ記載捺印シ第十四條第一項ノ例ニ依リ之ヲ郵便爲替貯金管
理所又ハ同支所ニ送付スルカ又ハ最寄貯金取扱局所ニ差出スヘシ

第五十一條第一項中「ヲ回付シ且請求人ニ下渡證書ヲ送達スヘシトアルヲ」及下渡請求書ヲ回付シ
共旨ヲ請求人ニ通知ス「ト改ム

同條第二項ヲ左ノ通改ム

請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前ニ受領シタル公債證書保管證書ヲ下渡局所ニ差出シ且下
渡請求書ニ受領捺印シ公債證書ヲ受領スヘシ

第五十二條ヲ削除ス

第五十三條ヲ左ノ通改ム

第五十三條 貯金預ケ人郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ヨリ檢閲ノ爲メ通帳ヲ差出スヘキ旨通知
ヲ受ケタルトキハ之ヲ差出スヘシ

貯金預ケ人ハ通帳ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ差出シ其檢閲ヲ請求スルコトヲ得
第二十七條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔參照〕

逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則(明治二十三年十一月二十六日)抄錄
第一條 郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便電信局、郵便局、郵便受取所又ハ郵便貯金預所ニ於テ貯金預
入申込書用紙ヲ申受ケ之ニ居所、職業、氏名ヲ記載捺印シ且印鑑ノ部ニ捺印ノ上之ヲ其局所ニ差出シ通帳ヲ受領スヘシ
第十三條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金取扱局所ニ於テモ貯金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但郵便貯金預所ニ於テハ拂戻金ノ拂
渡ヲ取扱ハス

第十四條 貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ要スルトキハ貯金取扱局所ニ設ケアル拂戻請求書用紙ヲ申受ケ之ニ金額、拂戻金ヲ受取
ラント欲スル局所名、居所及氏名ヲ記載捺印シ且印鑑ノ部ニ捺印ノ上通帳ヲ添ヘ之ヲ其局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ受領
スヘシ

但貯金全部拂戻ノ場合ニ於テハ其拂戻金額ヲ記載セズ單ニ全拂ト記載スヘシ

第十五條 貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ其請求書送達ノ日ヨリ五日以内ニ拂戻證
書ヲ調製シ之ヲ請求人ノ居所ニ發送スヘシ

第十六條 貯金拂戻請求人郵便證書ヲ受領シタルトキハ其證書記名ノ下ニ調印シ通帳受取證書ト共ニ之ヲ拂渡局所ニ差出
シ拂戻金ヲ受領シ且通帳ノ返戻ヲ受ケヘシ但貯金全部拂戻ノ通帳ハ返付セサルモノトス

第十八條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ一箇月一箇二十箇迄ノ限リ即時拂戻ノ請求スルコトヲ得
但本條ノ請求ヲ爲ストキハ十箇以上ノ預ケ金ヲ預シ置クヘキモノトス

一預ケ金ヲ爲シタル局所ニ其預入金額ノ内幾部拂戻ヲ請求スル場合

一再度通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ幾部金額ノ内幾部拂戻ヲ請求スル場合

一相續シタル貯金ノ轉帳通帳ノ交付ヲ受ケタル局所ニ其轉記金額ノ内幾部拂戻ヲ請求スル場合

第十九條 貯金即時拂戻ノ請求ヲ受ケタル局所ニ於テ其請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シ能ハサル場合ニ於テハ其請求
ヲ拒ムコトヲ得ヘシ

第二十條 即時拂戻ヲ要スル貯金ノ拂戻證書ハ其拂渡局所ニ於テ之ヲ調製シ其請求人ノ居所ニ送達スルモノトス
但拂戻證書ハ其拂渡局所ニ於テ便宜請求人ニ直ニ交付スルコトアルヘシ

第二十一條 貯金預ケ人ハ貯金單位以上ノ幾分拂戻ニ限リ電報拂戻ヲ請求スルコトヲ得
但其拂戻金ノ拂渡ハ請求書經由ノ局所ニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ郵便切手ヲ以テ手数料金三十三箇ヲ納付シ且第十四條ノ規定ニ依ルノ外尙請求書ノ副本ヲ添フヘ
シ

第二十二條 前條ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ拂戻證書ヲ發行セズ左ノ例ニ依リ電報ヲ以
テ拂戻許可ノ旨ヲ請求書經由局及請求人ニ通知スヘシ
但郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ拂戻施行上特ニ調査ヲ要スルトキハ其旨ヲ請求人ニ通知シ通常拂戻ノ手續ヲ爲
ヌコトアルヘシ此場合ニ於テハ郵便切手ヲ以テ先ニ納付シタル手数料ヲ返付ス

電報例

第二十三條 貯金拂戻請求人前條ノ電報ヲ受ケタルトキハ其電報送達紙ヲ拂渡局所ニ差出シ尙通帳受取證書ヲ示シ同局所
イイニ二三四年ロカス

ヨリ交付スル郵便貯金名ノ下ニ調印シ拂戻金ノ拂渡ヲ受ケヘシ

第二十四條 貯金預ケ人氏名居所印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其旨ヲ郵便為替貯金管理所又ハ同支所ニ届出ヘシ但改印ニ係ル屬書ニハ其印鑑ヲ添フヘシ

第二十五條 共同者ニ於テ總代人ノ變更ヲ要スルトキハ前任後任ノ總代人及加印者連署ヲ以テ後任總代人ノ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ郵便為替貯金管理所又ハ同支所ニ届出ヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ職人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ

第二十七條 第二項第三項 郵便為替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ通帳利子記入ノ手續ヲ了リタルトキハ通帳差出人ニ其通帳書ヲ送達シ通帳ハ其經由局所ニ返付スヘシ

通帳差出人前項ノ通帳書ヲ受ケタルトキハ該ニ領置セル通帳 受取証書ヲ經由局所ニ返納シ利子記入済通帳ヲ受領スヘシ

第三十條 郵便為替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ再度通帳發行通知書ヲ請求書經由ノ局所ニ送達シ其告知書ヲ請求人ニ送達スルモノトス

第三十一條 貯金再度通帳ヲ請求シタル者前條ノ告知ヲ受ケタルトキハ通帳 受取証書ヲ請求書經由ノ局所ニ送達シ新規通帳ノ交付ヲ受ケヘシ

第三十三條 貯金通帳毀損汚斑又ハ亡失ノ爲メ再度通帳ヲ交付スル場合ニ於テハ通帳一冊ニ付手数料金十錢ヲ徴收スヘシ但天災其他避クヘカラサル事故ニ因ルトキハ手数料ヲ免除スルコトアルヘシ

第三十四條 貯金預ケ人其家督相續人ニ貯金ヲ讓與セシカ爲其名前書換ヲ請求スルトキハ預ケ人相續人連署ノ請求書ニ通帳及相續人ノ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經由テ之ヲ郵便為替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スヘシ

第三十五條 貯金預ケ人死亡シ其家督相續人又ハ遺產相續人ニ於テ貯金ヲ相續シタル爲其名前書換ヲ請求スルトキハ職人ヲ立テ其事實ヲ證明シタル名前書換請求書ニ通帳 戸籍更ノ相續證明書又ハ戸籍ノ原本及相續人ノ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經由テ之ヲ郵便為替貯金管理所又ハ同支所ニ送付スヘシ

第三十六條 第三十四條及第三十五條ノ名前書換ヲ要スル場合ニ於テ相續人既ニ自己ノ貯金通帳ヲ所持セルトキハ共ニ其通帳ヲ送付シ其相續シタル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十七條 前三條ノ場合ニ於テ通帳ヲ貯金取扱局所ニ送付シタルトキハ通帳 受取証書ヲ領置スヘシ

第四十五條 公債証書ノ購入ヲ請求スル者ハ其請求書ニ通帳ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ通帳 受取証書ヲ領置スヘシ

第四十七條 公債証書購入ノ代金及手数料ハ郵便為替貯金管理所ニ於テ請求人ノ貯金ヨリ拂出シ且其金額ヲ通帳ニ記入スヘシ

第四十八條 郵便為替貯金管理所ニ於テ公債証書ヲ購入シタルトキハ之ヲ公債証書保管原簿ニ登記シ其保管証書及通帳ヲ

請求書經由ノ局所ヲ經由テ請求人ニ交付スヘシ

保管証書ニハ公債証書ノ配號番號金額購入代價及購入年月日ヲ記載スルモノトス

第五十條 保管ニ係ル公債証書ノ下波ヲ請求スル者ハ其請求書ニ保管証書ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取証書ヲ領置スヘシ

第五十一條 郵便為替貯金管理所ニ於テ公債証書下波請求書ヲ領收シタルトキハ請求人ノ指定シタル貯金取扱局所ニ公債証書ヲ送付シ且請求人ニ下波証書ヲ送達スヘシ

請求人前項ノ下波証書ヲ受ケタルトキハ其証書記名ノ下ニ調印シ前ニ受領シタル受取証書ト共ニ下波局ニ送付シ之ト引換ヘ公債証書ヲ受領スヘシ

第五十二條 第十八條第二十一條第二十七條第二十九條第三十四條第三十五條第三十六條 第四十八條第五十條第五十三條及第五十五條ノ通帳 保管証書 公債証書ヲ通帳又ハ請求書經由局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ其局所ヲ指定スヘシ

第五十三條 貯金預ケ人ハ郵便為替貯金管理所又ハ同支所ヨリ檢閲ノ爲メ通帳ヲ送付スヘシ旨通知ヲ受ケタルトキ又ハ其通帳ノ檢閲ヲ請ハントスルトキハ貯金取扱局所ヲ經由テ之ヲ送付シ其受取証書ヲ領置スヘシ

○逓信省令第十八號

明治三十四年 逓信省令第二十九號ハ本月十五日限り之ヲ廢止ス

明治三十五年五月三日 逓信大臣子爵芳川顯正

〔参照〕

明治三十四年 逓信省令第二十九號ハ在清國北京及天津郵便局並ニ其出張所ニ於テ取扱フ郵便貯金ノ即時拂ハ替分ノ内一箇月二回一圓金五十圓迄ト爲スノ件ナリ

○逓信省令第十九號

明治三十年 逓信省令第三十二號 電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通追加ス

明治三十五年五月二十八日 逓信大臣子爵芳川顯正

「四日市伊丹間金四十五錢金二十錢ノ次ニ
 横濱靜岡間 金四十五錢 金二十錢
 「四日市堺間金五十錢金二十錢ノ次ニ
 名古屋靜岡間 金五十錢 金二十錢
 靜岡池上間 金五十錢 金二十錢
 「桑名西ノ宮間金五十五錢金二十錢ノ次ニ
 東京靜岡間 金五十五錢 金二十錢
 「名古屋西ノ宮間金六十錢金二十錢ノ次ニ
 名古屋靜岡間 金六十錢 金二十錢
 「名古屋神戶間金六十五錢金二十錢ノ次ニ
 名古屋靜岡間 金六十五錢 金二十錢
 ○遞信省令第二十二號

「東京桑名間金一圓十錢金二十五錢ノ次ニ
 靜岡大津間 金九十九錢 金二十錢
 京都靜岡間 金九十九錢 金二十錢
 横濱桑名間金一圓金二十五錢ノ次ニ
 大取靜岡間 金一圓 金二十五錢
 靜岡茨木間 金一圓 金二十五錢
 「東京桑名間金一圓十錢金二十五錢ノ次ニ
 靜岡靜岡間 金一圓十錢 金二十五錢
 靜岡池田間 金一圓十錢 金二十五錢
 靜岡伊丹間 金一圓十錢 金二十五錢
 靜岡四ノ宮間 金一圓十錢 金二十五錢

明治三十年五月遞信省令第七號海員試驗規程中左ノ通改正ス

明治三十五年五月二十九日

遞信大臣子爵芳川顯正

第六條 第三條中甲種船長試驗第一號第二號及第三號ニ掲ケル職務ハ其ノ執職期間ヲ通算シテ一年ニ滿スルトキハ履歷タル效力ヲ有ス甲種一等運轉士試驗第一號及第二號、乙種船長試驗第一號及第二號、乙種一等運轉士試驗第二號及第三號、丙種船長試驗第一號及第二號、機關長試驗第一號及第二號、一等機關士試驗第二號、第三號及第四號ニ掲ケル職務ニ關シテモ亦同シ

〔參照〕

遞信省令第七號海員試驗規程(明治三十年五月二十四日)抄錄

第六條 第三條中乙種船長試驗第一號及第二號ニ掲ケル職務ハ其ノ執職期間ヲ通算シテ一年ニ滿スルトキハ履歷タル效力ヲ有ス乙種一等運轉士試驗第一號及第二號、丙種船長試驗第一號及第二號、機關長試驗第一號及第二號、一等機關士試驗第一號、第二號及第四號ニ掲ケル職務ニ關シテモ亦同シ

○遞信省令第二十一號

明治三十年五月遞信省令第十五號海外電報本邦首尾料中「本邦ト亞細亞露西亞間」ノ欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ追加シ來六月一日ヨリ施行ス

明治三十五年五月三十一日

遞信大臣子爵芳川顯正

本邦ト清國盛京省(旅順口及大連ヲ除ク)吉林省及黑龍江間

高拉日阿新線 十一 二 錢

○外務省令第四號

明治二十七年外務省令第一號外務省留學生規程中左ノ通改正ス

明治三十五年六月二十八日

外務大臣男爵小村壽太郎

第一條中「暹羅語」ノ下ニ「和蘭語」ヲ加フ
第八條第一項中「暹羅文、英文又ハ佛文」ノ下ニ「和蘭語」ヲ講習スヘキ者ハ「和蘭文、英文、佛文又ハ獨文」ヲ加フ

〔參照〕

外務省令第一號外務省留學生規程(明治二十七年一月十七日)抄錄
第一條 外務省留學生ハ支那、朝鮮、暹羅、露西亞、暹羅、又ハ西班牙、附屬地ノ爲外國ニ留學セシムルモノトス
第八條 外務省留學生タラント欲スル者ハ別記甲號條形ニ依リ調製シタル願書ニ履歷書及醫師ノ資格證書ヲ經タル證明書
並支那語又ハ朝鮮語ヲ講習スヘキ者ハ漢文、露西亞語又ハ西班牙語ヲ講習スヘキ者ハ露西亞文、西班牙文、英文又ハ佛文、暹羅語ヲ講習スヘキ者ハ暹羅文、英文又ハ佛文ノ内ヲ以テ起草シタル往復文ヲ添へ試驗期日十日前ニ外務省文官普通試驗委員ニ提出スヘシ

○内務省令第十五號

血清藥院血清賣下規則左ノ通之ヲ定ム

明治三十五年六月十七日

内務大臣男爵内海忠勝

血清藥院血清賣下規則

第一條 血清藥院ニ於テ製造賣下ノ血清ハ左ノ各種トス

一 實布埜利亞血清

一 破傷風血清

第二條 醫師藥劑師又ハ藥種商ニ於テ血清ヲ要スルトキハ直ニ血清藥院ニ賣下ヲ請求スヘシ但製
造上ノ都合ニヨリ直ニ送付スルコト能ハサル場合ニ於テハ血清藥院ヨリ豫メ其ノ送付期日ヲ請
求者ニ通知スヘシ

官衙公署其ノ他公共團體ニ於テハ前項ニ準シ血清ノ賣下ヲ血清藥院ニ請求スルコトヲ得
血清藥院ニ於テ外國ヨリ血清ノ請求ヲ受ケタルトキハ内國ノ供給ヲ妨ケサル限り之ニ應スルコ
トヲ得

第三條 各種血清ノ區別及定價ハ左ノ如シ但運送費ヲ要セス

實布埜利亞血清

破傷風血清

第一號 金六拾錢

第一號 金七拾錢

第二號 金壹圓

第二號 金貳圓五拾錢

第三號 金壹圓五拾錢

固形 金六圓五拾錢

内國ニ於ケル藥劑師(現ニ藥品營業ヲ爲スモノ)藥種商ニハ定價ニ割引ニテ賣下クルヲ以テ定價ヲ超ヘ販賣
スルコトヲ得ス

第四條 外國ニ發送スル血清ノ定價ハ内國賣下價格ノ二倍トス

第五條 血清藥院ニ納付スル血清代價ハ内國ニ在テハ總テ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

第六條 血清請求場數ニ對シ納付ノ代價ニ過不足アルトキハ納付代價相當ノ場數ヲ送付スルモノ
トス

但一壇ノ代價ニ滿タサル分ハ切捨トス

附則

第七條 此規則ハ明治三十五年六月二十日ヨリ施行ス

第八條 明治三十四年内務省令第三十七號實布埜利亞血清賣下規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止
ス

○内務省令第十六號

河川法第四條第二項ニ依レル特別ノ規定左ノ通之ヲ定ム

明治三十五年六月二十五日

内務大臣 野村海忠勝

第一條 河川ノ附屬物カ府縣ノ境界ニ係ルトキハ關係府縣知事ノ一ニ於テ其附屬物ノ全部又ハ其
一部ヲ管理スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テハ關係府縣知事協議ノ上管理ヲ爲スヘキ附屬物及其管理者ヲ定メ内務
大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ協議ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

管理ヲ爲スヘキ附屬物及其管理者確定シタルトキハ關係府縣知事ハ之ヲ告示スヘシ

第三條 管理者タル府縣知事ハ其附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ其維持ヲ爲スノ義務アルモノト
ス

第四條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ニ要スル費用ハ其管理者タル府縣知事ノ管轄スル府縣
ノ負擔トス

前項ノ費用ニ付テハ他ノ關係府縣ヲシテ其一部ヲ負擔セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ明治三十三年内務省令第二十二號ノ規定ヲ準用ス

第五條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ヨリ生スル收入ハ其管理者タル府縣知事ノ管轄スル府縣ニ歸ス

第六條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ニ付テハ各關係府縣知事ニ於テ其管轄區域ニ屬スル部分ノ河川臺帳ヲ調製スヘシ

○内務省令第十七號
治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件携帯禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム

明治三十五年六月三十日

内務大臣男爵内海忠勝

山口縣下玖珂郡廣瀬村河波村深須村ニ於テ明治三十五年七月一日ヨリ明治三十六年十二月三十一日マテ道路改修工事ニ従事スル工夫土方石工及工事請負人ハ戎器爆發物及戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ爆發物ヲ携帯スルハ此限りニ在ラス

○大藏省令第十一號

明治三十五年勅令第五百五十五號第二項ニ依リ骨牌印紙賣下規則左ノ通相定ム

明治三十五年六月四日

大藏大臣男爵曾禰荒助

骨牌印紙賣下規則

第一條 骨牌印紙ハ大藏大臣ノ許可シタル者ニ限り之ヲ賣捌クコトヲ得

第二條 前條ニ依リ骨牌印紙ノ賣捌ヲ許可シタルトキハ大藏大臣ハ賣捌人ノ住所氏名又ハ名稱及賣捌ノ場所ヲ告示スヘシ

第三條 骨牌印紙賣捌人ハ骨牌印紙賣捌ノ場所タルコトヲ表示スル標札ヲ調製シ公衆ノ認メ易キ場所ニ掲出スヘシ

第四條 骨牌印紙ハ額面ニ對シ百分ノ四ノ割引ヲ以テ賣下クヘシ

第五條 骨牌印紙ノ賣下ヲ請求セムトスルトキハ賣捌人ハ代金ヲ前納シ賣下請求書ニ代金ノ納付ヲ證スル書類ヲ添附シ稅務管理局ニ提出スヘシ

賣下代金一回五百圓以上ナルトキハ稅務管理局長ハ利付國債證券ヲ擔保トシ六箇月以內代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

前項國債證券ノ擔保價格ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格ニ依ル

第六條 骨牌印紙賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ額面ニ對シ百分ノ九ノ割引ヲ以テ骨牌印紙ノ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得

一 骨牌印紙損傷、汗染又ハ糊著シタルトキ
二 骨牌印紙不用ニ歸シタルトキ

第七條 骨牌印紙賣捌人ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 買受ケタル印紙ノ金額(額面)及月日
二 賣捌タル印紙ノ金額月日及買受人ノ住所氏名又ハ名稱

第八條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
○大藏省令第十二號

明治三十五年法律第二十三號沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵集ニ關スル法律ニ依リ
物品納ノ國稅ヲ現金ニ換算シテ倉納額ヲ定ムルニハ左ノ價格ニ依ルヘシ

明治三十五年六月五日

大藏大臣男爵曾禰荒助

品名	單位	價格	品名	單位	價格
米	一石	九〇八二	紺細上布	一段	五〇八七
粟	一石	七三九二	紺地細上布	一段	一五三三
麥	一石	七〇八四	白細上布	一段	二九七二
豆	一石	一三六三	白木綿布	一段	〇五七三
胡麻	一石	九〇〇〇	白木綿及紺細上布	一段	六〇九三
大豆	一石	七五〇〇	白細下布	一段	三三二四
			白細上布	一段	七四八五

○大藏省令第十三號

明治三十二年大藏省令第十四號中左ノ通改正ス

明治三十五年六月七日

大藏大臣男爵曾禰荒助

平戶稅關監視署ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

厚前國呼子 呼子稅關監視署

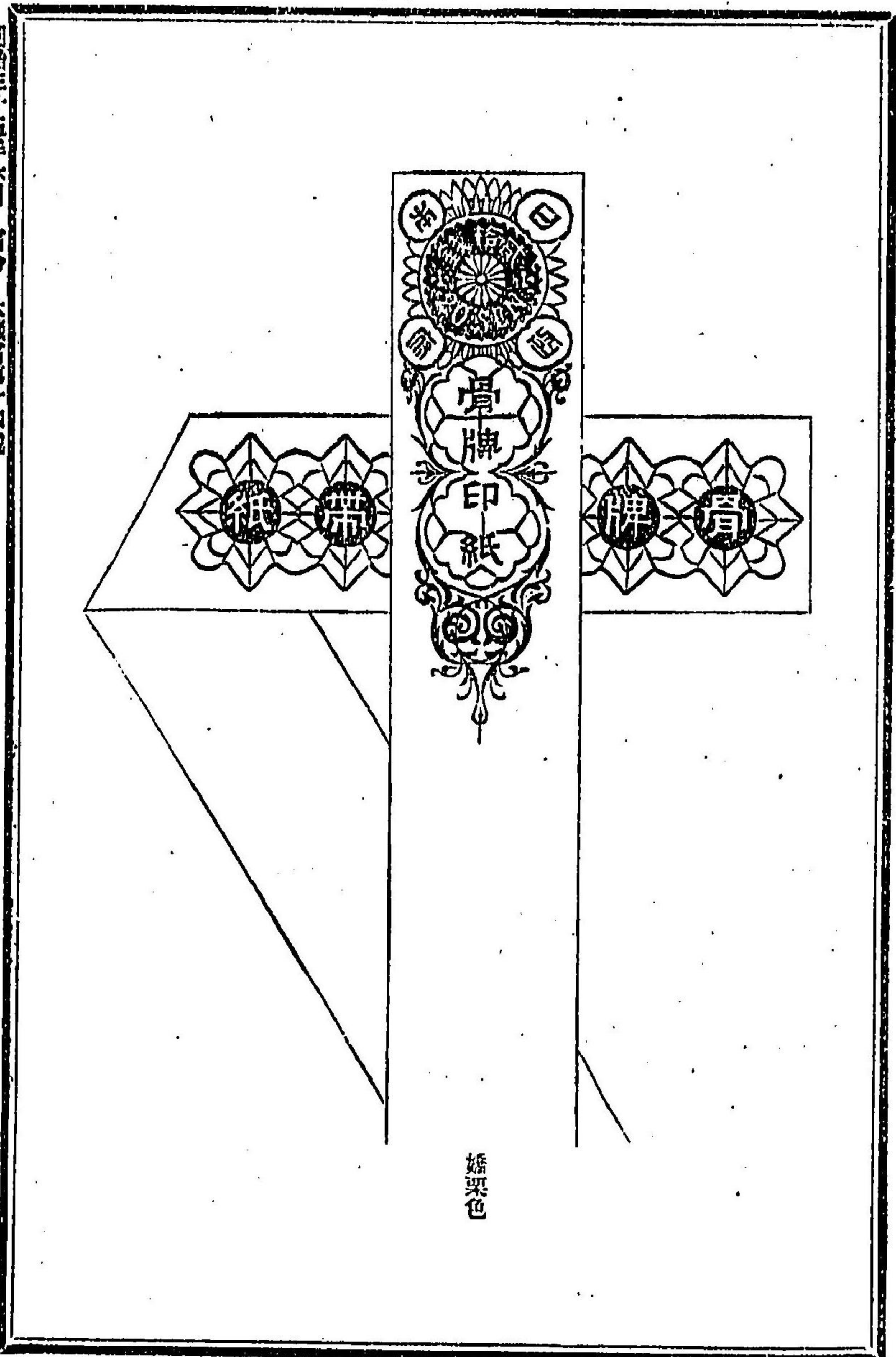
○大藏省令第十四號

明治三十五年勅令第百五十五號第二項ニ依リ骨牌印紙ノ形式及貼用方法左ノ通相定ム

明治三十五年六月十日

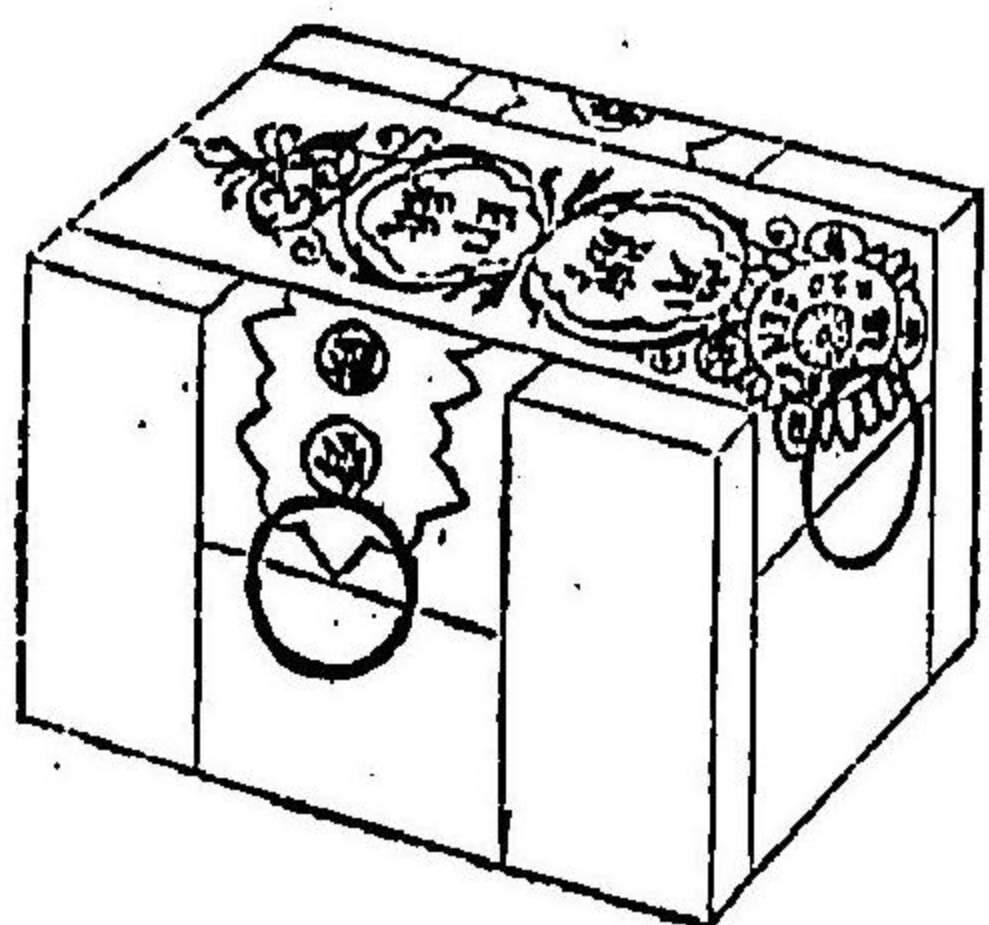
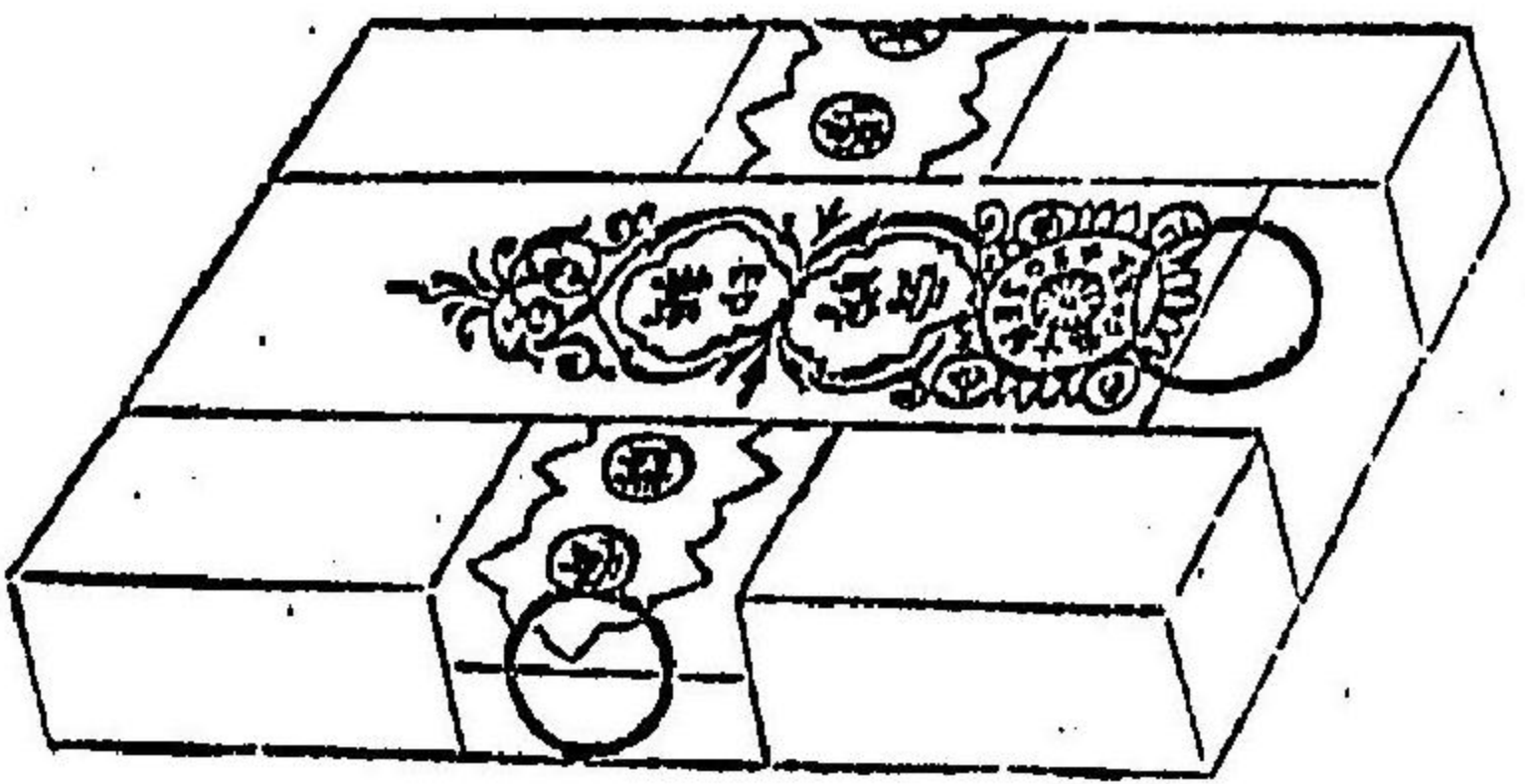
大藏大臣男爵曾禰荒助

第一條 骨牌印紙ノ形式左ノ如シ



嬌栗色

第二條 骨牌印紙ノ貼用方法ハ左ノ如ク包裹ノ外部ヲ四方ヨリ卷キ護謨ノ塗リアルニ箇所ヲ貼付シ其箇所ニ消印スヘシ但シ印紙ノ彩紋ナキ部分ノ餘白ハ適宜之ヲ裁キ棄ツルモ妨ナシ



第三條 骨牌印紙ヲ以テ骨牌ニ帶封ヲ爲シ骨牌税法第六條ノ包裹ニ兼用スルコトヲ得
第四條 骨牌印紙ヲ貼用シタル骨牌ヲ更ニ函入レ又ハ包裹ヲ施ストキハ之ヲ糊著スヘカラス

附則

第五條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

○大藏省令第十五號

稅務支署位置及管轄區域表中廣島稅務管理局ノ部左ノ通改メ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス
明治三十五年六月十七日
大藏大臣男爵曾禰荒助

廣 島 一 下 關 長門國下關 下關市豐浦町

○大藏省令第十六號

明治三十年大藏省令第十號國稅徵收法施行細則附屬書式中左ノ通改正ス

明治三十五年六月二十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第八號書式中「辨償及違約金」トアルヲ「免許及手数料」ニ「辨償金」トアルヲ「手数料」ニ改ム

○陸軍省令第十七號

明治三十一年陸軍省令第十六號中第十憲兵隊舞鶴分隊欄内「餘内村」ヲ「餘部町」ニ改ム

明治三十五年六月九日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第十八號

明治三十四年陸軍省令第十四號陸軍兵籍規則中左ノ通改正ス

明治三十五年六月十一日

陸軍大臣寺內正毅

第二種兵籍樣式備考ニ左ノ一項ヲ加フ

「八 補軍輸卒ノ第一種兵ニ在テハ第一面欄外中央上部ニ職業ヲ朱記スヘシ」

○陸軍省令第十九號

明治三十年陸軍省令第十五號陸軍戰時名簿規則中左ノ通改正ス

明治三十五年六月十一日

陸軍大臣寺內正毅

第二種戰時名簿樣式左方欄外ニ左ノ備考ヲ加フ

備考 備置補率ノ第一種兵ニ在テハ欄外中央上部ニ附屬ヲ朱記スヘシ

○陸軍省令第二十號

陸軍見習醫官、陸軍見習藥劑官、陸軍見習獸醫官、陸軍各部依託學生、同依託生徒、陸軍諸候補生、下士候補生中ノ學及陸軍諸生徒、地方幼年學校生徒、陸軍地測、陸軍常備兵籍ニ編入ス

明治二十三年陸軍省令第十九號及明治二十七年陸軍省令第二號ハ之ヲ廢ス

明治三十五年六月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

明治二十三年六月陸軍省令第十九號ハ陸軍諸生徒（陸軍地測部修技所生徒ヲ除ク）ヲ常備兵籍ニ編入ノ件同二十七年六月二十號ハ陸軍衛生部醫科大學依託學生及陸軍獸醫部醫科大學依託學生ヲ常備兵籍ニ編入ノ件ナリ

○陸軍省令第二十一號

陸軍召募規則中左ノ通改正ス

明治三十五年六月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第一條中「地方幼年學校生徒」ノ下ニ「監督候補生」ヲ「見習藥劑官」ノ下ニ「經理部依託學生、同依託生徒」ヲ加ヘ、「職工長候補生、靴工長候補生」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

監督候補生、見習醫官、見習藥劑官及見習獸醫官召募ニ關シテ本則ニ規定スル外ハ陸軍大臣召募

ノ都度之ヲ定ム

第二條中「靴工長候補生」ヲ削ル

第三條中第一項ノ劃註ヲ左ノ如ク改ム

地方幼年學校生徒、監督候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、各部依託學生、同依託生徒、陸軍地測部修技所生徒ヲ除ク

第四條中「期月」ノ下劃註ヲ「一年」ニ改メ、願者並各部依託學生、同依託生徒、願者ニ在テハ出願ノ期月ニ改メ、地方幼年學校生徒ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ、衛生部依託學生、同依託生徒ヲ、各部依託學生、同依託生徒ニ改メ、獸醫部依託學生、同依託生徒、身長五尺以上

監督候補生、見習醫官、見習藥劑官及見習獸醫官

第五條中「士官候補生」ノ次ニ「監督候補生」ヲ加ヘ、「諸工長候補生」ノ下劃註「軍醫學校生徒六月一日」

及「靴工長候補生」ヨリ採用者ハ六月一日及十二月一日「靴工」ヲ削ル

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

入隊又ハ入校當日身體檢査ノ結果ニ依リ傷痕疾病ノ爲メ候補生又ハ生徒ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ隊長又ハ校長之ヲ除名シ速ニ和服ノ手續ヲ爲シメ後狀ヲ具シ報告スヘシ

第二章ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第三章 監督候補生、經理部依託學生、同依託生徒

第一款 監督候補生

第五十四條 陸軍補充條例第二十九條ノ二第三號及同第八十一條ノ志願者ハ第八條ニ定ムル願

書其ノ他ノ書類ニ在テハ其ノ寫ヲ添ヘテ居住地市町村長ニ差出シ町村長ハ之ヲ郡長ニ差出スヘシ

第五十五條 郡市長ハ前條ノ書類ヲ調査シ與書證印ヲ爲シ又身元明細書第三號ヲ製シ之ヲ書類ニ添附シ受領後三十日以内ニ陸軍省經理局長ニ差出スヘシ

第五十六條 陸軍省經理局長ハ前條ノ書類ヲ審査シ志願者ヲシテ最寄部隊附軍醫ノ身體検査ヲ受ケシメ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ郡市長、町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其ノ採用スヘキ者ニハ監督候補生ヲ命スヘシ

前項ノ身體検査ハ經理局長ヨリ豫メ該部隊長ニ照會シ之ヲ行ハシムヘシ

第二款 經理部依託學生、同依託生徒

第五十七條 經理部依託學生、同依託生徒ノ要員ハ陸軍省經理局長之ヲ帝國大學總長、高等商業學校長ニ通牒シ志願者ヲ召募スルモノトス

第五十八條 志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ヲ帝國大學總長若クハ高等商業學校長ヲ經テ陸軍省經理局長ニ差出シ經理局長ハ本人ノ學力品行等ヲ審査シ且最寄部隊附軍醫ノ身體検査ヲ受ケシメ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ帝國大學總長若クハ高等商業學校長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其ノ採用スヘキ者ニハ依託學生若クハ依託生徒ヲ命スヘシ

前項ノ身體検査ハ經理局長ヨリ豫メ該部隊長ニ照會シ之ヲ行ハシムヘシ

第五十九條 依託學生ハ帝國大學、依託生徒ハ高等商業學校一般ノ規程ニ從ヒ修學セシム

第六十條 依託學生及依託生徒修學中ハ情願ヲ以テ依託學生又ハ依託生徒ヲ辭スルヲ許サス其ノ成業ノ用途ナキ者及品行不正學業懈怠若クハ規則違犯等ノ故ヲ以テ帝國大學總長若クハ高等

商業學校長ニ於テ退學ノ處分ヲ爲スヘキ者又ハ傷痍疾病ノ爲メ休學六箇月以上ニ至リ仍ホ治療ノ見込ナキ者アルトキハ陸軍省經理局長ハ帝國大學總長若クハ高等商業學校長ノ通知ヲ受ケ依託學生若クハ依託生徒ヲ免スヘシ

陸軍省經理局長ハ依託學生、依託生徒ニシテ正當ノ事由ナク學年試験ヲ受ケサル者若クハ學年試験ニ落第シタル者又ハ其ノ品行監督候補生ト爲スニ適セスト認めタル者アルトキハ依託學生若クハ依託生徒ヲ免スルコトヲ得

第六十一條 依託學生及依託生徒ニハ授業其ノ他一切ノ費用ニ充ツル爲メ左ノ金額ヲ支給ス

依託學生 月額金拾五圓

依託生徒 月額金拾圓

第六十二條 依託學生及依託生徒ノ身上其ノ他戶籍ニ異動ヲ生シタルトキハ本人若クハ保證人ヨリ之ヲ陸軍省經理局長ニ届出ヘシ

第六十三條 依託學生及依託生徒其ノ課程ヲ卒ハ卒業試験ヲ終リタルトキハ陸軍省經理局長ハ帝國大學總長若クハ高等商業學校長ヨリ其ノ試験成績等ニ關スル通知ヲ受ケ之ニ監督候補生ヲ命スヘシ

第三章ヲ第四章ニ改メ第六章迄順次繰下ク

第五十四條ヲ第六十七條ニ改メ同條ノ前ニ左ノ三條ヲ加フ

第六十四條 陸軍補充條例第三十一條第三號及同第八十一條ノ二第一號ノ志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ニ在テハ其ノ寫ヲ添ヘテ居住地市町村長ニ差出シ町村長ハ之ヲ郡長ニ差出スヘシ

第六十五條 郡市長ハ前條ノ書類ヲ調査シ與書證印ヲ爲シ又身元明細書第三號ヲ製シ之ヲ書類ニ

添附シ受領後三十日以内ニ陸軍省醫務局長ニ差出スヘシ

第六十六條 陸軍省醫務局長ハ前條ノ書類ヲ審査シ志願者ヲシテ最寄部隊附軍醫ノ身體検査ヲ受ケシメ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ郡市長、町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其ノ採用スヘキ者ニハ見習醫官、見習藥劑官ヲ命スヘシ

前項ノ身體検査ハ醫務局長ヨリ豫メ該部隊長ニ照會シ之ヲ行ハシムヘシ

第五十五條ヲ第六十八條ニ改メ第六十五條迄順次繰下ク

第六十六條ヲ左ノ如ク改ム

第七十九條 軍醫學校生徒召募ノ試験科目及願書差出ノ手續等ハ召募ノ際之ヲ告示ス

第六十七條乃至第七十二條削除

第七十三條ヲ第八十三條ニ改メ同條ノ前ニ左ノ三條ヲ加フ

第八十條 陸軍補充條例第四十一條第三號及同第八十一條ノ三第一號ノ志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ニ在テハ其ノ寫ヲ添ヘテ居住地市町村長ニ差出し町村長ハ之ヲ郡長ニ差

出スヘシ

第八十一條 郡市長ハ前條ノ書類ヲ調査シ與書證印ヲ爲シ又身元明細書^{第三號}ヲ製シ之ヲ書類ニ添附シ受領後三十日以内ニ陸軍省軍務局長ニ差出スヘシ

第八十二條 陸軍省軍務局長ハ前條ノ書類ヲ審査シ志願者ヲシテ最寄部隊附軍醫ノ身體検査ヲ受ケシメ其ノ成績ニ依リ採用スヘキ者ト否トヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ郡市長、町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其ノ採用スヘキ者ニハ見習醫官ヲ命スヘシ

前項ノ身體検査ハ軍務局長ヨリ豫メ該部隊長ニ照會シ之ヲ行ハシムヘシ

第七十四條ヲ第八十四條ニ改メ第八十九條迄順次繰下ク

第九十條ヲ第九十條ニ改メ同條中第八十六條ヲ第九十六條ニ改ム

第九十一條ヲ第九十一條ニ改メ第九十二條ヲ第九十二條ニ改ム

第九十三條ヲ第九十三條ニ改メ同條中第九十一條ヲ第九十一條ニ改ム

第九十四條ヲ第九十四條ニ改メ同條中第九十條ヲ第九十條ニ改ム

第九十五條ヲ第九十五條ニ改メ第九十一條迄順次繰下ク

第一百條ヲ第一百十二條ニ改メ同條中第九十四條ヲ第九十四條ニ改ム

第一百三條ヲ第一百三條ニ改メ第一百一十一條迄順次繰下ク

第七章削除

第二百一十一條ヲ第二百二十二條ニ改メ第二百二十四條迄順次繰下ク

第二百五條ヲ第二百二十六條ニ改メ同條中第二百二十三條ヲ第二百二十四條ニ改ム

第二百六條ヲ第二百二十七條ニ改メ以下順次繰下ク

第一號書式ノ三ヲ左ノ如ク改ム

第一號書式ノ三(用紙表紙自紙)

監督候補生(經理部依託學生、同依託生徒)(見習醫官)(見習藥劑官)(衛生部依託學生、同依託生徒)(見習獸醫官)(獸醫部依託學生、同依託生徒)(見習獸醫官)(獸醫部依託學生、同依託生徒)(衛生部依託學生、同依託生徒)(見習獸醫官)(獸醫部依託學生、同依託生徒)(志願ニ付御許可被成下度御採用ノ上ハ御規則取組ニ相守リ醫ヲ隨軍ニ從事可杜候仍テ月勤ノ體本履歷書卒業証書(尙何免狀)相添ハ身元保證人連署此段奉願候也

府(縣)市(町)村(寄地)住
府(縣)市(町)村(寄地)留

府縣族籍職業
月主レハモテ
氏 名印

年 月 日 生
何年何月何年何月

身元保證人

府縣族籍職業
府(縣)市(町)村(寄地)住(寄留)

同

氏 名印

氏 名印

年 月 日

陸軍省經理局長氏名殿

(經理部依託學生、同依託生徒志願ノ場合ニ在テハ陸軍省經理局長宛ニ志願書、志願生ノ見習醫官、見習藥劑官志願ノ場合ニ在テハ師團軍醫部長宛、軍醫生志願生以外ノ者ノ見習醫官、見習藥劑官志願並衛生部依託學生、同依託生徒志願ニ在テハ陸軍省醫務局長宛、獸醫生ノ見習獸醫官志願ニ在テハ師團獸醫部長宛、獸醫生以外ノ者ノ見習獸醫官志願並獸醫部依託學生、同依託生徒志願ニ在テハ陸軍省軍務局長宛トス)

前書ノ通調書候處相違無之候也
年 月 日

府縣郡市長 氏 名印

陸軍部内ノ志願者ニ在テハ本書式ニ準シ調製スル
第一號書式ノ五中(縫靴工長候補生)ヲ削ル

○陸軍省令第二十二號

陸軍旅費規則中左ノ通改正ス

明治三十五年六月二十八日

陸軍大臣寺內正毅

第一表、第二表、第五表、第十一表ノ各備考中、中將ニシテ親補職ニ在ル者ヲ參謀總長、教育總監、都督

ノ職ニ在ル中將ニ改ム

○海軍省令第六號

明治二十九年海軍省令第四號海軍定期職工採用就業及滿期賜金給與規程中左ノ通改正ム

明治三十五年六月六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一號書式及第三號書式(乙)中「戶籍謄本」ノ下ニ「又ハ抄本」ヲ加ヘ第三號書式(甲)中「戶籍吏」ノ作リタル戶籍謄本相添ヲ削ル

○司法省令第九號

大阪地方裁判所管内大阪區裁判所管轄大阪市西區ニ同區裁判所九條出張所ヲ置キ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

明治三十五年六月二日

司法大臣男爵清浦奎吉

地方裁判所	出張所	管轄
大阪市内	西區ノ内	土佐堀通、京町堀通、阿波座南通、阿波座北通、立賣堀南通、立賣堀北通
土佐堀通	土佐堀通	江戶堀南通
京町堀通	初北通	江戶堀北通
阿波座南通	阿波座南通	初中通
阿波座北通	阿波座北通	初下通
立賣堀南通	立賣堀南通	初南通
立賣堀北通	立賣堀北通	京町堀上通
新町北通	新町北通	阿波座南通
新町南通	新町南通	立賣堀北通
西長堀北通	西長堀北通	立賣堀北通

- 一 漁業免許狀ノ訂正申請書 每一件金二十錢
- 二 漁業免許狀ノ書換申請書 每一件金五十錢
- 三 漁業免許狀ノ再下付申請書 每一件金五十錢
- 四 漁業法施行規則第二十六條又ハ第二十七條ニ依ル入漁者ノ權利ノ登録申請書 每一件金一圓
- 五 免許漁業原簿ノ閱覽申請書 每一件金十錢
- 六 免許漁業原簿ノ謄本又ハ抄本下付ノ申請書 謄本抄本ハ十三行二十五字時一枚ニ付金十錢一枚ニ時タサルモ亦同シ
圖面ハ一枚ニ付金三十錢以上金五圓以下ニ於テ謄寫ノ難點ニ從ヒ行政官廳ノ定ムル金額

第二條 手数料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附則

第三條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第十三號

明治三十二年農商務省令第十八號取引所法施行規則中左ノ通改正ス

明治三十五年六月十七日

農商務大臣男爵平田東助

第四條 發起人ハ買賣取引スヘキ物件ノ種類毎ニ一箇年以上其種類ノ商業ニ從事シタル商人三十人以上タルヘシ

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 會員組織ノ取引所ハ買賣取引スヘキ物件ノ種類毎ニ五十人以上ノ會員アルニ非サル

ハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第十四條第二項 削除

第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十五條ノ二 取引所ニシテ繼續ノ出願ヲ爲サムトスルモノハ願書ニ定款ヲ添付シ免許年限満了前二箇年以内ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ免許年限満了ノ日ヨリ三箇月前ニ其手續ヲ爲サハルモノハ出願ヲ受理セス

第二十條ノ次ニ左ノ六條ヲ加フ

第二十條ノ二 取引所ハ會員及仲買人ノ帳簿ノ種類、記載事項及様式ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十條ノ三 取引所ニ於テ會員及仲買人身元保證金ノ代用有價證券ノ種類及價格ヲ指定シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十條ノ四 取引所ハ其所有及諸預リノ金錢及有價證券ノ保管方法ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ五 取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムル場合ニ於テハ一種又ハ一種以上ノ標準物ヲ定メ格付表ヲ調製シ認可ヲ申請スヘシ

取引所ハ標準物ニ相當スル見本ヲ備ヘ置クヘシ

第二十條ノ六 取引所ニ於テ轉賣買戻相殺ノ方法ヲ用非ントスルトキハ賣買者ノ届出ニ依リ帳簿ニ記載シ之カ相殺ヲ爲シテ其契約ヲ結了スルノ手續ヲ定メ之ヲ定款中ニ規定スヘシ

第二十條ノ七 取引所ハ其市場ニ於テ賣買取引スル物件ノ公定相場ヲ公示スヘシ

公定相場ハ市場ニ於ケル取引價格ニシテ適當ト認メタルモノニ依リ取引所ノ理事長理事之ヲ定ム其決定ノ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ

附則

- 第一條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二條 第二十條ノ二ノ届出ハ明治三十五年九月三十日迄ニ之ヲ爲スヘシ
- 第三條 第二十條ノ四ノ認可ハ明治三十五年九月三十日迄ニ之ヲ申請スヘシ
- 第四條 第二十條ノ二乃至四ニ規定スル事項ニ關シ本令施行前ニ届出ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ届出ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケタルモノト見做ス

〔參照〕

農商務省令第十八號取引所法施行規則(明治三十二年七月二十六日)抄録

第四條 發起人ハ實取引スヘキ物件ノ種類毎二十五人以上ナルヘシ

發起人ハ實取引スヘキ物件ノ各種類ニ付其多數以上ハ其種類ノ營業者ニシテ會社組織ノ取引所ニ於テハ會員又ハ仲買人株式會社組織ノ取引所ニ於テハ仲買人タル資格ヲ有スル者ナルヘシ

第十四條第三項

株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金納入ノ後ニ非サレハ開業スルコトヲ得ス

○農商務省令第十四號

商業會議所法施行規則左ノ通相定ム

明治三十五年六月二十七日

農商務大臣男爵平田東助

商業會議所法施行規則

第一條 商業會議所發起ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書又ハ其ノ附屬書類ニ左ノ事項ヲ記

載シ發起人連署シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 商業會議所設立ノ理由

二 地區

三 議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者及被選舉權ヲ有スヘキ者ノ數

四 發起人カ議員ノ被選舉權ヲ有スヘキ資格

五 創立費豫算

六 市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスルトキハ其ノ特別ノ事情

前項ノ外發起人ハ農商務大臣ノ命ニ依リ商工業ノ狀況其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル書類ヲ

差出スヘシ

市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスル場合ニ於テハ各市町村ニ少クトモ一人

ノ發起人アルコトヲ要ス

第二條 發起人發起ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ發起ノ

認可ハ其ノ效力ヲ失フ

發起人ノ行爲ニシテ法令ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ發起ノ認可ヲ取

消スコトアルヘシ

第三條 發起人設立ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ定款及一年度經費ノ豫定額並議員ノ

選舉權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上カ之ニ同意シタルコトヲ證スル書類ヲ添附シテ農商務大臣ニ

差出スヘシ

市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスル場合ニ於テハ各市町村ニ付キ議員ノ選

選舉ヲ有スヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得タルコトヲ要ス

第四條 農商務大臣商業會議所設立ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ名稱、地區及所在地ヲ告示スヘ

第五條 發起人ハ議員選舉終了後遲滯ナク商業會議所ノ會議ヲ開キ其ノ執行シタル事務ヲ報告シ且創立費決算ノ承認ヲ求ムヘシ

前項ノ會議ニ於テハ經費ノ豫算及賦課徵收方法ヲ議決シ並役員ノ選舉ヲ行フヘシ

發起人ハ第一項ノ承認ヲ經タル創立費決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六條 役員ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク一切ノ書類、物件及事務ヲ役員ニ引繼クヘ

第七條 商業會議所ハ議員ノ當選者アル毎ニ其ノ氏名、職業、身分、住所、生年月、納稅種目及納稅額ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ法人ニ關シテハ其ノ名稱、目的、住所、設立ノ年月日、資本金額又ハ財產ヲ目的トスル出資額、納稅種目及納稅額ヲ報告スヘシ

商業會議所法第九條第三項ニ依リ議員ノ被選舉權ヲ有スル者當選シタルトキハ前項ノ外其ノ主トシテ職務ニ從事スル法人ノ目的、納稅種目、納稅額及資本金額又ハ財產ヲ目的トスル出資額並其ノ法人ニ於ケル地位ヲ報告スヘシ

階級、選舉區又ハ業種ニ分チテ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テハ前二項ノ外當選者ノ屬スル階級、選舉區又ハ業種ヲ報告スヘシ

特別議員ノ選定又ハ任命アリタルトキハ商業會議所ハ履歷書ヲ添付シ其ノ氏名、職業、身分、住所、生年月ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第八條 議員又ハ特別議員ノ退任アリタルトキハ其ノ事由及氏名ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ農商務大臣ニ於テ解任ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 法人議員ニ當選シタルトキハ當選確定ノ日ヨリ二十日以内ニ代表者ノ氏名、其ノ法人ニ於ケル地位、身分、住所及生年月ヲ商業會議所ニ届出ツヘシ代表者變更ノ場合亦同シ

商業會議所ハ前項届出ノ事項ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十條 第七條及第九條ニ依リ報告シタル事項ニ變更アリタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十一條 商業會議所役員ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ添附シ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

役員ノ退任アリタルトキハ其ノ事由及氏名ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ農商務大臣ニ於テ解任ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 商業會議所ハ毎月一回其ノ前月中ニ執行シタル事務ノ要領ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十三條 商業會議所ニ於テ商業會議所法第七條第八號ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ理由ヲ記載シ事業ノ計畫及費用ニ關スル詳細ノ圖書ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十四條 商業會議所ノ經費ハ資本金額ヲ標準トシテ之ヲ賦課スルコトヲ得ス

納稅額ヲ標準トシテ經費ヲ賦課スル場合ニ於テハ營業稅及礦業稅ニ在リテハ其ノ百分ノ二十、五取引所稅ニ在リテハ其ノ百分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

人頭割ハ等級ヲ定メテ之ヲ賦課スルコトヲ得

商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニ對シテハ人頭割ニ依ルノ外經費ヲ賦課ス

ルコトヲ得ス但シ同時ニ商業會議所法第九條第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス
 第十五條 商業會議所ハ其ノ會計年度二箇月前ニ經費ノ豫算及賦課徵收方法ノ認可ヲ農商務大臣
 ニ申請スヘシ但シ創立ノ場合ニ於テハ決議ノ日ヨリ七日以内ニ認可ヲ申請スルコトヲ要ス
 經費豫算及賦課徵收方法ノ變更ノ認可ハ決議ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ申請スヘシ
 第十六條 經費ノ決算ハ財産目錄ヲ添附シ會計年度經過後四箇月以内ニ之ヲ農商務大臣ニ報告ス
 ヘシ

第十七條 商業會議所解散シタルトキハ農商務大臣之ヲ告示スヘシ

第十八條 商業會議所清算人ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ添へ遲滞ナク認可申請書ヲ地方長
 官ニ差出スヘシ

第十九條 地方長官前條ノ認可ヲ與ヘ又ハ清算人ヲ選任シタルトキハ其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十條 清算人ハ就職ノ日ヨリ六箇月以内ニ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ之ヲ商業會議所ノ決
 議ニ附スヘシ

前項ノ清算及財産處分ノ方法ニシテ商業會議所ノ決議ヲ經タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ
 添附シ七日以内ニ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

商業會議所第一項ノ期間内ニ決議ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ清算人ハ其ノ事由ヲ具
 シ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ期間經過後七日以内ニ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十一條 清算終了レタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
 前項ノ報告書ニハ商業會議所ニ屬スル帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添付スヘ
 シ

第二十二條 商業會議所法第三十五條第一項又ハ第三十七條ノ決議ニ關スル認可申請書ニハ法定
 ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書類ヲ添付スヘシ

第二十三條 商業會議所法又ハ本令ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第二十四條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第十五號

商業會議所議員選舉規則

明治三十五年六月二十七日

農商務大臣 野村平田 東助

商業會議所議員選舉規則

第一條 商業會議所ニ於テ階級選舉ヲ行ハムトスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉權者ヲ三級
 又ハ二級ニ分ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ別ニ之ヲ一階級ト爲
 スヘシ若シ其ノ數一階級ヲ爲スニ足ラザルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ前項ニ依リテ定メ
 ル各級ニ編入スルコトヲ得

第二條 選舉權者ヲ分チテ三級ト爲ス場合ニ於テハ選舉權者中經費ノ納額最モ多キ者ヲ合セテ經
 費總額ノ三分一ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ一級以外ノ選舉權者中經費ノ納額多キ者ヲ合セテ經
 費總額ノ殘餘ノ一半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ兩餘ノ選舉權者ヲ三級トス

選舉權者ヲ分チテ二級ト爲ス場合ニ於テハ選舉權者中經費ノ納額最モ多キ者ヲ合セテ經費總額
 ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ兩餘ノ選舉權者ヲ二級トス
 前條第二項ニ依リ一階級ヲ作リタル場合ニ於テハ之ニ屬スル選舉權者ノ經費納額ヲ經費總額ヨ

リ控除シタル殘額ヲ以テ前二項ノ經費總額ト看做ス

各級ノ間經費ノ納額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ納額同シキ者二名以上アルトキハ選舉權ニ關スル要件ヲ具備シタル年數ノ多キ者ヲ上級ニ入ル共ノ年數ニ依リ難キトキハ年數ニ依リ年數ニ依リ難キトキハ商業會議所ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三條 經費納額ニ依リ階級ヲ分ツコト能ハサル場合ニ於テハ商業會議所法第九條ノ納稅額ニ依リ前條ノ規定ニ準シテ選舉權者ヲ分ツヘシ但シ取引所稅ニ關シテハ其ノ二十五分一ヲ以テ納稅額ト看做ス

一人ニシテ商業會議所法第九條第一項各號ノ稅ヲ納ムル者ハ其ノ納稅額ヲ通算スヘシ

第四條 選舉權者ヲ分チテ三級ト爲シタル場合ニ於テハ選舉權者ハ每級各別ニ議員三分一ヲ選舉シ選舉權者ヲ分チテ二級ト爲シタル場合ニ於テハ選舉權者ハ每級各別ニ議員二分一ヲ選舉ス

第一條第二項ニ依リ一階級ヲ作リタル場合ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ階級ヨリ選舉スヘキ議員ノ數ヲ定メ殘餘ノ議員ニ關シテ前項ノ規定ヲ準用ス

第五條 階級選舉法ニ依ル場合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ改選期ニ於テ各級ヨリ議員ノ各半數ヲ改選スヘシ

第六條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉區又ハ投票區ヲ設クルコトヲ得

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員數ハ各區ニ於ケル選舉權者ノ數ニ應シ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第七條 複選舉法ニ依ル場合ニ於ケル議員選舉人ノ數ハ定款ノ定ムル所ニ依ル但シ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉權者ヲ業種ニ分チ各業種ヨリ各別ニ所定ノ員數ノ議員ヲ選舉セシムルコトヲ得

第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 複選舉法ニ依ル場合ニ於テハ議員選舉人ノ選舉ニ限リ階級若ハ業種ニ分チ又ハ選舉區ヲ設ケ選舉ヲ行フコトヲ得

階級選舉法ニ依ル場合ニ於テハ二級若ハ三級ノ選舉ニ限リ選舉區ヲ設クルコトヲ得

第十條 商業會議所ハ設立ノ認可ヲ受ケタル日及毎年一回定款ニ定メタル期日ノ現在ニ依リ選舉權者名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ地方長官ニ差出スヘシ

選舉權者名簿ハ階級選舉法ニ依リ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ階級、選舉區又ハ投票區ヲ設ケテ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ選舉區又ハ投票區、業種ニ分チ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ業種ニ區別シテ調製スヘシ

選舉權者名簿ニハ選舉權者ノ氏名、職業、住所、納稅種目及納稅額ヲ記載スヘシ但シ法人ニ關シテハ其ノ名稱、目的、住所、納稅種目及納稅額ヲ記載スヘシ

商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニ關シテハ前項ノ外其ノ主トシテ職務ニ從事スル法人ノ名稱、目的、納稅種目、納稅額及其ノ資本額又ハ財產ヲ目的トスル出資額並其ノ職務、主トシテ職務ニ從事スル營業所又ハ事務所ヲ記載スヘシ

第十一條 商業會議所選舉權者名簿ヲ調製シタルトキハ十四日以上ニ於テ公示ノ期間ヲ定メ豫メ其ノ期間及場所ヲ公告シ其ノ事務所又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ之ヲ縦覽ニ供スヘシ

第十二條 選舉權者選舉權者名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ縦覽期間内ニ其ノ理由書及證據ヲ具ヘテ之ヲ商業會議所會頭ニ申立ツルコトヲ得

第十三條 會頭前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉權者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ其ノ申立ヲ正當ナラズト決定シタルトキハ直ニ之ヲ申立人ニ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依リ選舉權者名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告シ且之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第十四條 前條第一項ノ決定ニ不服アル申立人又ハ關係人ハ其ノ事由ヲ具シ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ依リ選舉權者名簿ヲ修正ヲ要スルトキハ商業會議所ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ且其ノ要領ヲ公告スヘシ

第十五條 選舉權者名簿ハ第十一條ノ縦覽期間満了後二十日ヲ經テ確定ス

前項ノ名簿ハ次年ノ名簿確定ノ日迄之ヲ據置クヘシ

第十六條 商業會議所ニ於テ職員ノ選舉ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

第十七條 選舉委員ハ三名又ハ五名トシ内一名ヲ委員長トシ委員長ハ郡長又ハ市長ヲ以テ之ニ充ツ郡長又ハ市長事故アルトキハ其ノ代理者其ノ職務ヲ行フ

補充ス

第十八條 選舉區又ハ投票區ヲ設ケメル場合ニ於テハ選舉委員長ハ各選舉區又ハ投票區毎ニ投票管理者及其ノ代理者各一名並立會人二名ヲ選任スヘシ

立會人事故アルトキハ投票管理者ハ臨時ニ立會人ヲ選任スヘシ

第十九條 地方長官ハ選舉ヲ行フヘキ日時及場所ヲ定メ選舉スヘキ職員ノ員數ト共ニ選舉ヲ行フヘキ日ヨリ少クとも十五日前ニ之ヲ告示シ且之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

第二十一條 選舉權者名簿ニ登録セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ選舉權者名簿ニ登録セラルヘキ裁決書ヲ所持スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉權者名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ投票スルコトヲ得ス

第二十二條 法人、女子及無能力者ハ左ノ代人ヲ以テ選舉ヲ行フヘシ但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

一 法人ニ在リテハ其ノ業務ヲ執行スル社員取締役、理事長、理事

二 無能力者ニ非サル女子ニ在リテハ自ラ選任シタル者

三 無能力者ニ在リテハ親權者、後見人、保佐人又ハ夫

代人ハ帝國臣民タル成年ノ男子ニシテ商業會議所法第十三條ニ該當セサル者ナルコトヲ要ス

代人選舉ヲ行ハムトスルトキハ其ノ代人タルコトヲ證スヘキ書面ヲ携帶スヘシ

第二十三條 選舉委員長又ハ投票管理者ハ選舉場ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 投票ヲ爲スコトヲ得ル者 選舉委員其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉ノ事務ニ從事スル者及警察官吏ノ外選舉場ニ入ルコトヲ得ス

第二十五條 選舉委員ハ其ノ決議ニ依リ、投票管理者ハ立會人ノ意見ヲ聞キ投票ヲ爲スコトヲ得サル者ノ投票ヲ拒ムコトヲ得

第二十六條 選舉場ニ於テ演說、討論ヲ爲シ若ハ喧嘩ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議、勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉委員長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉場外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉場閉鎖ノ後ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 投票ノ效力ハ選舉委員之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉委員長之ヲ決ス

第二十八條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ定款ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外投票ニ記載スヘキ被選舉人ノ數ヲ選舉權者又ハ職員選舉人ノ數ニ乘シ選舉スヘキ職員ノ數ヲ以テ之ヲ除シテ得タル數ノ五分一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選者ニシテ當選ヲ辭シ若ハ死亡シタルトキ、被選舉權ヲ有セサル爲メ當選無効ト爲リタルトキ又ハ農商務大臣ノ命ニ依リ當選ヲ取消サレタルトキハ前項ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者ノ中ニ就キ得票ノ順位ニ依リ之ヲ補充ス

本條ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ其ノ順位ヲ定ム

第二十九條 選舉終了シタルトキハ選舉委員長ハ直ニ其ノ結果ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第三十條 選舉委員長ハ選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉委員ノ連署シタル選舉記録二本ヲ作り一本ヲ地方長官ニ差出シ一本ハ投票ヲ添ヘ之ヲ商業會議所ニ交付スヘシ

前項ノ選舉記録及投票ハ職員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ投票ハ有效無効ニ區別シテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條 當選者定マリタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ當選者ニ告知スヘシ

第三十二條 當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

一人ニシテ二以上ノ階級、選舉區又ハ業種ノ選舉ニ當選シタルトキハ最後ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申出ツヘシ其ノ申出ナキトキハ地方長官其ノ當選ノ階級、選舉區又ハ業種ヲ定ム

第三十三條 當選者ナキトキハ地方長官ハ更ニ選舉ヲ行ハシメ當選者選舉スヘキ職員ノ數ニ達セサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ對シ選舉ヲ行ハシムヘシ

第三十四條 第三十二條ニ依リ當選確定シタルトキハ地方長官ハ直ニ其ノ旨ヲ當選者ニ告知スヘシ

當選者ノ氏名ハ地方長官之ヲ告示シ且之ヲ商業會議所ニ通知スヘシ

第三十五條 左ノ各號ニ該當スル者ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉權者名簿ニ登錄セラレタル者
二 選舉委員、投票管理者又ハ立會人ニシテ正當ノ事由ナク本令ニ定メタル義務ヲ缺キタル者

第三十六條 選舉ノ前後ヲ問ハズ左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ刑法ニ規定アル場合ヲ除クノ

外二十五日以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉權者議員選舉人代人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二 選舉ニ關シ酒食遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉場ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三 選舉場ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉權者議員選舉人又ハ代人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者

第三十七條 左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ刑法ニ規定アル場合ヲ除クノ外二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

- 一 詐偽ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者
- 二 選舉權者議員選舉人又ハ代人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者
- 三 選舉委員投票管理者立會人其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉事務ニ關係アル者ニシテ選舉權者議員選舉人又ハ代人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ニ付眞偽ニ拘ラス之ヲ表示シタル者
- 四 選舉ニ關シ選舉權者議員選舉人又ハ代人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者
- 五 選舉委員投票管理者立會人其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉事務ニ關係アル者ニ暴行脅

追ヲ加ヘ又ハ選舉場ヲ騷擾シ又ハ投票投票函其ノ他關係書類ヲ抑留毀壞奪取シタル者
第三十八條 當選者其ノ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ農商務大臣ハ其ノ當選ヲ取消スヘシ

第三十九條 本令中議員選舉ニ關スル規定ハ議員選舉人ノ選舉ニ之ヲ準用ス

第四十條 商業會議所法第五十條第一項ニ依リ議員ノ選舉ヲ行ハムトスルトキハ議員ノ定數選舉方法其ノ他選舉ニ關スル規定ノ認可ヲ受ケタル日ノ現在ニ依リ選舉權者名簿ヲ調製スヘシ
第四十一條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第十六號

商業會議所議員選舉權ニ關スル納稅額及資本額又ハ財產ヲ目的トスル出資額ノ件左ノ通相定ム
明治三十五年六月二十七日 農商務大臣 野村平田東助

第一條 商業會議所法第九條第二項ニ依リ納稅額ニ關スル制限ヲ左表ノ如ク定ム
營業稅 營業稅

第一	東京	納稅額
第二	大阪 橫濱	四十圓以上
第三	京都 神戶 名古屋	三十圓以上
第四	其ノ他	二十圓以上
		十圓以上

取引所稅

商業會議所所在地名	納稅額
第一 東京 大阪 橫濱	一萬圓以上
第二 京都 神戸 名古屋	三千圓以上
第三 其ノ他	千圓以上

第二條 商業會議所法第九條第四項ニ依リ納稅額及法人ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ニ關スル制限ヲ左表ノ如ク定ム

商業會議所所在地名	資本額又ハ出資額	所得稅
第一 東京	五十萬圓以上	三十圓以上
第二 大阪	四十萬圓以上	二十圓以上
第三 橫濱	三十萬圓以上	二十圓以上
第四 京都 神戸 名古屋	二十萬圓以上	十五圓以上
第五 其ノ他	十萬圓以上	十圓以上

第三條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○遞信省令第二十二號

明治三十三年五月遞信省令第二十二號中第六條ヲ削除シ第七條ヲ第六條トス

明治三十五年六月十一日

遞信大臣子爵芳川顯正

〔參照〕

遞信省令第二十二號(明治三十三年五月十八日)抄錄

第六條 總噸數千噸以上ノ船舶製造請負ノ競争ニ加ハラントスルモノハ前各條ニ掲グル資格ノ外左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

- 第一 總噸數千噸以上ノ船舶ヲ製造スルニ適當ナル工場ヲ有シ且ツ同ノ船舶ヲ製造シタル經驗ヲ有スルコト
- 第二 造船機 火 爐ヲ備フル工場ヲ有スルコト

○遞信省令第二十三號

商船學校練習船ノ新造工事請負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ明治三十三年五月遞信省令第二十二號ニ定ムル資格ヲ有スル外左ノ條件ヲ具備スル造船所ヲ有スルコトヲ要ス

- 一 總噸數千五百噸以上ノ鋼製航洋船ヲ製造スルニ必要ナル船臺及諸器械ヲ備フルコト
- 二 造船獎勵法施行細則第八條ノ規定ニ該當スル船體專任技師及機關專任技師各一人以上ヲ置クコト
- 三 總噸數千五百噸以上ノ鋼製航洋船ヲ製造シタル經驗ヲ有スルコト

明治三十五年六月十一日

遞信大臣子爵芳川顯正

○遞信省令第二十四號

明治三十四年八月遞信省令第三十六號出納員現金取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十五年六月十七日

遞信大臣子爵芳川顯正

第一條 第三號中郵便及電信取扱所ノ下ニ「郵便及電信受取所」ノ八字ヲ加ヘ三等郵便及電信局ノ下郵便及電信受取所」ノ八字ヲ削ル

第二條中書記補ノ下「雇及郵便及電信受取所取扱人」ノ十三字ヲ加ヘ「及雇員」ノ三字ヲ削ル

第三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但郵便及電信受取所ノ出納員ハ別ニ定ムル所ニ依リ現金ノ拂込ヲ爲スヘシ
第九條ニ左ノ但書ヲ加フ
但郵便及電信受取所ノ出納員ハ此限ニ在ラス

〔參照〕

逓信省令第三十六號出納員現金取扱規則(明治三十四年八月十日)抄録

第一條 左ノ各局部所屬ニ於テ取扱フ現金ハ出納員ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

一 二等郵便及電信局同支局郵便及電信取扱所並出納員ヲ派出シテ取扱ハシムル三等郵便及電信局郵便及電信受取所ニ於ケル收入金郵便爲替金郵便貯金郵便取立金(第三號)

第二條 出納員ハ前條ノ各局部所屬ニ在勤スル當配書配用及雇員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 出納員ノ領收シタル現金ハ其ノ事務ヲ了シタル時ニ於テ之ヲ其ノ所屬主任出納員或ハ分任出納員ニ拂込ム

第九條 現金ヲ以テ身元保證金ヲ納ムルモノハ毎月十分ノ一以上ノ金額ヲ分納スルコトヲ得

○逓信省令第二十五號

明治三十年 逓信省令第三十一號電話交換規則中左ノ通改正シ來七月一日ヨリ施行ス

明治三十五年六月二十四日

逓信大臣子爵芳川顯正

第九條 加入申込者又ハ加入者在記各號ノ裝置ヲ爲サントスルトキハ其請求書ヲ電話交換局ニ差

出スヘシ但第三號ノ場合ハ加入申込者又ハ加入者私設ノ線條機械及附屬物品ニ關シテハ電話交換局ノ認可ヲ經ヘシ又其維持並交換取扱方法ハ電話交換局ニ於テ指示スルコトアルヘシ

- 一 加入電話機ニ受話器ヲ増設セントスルトキ
- 二 加入電話機設置場所ト同一戸内ニ於テ同一回線中ニ電話機又ハ電鈴ヲ増設セントスルトキ

三 加入電話機設置場所ト同一ナル自己ノ邸宅構内ニ於テ電信法第二條第一號及明治三十三年

月逓信省令第五十一號官廳用電信電話規程第一條第一號ニ依リ施設シタル電話機ヲ交換線

ニ接続セントスルトキ

四 同一邸宅構内ニ二加入以上ノ電話機ヲ有スル加入者カ其電話機ニ共通スル電話機ヲ増設セ

ントスルトキ

五 前各號ニ依リ増設シ又ハ接続シタル電話機受話器若ハ電鈴ヲ撤去シ及接続ヲ變更又ハ廢止

セントスルトキ

第十七條ニ左ノ一項追加

第九條第三號ノ裝置ヲ爲シタル加入者ハ私設電話機ニ依リ前項ノ通話ヲ爲スコトヲ得

第二十一條第二項中第九條ニ據リ機械ヲ増設シ「ノ下」又ハ私設電話機ヲ接続シ「ノ十一」字追加

第二十六條第二項中第九條第二項ヲ第九條第五號ニ改正

第三十二條第二項左ノ通改正

特ニ指定スル長距離電話通信ノ廢止又ハ電話機及其附屬物品ノ移轉又ハ増設機械ノ撤去又ハ電話機ノ變更若ハ私設電話機接続ノ廢止ニ因リ附加使用料ノ消滅又ハ減少スヘキ場合ニ於テモ其期ノ附加使用料ハ之ヲ免除セシ

第四十條第二項ノ次ニ左ノ一項追加

第九條第三號ニ依ル加入者限リニ其接続ヲ變更シ若ハ他ノ線條機械等ヲ連結シタルトキ及故意又ハ過失ニ因リ通話ヲ不良ナラシメタルトキハ其接続ヲ停止スルコトアルヘシ

〔參照〕

逓信省令第三十一號電話交換規則(明治三十年十二月一日)抄録

第九條 加入申込者又ハ加入者同一月内ニ於テ同一機械ノ回線中ニ普通電話機又ハ卓上電話機若ハ電鈴ヲ増設セムトスル
トキハ其請求書第六條ノ電話交換局ニ差出スヘシ
前項ニ據リ増設シタル普通電話機又ハ卓上電話機若ハ電鈴ヲ撤去セムトスルトキハ其請求書第七條ノ電話交換局ニ差出
スヘシ

第三十一條第三項

特別加入區域ニ屬スル加入者又ハ第四條ニ依リ通話ヲ爲ス加入者又ハ第八條ニ據リ卓上電話機ヲ設置シ若ハ第九條ニ據
リ機械ヲ増設シタル加入者ハ電話使用料ノ外附加使用料ヲ納ムヘシ

第二十六條第二項

加入者第十二條ノ取消請求期限ヲ過キテ加入取消ノ請求ヲ爲シタルトキ又ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テ當該加入期
ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ第四條第二項又ハ第八條第三項又ハ第九條第三項若ハ第十三條ノ請求ヲ爲ササルトキ
ハ其次期ニ屬スル電話使用料及附加使用料ヲ納付スヘシ

第三十二條第二項

特ニ指定スル長距離電話通信ノ廢止又ハ電話機及其附屬物品ノ移轉又ハ増設機械ノ撤去若ハ電話機ノ變更ニ因リ附加使
用料ノ消滅又ハ減少スヘキ場合ニ於テモ其期ノ附加使用料ハ之ヲ免除セズ

○遞信省令第二十六號

明治三十年月十二 遞信省令第三十二號第二項附加使用料中増設機械ノ部以下左ノ通改正來七月一日
ヨリ施行ス

明治三十五年六月二十四日

遞信大臣子爵芳川顯正

一 増設機械	普通電話機	年額一箇毎ニ	金十二圓
	卓上電話機	年額一箇毎ニ	金十八圓
	受話機	年額一箇毎ニ	金三圓
	電鈴	年額一箇毎ニ	金八圓
	電話	年額一箇毎ニ	金三圓
	一私設電話機接續	年額私設電話機一箇毎ニ	金十二圓

○外務省令第五號

在天津帝國專管居留地ノ土地ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十五年七月八日

外務大臣男爵小村壽太郎

第一條 在天津帝國專管居留地内ニ於ケル土地ノ永借權ニシテ政府ノ拂下ニ係ルモノハ天津駐在
帝國總領事ノ認可ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ帝國臣民以外ノ者ニ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得ス

第二條 第一條永借權ノ賣渡又ハ讓渡ハ在天津帝國總領事館ノ登録簿ニ登録シタル日ヨリ效力ヲ
生ズ

第三條 登録簿及登録ニ關スル規程ハ領事館令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本令ハ明治三十五年八月一日ヨリ施行ス

○内務省令第十八號

治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件携帶禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム

明治三十五年七月五日

内務大臣男爵内海忠勝

長崎縣下佐世保市、東彼杵郡佐世村、日宇村、北松浦郡江迎村、鹿野村、佐々村、吉井村、世知原村、柚木
村、中里村、皆瀬村、山口村、大野村、志佐村、上志佐村、御厨村、岡川村、今福村、福島村ニ於テ炭坑稼人、土
方稼人、日雇稼人、職工、及工事請負人ハ戎器爆發物及戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帶スルコトヲ得ス
但シ職業ノ爲メ爆發物ヲ携帶スルハ此限ニ在ラス

○内務省令第十九號

治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件携帶禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム明治三十五年八月一日

ヨリ施行ス

明治三十五年七月三十一日

内務大臣男爵内海忠勝

山梨縣甲府市中巨摩郡池田村、松島村、龍王村及北巨摩郡鹽崎村、韭崎町、下條村、駒井村、穴山村、中田村、若神子村、日野春村、秋田村、清春村、笹尾村、小泉村、小淵澤村ニ於テ工事請負人、土方稼人、職工、日雇稼人ハ戎器、爆發物及戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帶スルコトヲ得ス但職業ノ爲メ爆發物ヲ携帶スルハ此限リニ在ラス

○大藏省令第十七號

明治三十二年大藏省令第三十四號左ノ通改正シ明治三十五年八月一日ヨリ施行ス

明治三十五年七月十一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

税關及税關支署臨時開辦特許手数料

一日出ヨリ日没マテ	一時間マテ毎ニ	拾圓
一日没ヨリ午後十二時マテ	同	貳拾圓
一午後十二時ヨリ日出マテ	同	參拾圓
税關支署ニ在テハ其地ノ狀況ニ依リ半額迄ニ低減スルコトヲ得		
税關及税關支署貨物積卸、送致、引取及搬送特許手数料		
一日出ヨリ日没マテ	一時間マテ毎ニ	貳圓
一日没ヨリ午後十二時マテ	同	四圓
一午後十二時ヨリ日出マテ	同	六圓
税關及税關支署構外検査特許手数料		

一検査ニ要スル時間

一時間マテ毎ニ

參圓

但シ旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ

外國貿易船不開港出入特許手数料

一一回ニ付

關稅法施行規則第七十六條ニ依ル手数料

參拾圓

一證明

每一件

貳圓

一輸出入貨物日計表

每一箇月

參拾圓

一其ノ他船舶貨物ニ關スル計表

每一件

五拾錢

○大藏省令第十八號

明治三十二年大藏省令第十七號第四號書式中仕拂期ノ一欄ヲ削除ス

明治三十五年七月十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

〔參照〕

明治三十二年四月二日大藏省令第十七號第四號書式ハ所得稅徵收高計算表ナリ

○大藏省令第十九號

明治三十年大藏省令第十號國稅徵收法施行細則附屬書式中左ノ通追加ス

明治三十五年七月十五日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第二號書式備考ニ左ノ一項ヲ加フ

三 市町村ノ便宜ニ依リ出納區域ニアラサル金庫ヲ指定シタルトキハ豫メ之ヲ其ノ金庫ニ通知スルモノトス

第七號書式備考ニ左ノ一項ヲ加フ

二 收稅官吏ニ於テ税金ヲ領收セントスルトキハ本書ニ依リ領收証ヲ交付シ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收証ニ

第八號書式備考ニ左ノ一項ヲ加フ

二 取捨官吏ニ於テ管理手帳料ヲ領收セントスルトキハ本番ニ依リ領收證ヲ交付シ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證ニ代フルモノトス

○陸軍省令第二十三號

明治三十四年陸軍省令第十四號陸軍兵籍規則中左ノ通改正ス

明治三十五年七月十六日

陸軍大臣寺内正毅

第三條中四ヲ左ノ如ク改ム

四 聯(大)隊附下士ニ在テハ該隊本部中隊附及官術學校附下士並兵卒ヲ除クニ在テハ該中隊中隊ヲ加ササルモ及該官術學校ノハ該隊以下同シ

〔參照〕

陸軍省令第十四號陸軍兵籍規則(明治三十四年十月四日)抄録

第三條 陸軍兵籍ハ左ノ區別ニ從テ所屬軍隊官術及學校ニ備置クモノトス

四 下士兵卒ヲ除クハ聯隊ノハ中隊中隊附ヲ加ササルモ及該隊以下同シ本部若ハ官術學校

○陸軍省令第二十四號

陸軍召集諸費支出規程中左ノ通改正ス

明治三十五年七月十七日

陸軍大臣寺内正毅

第三十七條第二項中「送付スルモノトス」ノ下ニ「但シ演習召集又ハ教育召集中休暇ニテ歸省セル者ノ召集旅費ハ前項ニ依リ支給スルモノトス」ヲ加フ

〔參照〕

陸軍省令第一號陸軍召集諸費支出規程(明治三十三年一月二十三日)抄録

第三十七條 召集旅費ハ本籍地ヨリ到着地迄ノ里程ニ應シテ本籍地所屬ノ旅費支給區域ニ於ケル出納官吏ヨリ支給スルモノトス但シ必要ニ應シ本籍地支給區域外寄附ノ旅費支給所ニ於テ支給スルコトヲ得

演習召集又ハ教育召集中他ノ部隊ノ充員召集及補充召集ニ應スル者ノ召集旅費ハ甲乙部隊間ノ距離ニ依リ演習召集又ハ教育召集前線ニ於テ支給スルモノトシ其ノ部隊動員セサル場合ニ於テハ其ノ召集旅費ハ應召員本籍所屬聯隊區司令官ノ請求ニ應シ充員召集及補充召集部隊所屬ノ聯隊區司令官ヨリ送付スルモノトス

○陸軍省令第二十五號

陸軍召集條例施行細則中左ノ通改正ス

明治三十五年七月十七日

陸軍大臣寺内正毅

第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

郡市長ハ演習召集又ハ教育召集中ノ者ニシテ歸省休暇ヲ許可シタル旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ休暇期間充員召集令狀交付ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第四十八條中「増減」ノ下ニ「及身上ニ異動」ヲ加フ

第六十七條中「休暇ヲ願出ツル者」以下ヲ「歸省休暇ヲ許可シタル者アルトキハ直ニ其ノ人名事由及休暇期日ヲ其ノ本籍地所屬ノ聯隊區司令官及郡市長ニ通知スヘシ」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ休暇中ニ召集解除ヲ爲スル者アルトキハ直ニ召集ヲ解除スヘシ

第七十六條 聯隊區司令官ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ補缺召集名簿第十條式及補缺召集令狀第十條式ヲ作り共ノ令狀ハ直ニ之ヲ郡市長ニ送付シ其ノ名簿ハ召集期日前ヨリ到着時刻迄ノ間

ニ於テ召集部隊長ニ送付シ充員召集名簿又ハ待命員名簿ヲ訂正スヘシ補缺召集名簿調製後發送迄ノ間ニ異動ヲ生シタルトキハ該名簿應否事故ノ區畫ニ記入シ爾後ニ生シタル異動ニシテ必要

ナル事項ハ共ノ都度召集部隊長ニ通知スヘシ
第八様式ノ一元兵種官等標内軍吏部ヲ經理部ニ改ム

〔參照〕

- 陸軍省令第二十九號陸軍召集條例施行細則(明治三十二年十月十一日)抄録
- 第四十八條 市町村長ハ退役將校同相當官進士官ノ増減アリタルトキハ市長ハ之ヲ聯隊區司令官ニ通知シ町村長ハ之ヲ那長ニ報告スヘシ
- 第六十七條 召集部隊長ハ召集中ノ者ニシテ父母ノ疾病危篤又ハ死亡其ノ他止ムヲ得サル事故ノ爲休暇ヲ願出ル者ニ許可ヲ與フルニ力リ其ノ休暇中ニ召集解除ヲ爲スヘキ者ハ直ニ召集ヲ解除スヘシ
- 第七十六條 聯隊區司令官ハ前條ノ邊ヲ受ケタルトキハ聯隊召集令狀ニテ聯隊ヲ作り之ヲ那市長ニ送付シ充員召集名簿又ハ待命員名簿ヲ訂正スヘシ

○海軍省令第七號

海軍ニ於テ實験ノ爲危險物ヲ海中ニ沈置スルニ當リ施行スヘキ手續左ノ通定ム

明治三十五年七月十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

- 第一 危險物沈置區域ハ常ニ白色ノ浮標ヲ以テ之ヲ表示シ且附近適當ノ位置ニハ常ニ番船ヲ碇置シ所要ニ際シテハ通航ノ船舶及漁船等ニ對シ相當ノ指導並注意ヲ爲サシム但シ時宜ニ依リ水路嚮導船ヲ置キ番船ノ職務ヲ兼ネシムルコトアルヘシ
- 第二 前項ノ番船ニハ晝間ハ赤旗及萬國船舶信號旗ノV旗ヲ掲揚シ夜間ハ上下ニ約三尺ヲ隔テ、紅燈三箇ヲ連揚ス
- 第三 天候其ノ他ノ爲番船ヲ碇置スルコト能ハサルトキハ最近陸上ニ見張所ヲ設ケ相當ノ注意ヲ爲サシムルコトアリ

附則

本令ノ手續ヲ施行スル場合ニ限リ危險物沈置區域並其ノ期間等ニ關シテハ從來ノ如ク官報ヲ以テ告示セス

○海軍省令第八號

海軍志願兵家族扶助金支給規則第八條中「毎月末日」ノ下ニ「(三月及九月)」ヲ追加ス

明治三十五年七月三十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

- 海軍省令第四號海軍志願兵家族扶助金支給規則(明治三十一年四月二十七日)抄録
- 第八條 左ノ場合ニ於テハ艦船間其ノ他各部ノ長ハ毎月末日ニ志願兵兵籍ノアル鎮守府經理部ニ通知スヘシ
 - 一 志願兵ニシテ艦船間其ノ他ノ各部若ハ職役ヲ離レタル者アルトキ
 - 二 本項第一ノ者自若クハ捕縛ト爲リタルトキ
 - 三 志願兵禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ及刑期満限ノトキ
 - 四 志願兵進士官ニ任用セラレ若ハ現役ヲ離レ又ハ死亡シタル者アルトキ
 - 五 志願兵ニシテ再服役ニ就キタル者アルトキ
 - 六 徵兵ニシテ志願兵籍ニ編入セラレタル者アルトキ

○司法省令第十二號

山形地方裁判所管内山形區裁判所白鳥出張所管轄羽前國北村山郡横山村ヲ同區裁判所尾花澤出張所ノ管轄ニ改メ同地方裁判所管内酒田區裁判所遊佐出張所管轄羽後國飽海郡飛島村ヲ同區裁判所ノ管轄ニ改メ青森地方裁判所管内五所川原區裁判所板柳出張所管轄陸奥國北津輕郡海澤村ヲ同區裁判所原子出張所ノ管轄ニ改メ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治三十五年七月十一日ヨリ施行ス

司法大臣男爵清浦奎吾